



**2025年度
科目登録の手引き
＜2024年度以降入学用＞**

社会科学部

2025年度学事日程表(社会科学部／社会科学研究科)

春学期 (春クォーター: 4/12(土)～6/3(火)、夏クォーター: 6/4(水)～7/22(火))											
月		火		水		木		金		土	
4月7日	休業期間	4月8日	休業期間	4月9日	休業期間	4月10日	休業期間	4月11日	休業期間	4月12日	授業開始
4月14日		4月15日		4月16日		4月17日		4月18日		4月19日	
4月21日		4月22日		4月23日		4月24日		4月25日		4月26日	
4月28日		4月29日	祝日授業実施日※	4月30日		5月1日		5月2日		5月3日	祝日
5月5日	祝日	5月6日	祝日	5月7日		5月8日		5月9日		5月10日	
5月12日		5月13日		5月14日		5月15日		5月16日		5月17日	
5月19日		5月20日		5月21日		5月22日		5月23日		5月24日	
5月26日		5月27日		5月28日		5月29日		5月30日		5月31日	
6月2日		6月3日		6月4日		6月5日		6月6日		6月7日	
6月9日		6月10日		6月11日		6月12日		6月13日		6月14日	
6月16日		6月17日		6月18日		6月19日		6月20日		6月21日	
6月23日		6月24日		6月25日		6月26日		6月27日		6月28日	
6月30日		7月1日		7月2日		7月3日		7月4日		7月5日	
7月7日		7月8日		7月9日		7月10日		7月11日		7月12日	
7月14日		7月15日		7月16日	教場試験	7月17日	教場試験	7月18日	教場試験	7月19日	教場試験
7月21日	教場試験 祝日授業実施日※	7月22日	教場試験	7月23日	定期試験	7月24日	定期試験	7月25日	定期試験	7月26日	定期試験
7月28日	定期試験	7月29日	定期試験	7月30日	休業期間	7月31日	休業期間	8月1日	休業期間	8月2日	休業期間

秋学期 (秋クォーター: 10/2(木)～11/22(土)、冬クォーター: 11/24(月)～1/27(火))											
月		火		水		木		金		土	
9月29日	休業期間	9月30日	休業期間	10月1日	休業期間	10月2日	授業開始	10月3日		10月4日	修論発表※
10月6日		10月7日		10月8日		10月9日		10月10日		10月11日	
10月13日	祝日授業実施日※	10月14日		10月15日		10月16日		10月17日		10月18日	
10月20日		10月21日	創立記念日 授業実施日	10月22日		10月23日		10月24日		10月25日	
10月27日		10月28日		10月29日		10月30日	臨時休業日	10月31日	臨時休業日	11月1日	早稲田祭 (休講)
11月3日	祝日授業実施日※ 学部デー※	11月4日	学部デー※	11月5日		11月6日		11月7日		11月8日	
11月10日		11月11日		11月12日		11月13日		11月14日		11月15日	
11月17日		11月18日		11月19日		11月20日		11月21日		11月22日	
11月24日	祝日授業実施日※	11月25日		11月26日		11月27日		11月28日		11月29日	
12月1日		12月2日		12月3日		12月4日		12月5日		12月6日	
12月8日		12月9日		12月10日		12月11日		12月12日		12月13日	
12月15日		12月16日		12月17日		12月18日		12月19日		12月20日	
12月22日		12月23日	休業期間	12月24日	休業期間	12月25日	休業期間	12月26日	休業期間	12月27日	休業期間
12月29日	休業期間	12月30日	休業期間	12月31日	休業期間	1月1日	休業期間	1月2日	休業期間	1月3日	休業期間
1月5日	休業期間	1月6日	臨時休業日	1月7日		1月8日		1月9日		1月10日	
1月12日	祝日	1月13日		1月14日		1月15日		1月16日		1月17日	
1月19日		1月20日		1月21日	教場試験	1月22日	教場試験	1月23日	教場試験	1月24日	教場試験 修論発表※
1月26日	教場試験	1月27日	教場試験	1月28日	定期試験	1月29日	定期試験	1月30日	定期試験	1月31日	定期試験
2月2日	定期試験	2月3日	定期試験	2月4日	休業期間	2月5日	休業期間	2月6日	休業期間	2月7日	休業期間

※「学部デー(11/3,4)」は、**社会科学部**設置科目のみ授業を実施しません。社会科学研究科や他学部等設置科目は授業を実施します。

※「修論発表(10/4,1/24)」は、**社会科学研究科**設置科目のみ授業を実施しません。社会科学部や他研究科等設置科目は授業を実施します。

2025年度 社会科学部 学部暦

行事			日程	
4	月	入 学 式	4月	1日(火)～ 2日(水)
春 学 期	春学期授業開始	※春クォーター: 4/12(土)～6/3(火)・夏クォーター: 6/4(水)～7/22(火)	4月	12日(土)
	祝日授業日		4月	29日(火)
	祝日授業休講日	自	5月	3日(土)
		至	5月	6日(火)
	春学期中間試験期間	自	5月	28日(水)
		至	6月	3日(火)
	祝日授業日		7月	21日(月)
	春学期教場試験期間	自	7月	16日(水)
		至	7月	22日(火)
	春学期定期試験期間	自	7月	23日(水)
		至	7月	29日(火)
	試験予備日		7月	29日(火)
	春学期授業終了		7月	29日(火)
	夏季休業期間	自	7月	30日(水)
		至	9月	20日(土)
9	月	卒 業 式 ・ 学 位 授 与 式	9月	20日(土)
9	月	入 学 式	9月	21日(日)
秋 学 期	秋学期授業開始	※秋クォーター: 10/2(木)～11/22(土)・冬クォーター: 11/24(月)～1/27(火)	10月	2日(木)
	祝日授業日		10月	13日(月)
	創立記念日(授業実施)		10月	21日(火)
	臨時休業日		10月	30日(木)
	臨時休業日		10月	31日(金)
	早稲田祭(全学授業休講)	自	11月	1日(土)
		至	11月	2日(日)
	祝日授業日		11月	3日(月)
	学部デー(社会科学部設置科目のみ休講)	自	11月	3日(月)
		至	11月	4日(火)
	秋学期中間試験期間	自	11月	17日(月)
		至	11月	22日(土)
	祝日授業日		11月	24日(月)
	冬季休業期間	自	12月	23日(火)
		至	2026年 1月	5日(月)
	臨時休業日		1月	6日(火)
	祝日授業休講日		1月	12日(月)
	秋学期教場試験期間	自	1月	21日(水)
		至	1月	27日(火)
	秋学期定期試験期間	自	1月	28日(水)
		至	2月	3日(火)
	試験予備日		2月	3日(火)
	秋学期授業終了		2月	3日(火)
	春季休業期間	自	2月	4日(水)
		至	3月	31日(火)
3	月	卒 業 式 ・ 学 位 授 与 式	3月	25日(水)～ 26日(木)

2025年度 社会科学部 科目登録・成績発表日程

学期	項目	日時	申請方法/場所	結果発表	備考
	教養外国語 変更	3/6(木)9:00～3/7(金)17:00	申請フォーム	-	※1
	再履修者 必修英語・教養外国語(春) 登録	3/11(火)9:00～3/12(水)17:00	MyWaseda	～3/14(金)7:00	※2
	1次登録(在学生)	3/18(火)9:00～3/21(金)17:00		～4/7(月)7:00	
	1次登録(新入生)	4/1(火)9:00～4/3(木)17:00		～4/11(金)7:00	
	2次登録	4/7(月)9:00～4/8(火)17:00		～4/23(水)7:00	
	3次登録	4/18(金)9:00～4/19(土)17:00			
	聴講料・実験実習料納入期間	4/24(木)～4/28(月)23:59	コンビニ・ペイジー ・クレジット決済		※3
	成績発表	9/2(火)12:00	MyWaseda	-	
学期	項目	日時	申請方法/場所	結果発表	備考
秋学期	再履修者 必修英語・教養外国語(秋) 登録	9/10(水)9:00～9/11(木)17:00	MyWaseda	～9/16(火)7:00	※2
	1次登録	9/17(水)9:00～9/19(金)17:00		～9/25(木)7:00	
	2次登録	9/25(木)9:00～9/26(金)17:00		～10/1(水)7:00	
	3次登録	10/8(水)9:00～10/9(木)17:00		～10/14(火)7:00	
	聴講料・実験実習料納入期間	10/15(水)～10/20(月)23:59	コンビニ・ペイジー ・クレジット決済		※3
	成績発表	2026年 2/27(金)12:00	MyWaseda	-	

※ 日時は変更される可能性があります。必ず社会科学部HPにて最新の情報を確認してください。

※ 上記期間にWeb申請、社会科学部事務所でのご手続きが行えない場合、代理人による登録・手続きを行ってください。詳細は事務所に相談ください。

※1 【教養外国語の変更について】

入学時に選択した教養外国語は、在学中一度に限り、変更が可能です。詳細は、学部Webサイト「必修外国語の変更申請手続きについて」をご参照ください。

※2 【再履修者 英語・教養外国語 再履修登録について】

新2年生以上で、必修英語もしくは教養外国語の必要単位数を満たしていない場合、再履修を希望する科目を各自Web申請してください。

※社学設置の教養外国語「ドイツ語」・「フランス語」・「中国語」・「スペイン語」について、「初級クラス」のみ不合格の場合は、秋学期の科目登録時に申請してください。
(1年次必修のTutorial Englishが不合格の場合、社学設置の「英語1～2(春または秋)」を不足している単位分履修する必要があります。)

!!注意!!

必修英語の“AWADE”(GEC設置科目)の再履修は1次登録以降に申請してください。

教養外国語の“朝鮮語”(GEC設置科目)、“日本語”(日本語教育研究センター設置科目)の再履修は1次登録以降に申請してください。

※3 【聴講料・実験実習料納入方法について】

保健体育科目や教職科目など、授業料の他に「聴講料・実験実習料」が必要な科目が登録決定した場合、期間内に納入をしてください。

納入方法は、コンビニ・ペイジー・クレジットカードからご自身で選択できます。

CLOSE-UP 2025

▶ 2025 年度より、すべての英語学位プログラム設置科目が 1 次登録より登録可能になります。

これまで一般プログラム学生が 1 次登録で登録できるのは、全学オープン科目に指定されている英語学位プログラム設置科目のみでしたが、今年度からすべての英語学位プログラム設置科目について 1 次登録から登録可能になります（必修科目は除く）。

▶ 抽選時の優先順位が新たに設定されます。

「コース科目」について、抽選時の優先順位が設定されます。詳細は P.44 を確認してください。

▶ 申請情報確認メールおよび登録結果確認メールを廃止します。

申請情報および登録結果については、Web 科目登録画面を確認してください。登録結果は、登録結果発表日の朝 7 時以降に確認ができます。

2025 年度 科目登録の手引き

＜2024 年度以降入学者用＞

—目次—

はじめに

- (1) Support Anywhere ----- P. 7
- (2) 科目登録のよくある質問集 ----- P. 8

I. カリキュラム ----- P.13

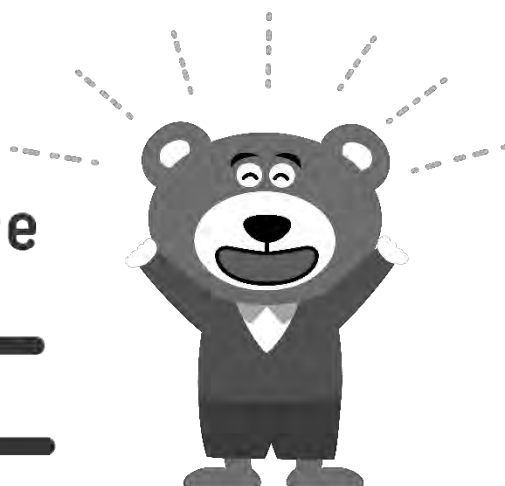
- (1) 卒業要件 ----- P.14
 - 1 - 1 2024 年度以降入学者 ----- P.14
- (2) 分野紹介 ----- P.16
- (3) 履修計画の指針 ----- P.18
 - 3 - 1 ミニマムディシプリン科目 ----- P.18
 - 3 - 2 コース科目 ----- P.19
 - 3 - 3 各ゼミナールにおいて履修が望まれる科目 ----- P.25
- (4) 社会科学部以外で履修できる科目 ----- P.26

II. 科目登録の手続き ----- P.27

- (1) 科目登録手続きのながれ ----- P.28
- (2) 主なルール・注意点 ----- P.34
 - 2 - 1 単位の種類（算入区分） ----- P.35
 - 2 - 2 登録制限単位数・算入上限単位数 ----- P.36
 - 2 - 3 社会科学部以外で履修した科目の単位算入部門 ----- P.40
 - 2 - 4 留学における単位認定・履修計画について ----- P.41
 - 2 - 5 科目名のルールと履修方法 ----- P.43
 - 2 - 6 履修条件の例外科目一覧 ----- P.44
 - 2 - 7 定員と抽選 ----- P.45
 - 2 - 8 決定した科目の取り消し・算入区分変更 ----- P.46
 - 2 - 9 申請情報・登録結果の確認 ----- P.47
 - 2 - 10 聴講料・実験実習料納入 ----- P.48
- (3) WEB 科目登録利用マニュアル ----- P.50

III. 学科目配当表 ----- P.60

Support Anywhere サポエニ



Support Anywhere（サポエニ）は、早稲田大学の学生のみなさんの疑問や不安を
いつでも（Anytime）どこでも（Anywhere） 解決するために開設された
在学生向けお役立ち Web サイトです。

例えば科目登録については以下のような情報が掲載されています！

科目登録で注意しなければいけないことは何？

Web 科目登録はどうやってやるの？

科目登録でわからないことはどこに問い合わせればいいのか？

全学オープン科目って何？他学部提供科目と何が違うの？

科目登録でエラーが出たのはどうして？

資格や副専攻について知りたい！

Etc…

※ 学部・研究科・センターのカリキュラムや科目に関することは該当する学部・研究科・センターから配付される科目登録
関連書類（学部要項・科目登録の手引き・学科目配当表など）を十分確認してください。

その他にも、

#証明書発行 #学費・奨学金 #教員免許状 #成績 #施設利用 #学生生活

など豊富な学内情報をひとまとめに掲載しています。



分からないことや知りたいことがあれば、辞書で調べるような感覚でまずは

Support Anywhere（サポエニ）を使ってみてください。

そして、それでも問題が解決できない場合は、窓口にお問い合わせください。

ブックマークに登録を！

➤ URL: <https://wnpspt.waseda.jp/student/supportanywhere/>

2. 科目登録のよくある質問集

科目登録期間中によく寄せられる質問を登録期間ごとにピックアップしました。科目登録を行う中で分からないことがあればまずこちらをご確認ください。

必修英語について

Q1：科目登録画面の「Tutorial English」に自分のクラスが表示されていないのですが…？

A1：「Tutorial English」のクラス分け日程については GEC 発行の「Tutorial English 履修ガイド」をご参照ください。

Q2：必修英語と取りたい科目の曜日時限が重なるのでクラスを変更したいです。

A2：入学時の LANGX Speaking のスコアに基づいて履修クラスが決定されておりますので、クラスを変更することはできません。

教養外国語について

Q3：入学時に選択した「教養外国語」を変更することはできますか？

A3：在学中に一度だけ変更することができます。なお、変更できる言語は社会科学部設置言語（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語）に限りです。変更を行った場合、既に修得した教養外国語科目は「外国語・地域研究」扱いとなり卒業単位に算入されます。

Q4：教養外国語で選択しなかった社会科学部設置の外国語科目（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語）を「外国語・地域研究」として履修したいのですがどうすればよいでしょうか？

A4：各学期の1次登録開始前に社会科学部事務所からお知らせを発信しますので、そのお知らせに記載された URL からフォームにアクセスして登録申請を行ってください。その際には既に登録されている科目やこれから登録する科目と曜日時限が重複しないよう注意してください。曜日時限が重複していた場合は登録することができません。

再履修について

Q5：必修外国語の再履修申請について、「選外」となる可能性はありますか？

A5：定員に達した場合、「選外」となる可能性があります。各言語で選択可能な希望順位を最大まで選択しないと「選外」になる可能性が高くなりますので、希望順位は極力すべて選択して登録申請するようにしてください。

Q6：1年次に「Tutorial English」が不合格だった場合、再履修のためにもう一度「Tutorial English」を登録すればよいですね？

A6：「Tutorial English」の再履修科目は「英語 1-2（春/秋学期）スピーチ」となりますので、こちらを登録してください。2単位の修得が必要な場合、春学期・秋学期の両方を履修してください。1単位の修得が必要な場合、履修すべき学期の指定はありませんのでいずれかを履修してください。

Q7：1年次春学期に自動登録された5つの入門科目（社会学入門、政治学入門、経済学入門1〔ミクロ経済学〕、経営学入門、法学入門）は、単位を修得できなかった場合、再履修する必要がありますか？

A7：卒業必須要件ではないため、再履修は必須ではありません。なお、再履修し単位を修得した場合は、ミニマムディシプリン科目として卒業単位に算入されます。

コース科目について

- Q8：自分の選択したコース（自コース）以外のコース科目を履修することは可能ですか？その場合、卒業算入単位として扱われますか？
- A8：「専門・学際科目」における他コース科目として履修でき、卒業算入単位として取り扱われます。ただし、申請者多数の場合は、抽選により、自コース科目として履修する学生等が優先されます。抽選時の優先順位については P.45 を確認してください。
- Q9：コース科目が検索に表示されません。
- A9：コース選択後の2年次の秋学期から履修が可能になります。科目の配当年次に関わらず、1年次や2年次の春学期はコース科目の履修ができませんのでご了承ください。
- Q10：コースを変更した場合、変更前のコースで修得した単位はどうなりますか？
- A10：「専門・学際科目」における他コース科目に振り替えられます。また、コース変更前（2年次秋学期）に変更先のコース科目を「専門・学際科目」として単位修得していた場合、「自コース科目」に振り替えられます。

ゼミナールについて

- Q11：ゼミナールの履修は卒業に必須ですか？
- A11：ゼミナールは社会科学部のカリキュラム上の履修方針であり、必須ではありません。

全学オープン科目の取扱について

- Q12：××××学部の「△△△△」という科目は卒業に必要な単位に算入されますか？
- A12：P.40 の「2-3.社会科学部以外で履修した科目の単位算入部門」の表を参考に、お問い合わせの科目がどの科目区分に当てはまるかご確認ください。また、他学部の科目を登録する際は科目設置箇所の履修ルールに従ってください。

科目区分について

- Q13：Web シラバス上の科目区分に表示される「基盤専門科目」や「先進専門科目」とはなんですか？
- A13：Web シラバス上では、2023 年度以前入学者のカリキュラムにおける科目区分が表示されます。2024 年度以降入学者のみなさんは P.60 以降の「Ⅲ. 学科目配当表」にて科目区分を確認してください。

登録制限単位数について

- Q14：たくさん科目を登録申請したら「登録制限単位数オーバーエラー」と表示されました。どうすればよいですか？
- A14：1～3 年生は半期 24 単位、年間 40 単位、4 年生以上は半期 28 単位、年間 48 単位までしか卒業算入科目として登録できません。それ以上に科目登録したい場合は「超過履修」の区分を選んで登録してください。なお、超過履修科目・自由科目といった卒業必要単位に算入しない科目を含め、年間登録単位数の上限の目安は 49 単位です。

オンライン 60 単位制限について

Q15：卒業単位に算入できるオンライン科目は 60 単位までと聞きました。これまでに修得したオンライン科目の単位数を確認したいです。

A15：成績照会画面の科目名末尾に「[Online]」とついている科目が 60 単位制限の対象となります（不合格科目は対象外です）。オンライン科目を 61 単位以上修得していた場合でも、卒業要件の 124 単位の中で、対面授業科目が 64 単位を超えていれば問題ありません。詳細は P.39 を確認してください。

科目の検索について

Q16：「□□□□□□」という科目が検索しても表示されなくて困っています！どうにかしてください！

A16：履修を希望する科目が科目検索に表示されない場合はまず以下①～③をご確認ください。それでも科目が表示されない、もしくは科目が表示されない原因が分からない場合は社会科学部事務所までご連絡ください。

①履修を希望する科目のシラバスで開講学期と配当年次を改めてご確認ください。

→ほとんどの科目が開講する学期に登録可能となります。また、配当年次より学年が下の場合は検索に表示されません。

②履修を希望する科目が「休講」になっていないか最新の情報を社会科学部 Web サイトでご確認ください。

→開講予定であった科目が直前で「休講」になる場合があります。その場合は学部 Web サイトにて周知します。

③履修を希望する科目が「コース科目」となっているか学科科目配当表をご確認ください。

→2024 年度以降入学者におけるコース科目は、科目に設定されている配当年次に関わらず、コース選択後の 2 年次秋学期以降に履修可能です。

科目登録を行った際に表示されるエラーについて

Q17：「登録制限単位数オーバーエラー」と表示されているのですが、登録申請をすることができたのでエラーを解消せずにこのまま科目登録期間を終えてもいいですか？

A17：エラーを解消しないまま科目登録を終えた場合は、制限単位数内に登録単位数をおさめるために無作為に登録申請した科目が「不可」となり登録自体ができない、又は科目区分が「超過履修」（卒業非算入）に変更されて登録されます。その為、必ずエラーを解消してから科目登録期間を終えてください。

Q18：「○○（科目名）Ⅱ」という科目を登録しようとすると「前提条件エラー」と表示され登録できません。

A18：科目名末尾にⅠ・Ⅱとつく科目は積み上げ科目となり、「○○（科目名）Ⅰ」の合格がⅡ履修の前提条件となります。なお、春学期に「○○（科目名）Ⅰ」に合格した場合、秋学期に「○○（科目名）Ⅱ」が自動登録されます。

科目取消について

Q19：前学期に「○○（科目名）Ⅰ」の単位を修得したところ、今学期「○○（科目名）Ⅱ」が自動登録されていました。これは必ず履修する必要がありますか？

A19：履修は任意です。希望しない場合は 1 次登録からご自身で取り消すことが可能です。

卒業算入単位の確認について

Q20：これまでに修得した単位で卒業要件を満たしているか不安です。事務所で確認してもらうことはできますか？

A20：事務所では個別の確認は行っておりませんのでご自身で確認してください。「MyWaseda＞成績照会＞単位修得状況の照会」において、「所定」欄に記載の必要単位数を、「算入」欄のとおり修得している場合は卒業必要単位数を満たしていることになります。詳細は、社会科学部 Web サイト＞「在学生の方へ」＞「成績」を確認してください。

—2 次登録—**科目の検索について**

Q21：1 次登録では科目検索画面に表示されていた科目が、検索しても表示されず困っております。

A21：履修を希望する科目が科目検索画面に表示されない場合は、科目の設置（開講）学部に応じて以下をご確認ください。それでも原因が分からない場合は社会科学部事務所までご連絡ください。

①社会科学部設置科目の場合：

→社会科学部 Web サイトの科目登録のページにて公開している「余裕定員表」で履修を希望する科目の定員をご確認ください。履修定員に達した段階でその科目は「締切」となります。「締切」となった科目は検索に表示されなくなります。

②他学部設置科目の場合：

→「全学オープン科目」のみに指定されている科目の場合、検索できるのは 1 次登録期間中のみとなります。「他学部提供科目」にも指定されている場合には定員に余裕があれば 3 次登録にて表示される可能性があります。

③グローバルエデュケーションセンター設置科目の場合：

→グローバルエデュケーションセンター Web サイトにて「余裕定員表」より履修を希望する科目の定員をご確認ください。履修定員に達した段階でその科目は「締切」となります。「締切」となった科目は検索に表示されなくなります。

曜日時限の重複について

Q22：1 次登録期間に登録した科目と履修したい科目の曜日時限が重複しているのですが、どうすればよいですか？

A22：3 次登録期間にて現在登録されている科目を取り消してから、履修したい科目を登録申請してください。ただし、2 次登録期間で定員に達した場合は 3 次登録で登録申請をすることはできませんのでご注意ください。

—3 次登録—**科目取消/区分変更について**

Q23：取り消したい科目が取り消せません。

A23：科目によって取消可否が異なります。P.46 を確認してください。

Q24：誤って取り消すつもりではなかった科目を取り消してしまったのですが、元に戻すことはできませんか？

A24：残念ながら一度取り消された科目を「登録」に戻すことはできません。再度登録申請からお願いします。なお、取り消してしまった科目が既に募集を締め切っている場合は再度登録申請をすることもできませんのでお気をつけください。

Q25：「超過履修」（卒業非算入）として登録した科目を後から卒業算入に変更することはできますか？

A25：一度「超過履修」として登録された科目を卒業算入の区分に変更することはできません。

聴講料・実験実習料の納入について

Q26：「AWADE」や「Tutorial English」の受講には聴講料・実験実習料の支払いが必要と聞いたのですが…

A26：必修科目として自動登録された「AWADE」および「Tutorial English」については入学時の学費に含まれているので改めての聴講料・実験実習料の支払いは不要です。

Q27：うっかり聴講料・実験実習料を払い忘れてしまったのですが、後からでも納入することはできますでしょうか？

A27：残念ながら所定納入期間外での納入は受付できません。また、未納となった科目の登録は取消となります。

一科目登録に関する相談窓口について

科目登録全般について

Q28：科目登録について分からない部分や不安があるのですがどこで相談に乗ってもらえますか？

A28：質問内容によってお問い合わせ先を変えていただくと効率よく回答を得ることができます。

①科目登録に関する基礎知識について：Support Anywhere（通称：サポエニ）



[URL] <https://wnpspt.waseda.jp/student/supportanywhere/>

*詳細については P.7 をご確認ください。

*科目登録以外にも各種申請・手続き等様々な情報を得ることができます。

②社会科学部の履修ルールについて：1)早稲田大学社会科学部 Web サイト> 在学生の方へ> 科目登録



[URL] <https://www.waseda.jp/fsss/sss/students/registration/>

2)社会科学部事務所科目登録担当（kamoku18@list.waseda.jp）

③Web 科目登録システムについて：早稲田大学 IT サービスポータル



[URL] <https://support.waseda.jp/it/s/inquiryform?language=ja>

*資格：「学生」、種別：「問い合わせ」、サービス名称：「科目登録」を選択し、必要事項を入力してください。

履修計画や履修モデルの相談について

Q29：履修計画（ゼミナール、留学等を含む）について先輩学生からのアドバイスが欲しいです！

A29：社会科学部では 2022 年度より学生メンター制度を導入しており、先輩学生による新入生・後輩サポート（相談受付）を行っています。初めての履修登録やこれから始まる学生生活に対して、不安や疑問に思うことを同じ社会科学部の先輩が話を聞き、自らの経験に基づいてアドバイスします。漠然とした不安や疑問を解消したいという方、とにかく先輩と話をしてみたいという方も大歓迎です。新入生向けのイベントも企画しておりますので是非ご利用ください！



←社会科学部学生メンターの公式紹介ページはこの QR コードからアクセスできます！

Instagram アカウント：<https://www.instagram.com/sssmentor2022/>

X（旧：Twitter）アカウント：<https://twitter.com/sssmentor2022>

I. カリキュラム

1. 卒業要件

社会科学部では卒業までに所定の 124 単位を修得する必要があります。下表のとおり科目部門・科目分野毎に定められた所定の単位数に達するように科目を履修し、単位を修得することで満たされます。

入学年度により卒業に必要な科目と単位数が異なります。必ずご自身の入学年度に対応した要件を参照してください。

1-1. 2024 年度以降入学者

科目部門	科目分野		所定単位数	
①初年次教育		ラーニング・コミュニティ	1単位	14単位
		学術的文章の作成	1単位	
		統計リテラシー	2単位	
必修外国語	②必修英語	AWADE	4単位	
		Tutorial English	2単位	
	③教養外国語		4単位	
④ミニマムディシプリン科目		社会学分野	26～30単位 ^{※1}	110単位
		政治学分野		
		法学分野		
		経済学分野		
		商学分野		
		メタディシプリン		
⑤専門・学際科目		社会科学総合分野	～52単位	
		政治学分野		
		法学分野		
		経済学分野		
		商学分野		
		情報科学分野		
		人文科学分野		
		自然科学分野		
		外国語・地域研究		
		グローバルラーニング		
		社会科学特講		
		社会科学総合研究		
⑥自コース科目 ^{※2}		32単位～		
⑦ゼミナール ^{※3}		ゼミナールI	0～2単位	
		ゼミナールII・III	0～8単位	
		課題研究	0～4単位	
卒業必要単位数の合計				124単位

※1. ミニマムディシプリン科目は、卒業までに「26 単位以上」の修得が必須となり、「30 単位まで」卒業単位に算入することができます。

※2. 「自コース科目」とは自身が選択したコースの科目であり、「他コース科目」とはその他コースの科目を指します。詳細は P.15 をご確認ください。

※3. ゼミナールの履修は卒業のための要件ではありませんが、希望者が履修し修得した単位は、卒業単位に算入されます。「課題研究」の設置有無はゼミナールのクラスによって異なりますが、修得した単位は卒業単位に算入されます。なお、ゼミナールは同一学期に複数のクラスを履修することはできません。

① 初年次教育

初年次教育は、「ラーニング・コミュニティ」とグローバルエデュケーションセンター設置の「学術的文章の作成」、「統計リテラシーα」、「統計リテラシーβ」で構成され、**各1単位、合計4単位**を履修します。1年次の春学期に全ての科目を履修する必要がありますが、「ラーニング・コミュニティ」と「統計リテラシーα」は春クォーターに、「統計リテラシーβ」は夏クォーターに登録され、「学術的文章の作成」は春クォーター／夏クォーターのどちらかに登録されます。

※修得できなかった科目があった場合、それぞれ1年次秋学期に再履修する必要があります。

② 必修英語

英語は入学時の LANGX Speaking の受験結果により、登録される学期やクラスが決定します。

1年次に Academic Writing and Discussion in English (AWADE) α・β 各2単位、Tutorial English A・B または C・D 各1単位、在学中**合計6単位**の修得が必要です。

※修得できなかった科目があった場合、卒業までに修得する必要があります。再履修の方法は以下の通りです。

・「AWADE」については、不合格となった科目（α／β）の再履修者用クラスを次年度以降に履修します。

・「Tutorial English」については、次年度以降に「Tutorial English」ではなく、社会科学部設置の「英語1－2／スピーチ（春学期）・（秋学期）」を必要な単位数分履修します。

③ 教養外国語

教養外国語は、ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語・日本語（外国学生※のみ選択可）より1言語選択し、1年次の春学期に“〇〇語1・2基礎”各1単位、秋学期に“〇〇語1・2初級”各1単位、**合計4単位**の修得が必要です。

※外国学生とは、外国学生入試制度、海外指定校推薦入試制度、外国人留学生特別選考制度等により入学した学生です。

※朝鮮語・日本語は社会科学部設置科目ではないため、“基礎・初級”ではありません。必要単位数は同じ合計4単位です。

※修得できなかった科目があった場合、卒業までに修得する必要があります。

④ ミニマムディシプリン科目

ミニマムディシプリンとは、社会科学の伝統的学問分野において体系的な学びが推奨される最低限の科目群を指します。これにより、各分野の基礎的学力を養うものです。

このうち、メタディシプリンとは、学際的科目群であり、多様な学問分野の対話・越境・融合、さらに社会実践を通じた高度化の基礎的理解力を養うものです。

ミニマムディシプリン科目は、主に1・2年次に履修する科目群であり、**最低26単位の修得が必要です**。詳細はP.18をご確認ください。

⑤ 専門・学際科目

専門・学際科目は、新しい領域、学際性、専門性の高い内容を展開しており、主に2年次以降に履修します。社会科学総合、政治学、法学、経済学、商学、情報科学、人文科学、自然科学、外国語・地域研究、グローバルラーニング、社会科学特講、社会科学総合研究の分野を設けています。

この他、2年次の秋以降に自身が選択したコース以外のコース科目（他コース科目）を履修した場合も専門・学際科目の単位として算入されます。

外国語・地域研究

地域研究系の科目は、各言語（ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語）に対応する地域研究の要素（社会事情、政治、文化、歴史等）を従来の語学教育に含めることで、1年次の教養外国語での学びと、2年次以降の留学、地域性・専門性の高い学びをつなぐ役割を担う科目です。これとは別に、教養外国語として選択しなかった言語を履修する場合も、外国語・地域研究の単位として算入されます。

外国語・地域研究は、16単位を上限として卒業算入単位とすることができます。

社会科学総合研究

「学際」の概念を推進し、最新の社会動向とそれらの抱える諸問題を総合的に分析、解決の糸口を探り出そうとする科目です。現代社会が直面しているテーマについて、専門分野を異にする教員が交替で担当し、多角的な切り口から問題を分析し講義する科目であり、本学部の標榜する社会科学の総合化・学際化を具現化する科目となっています。

⑥ コース科目

コース科目は、他学部における専攻や専修にあたるものであり、自身の関心分野を定めて高度な学際探究力を育むことを目的とします。5つのコースから自身の興味関心に沿う1つ（自コース）を選択し、2年次の秋学期から履修が始まります。**卒業必須要件であり、32単位以上の修得が必要です**。詳細はP.19をご確認ください。

⑦ ゼミナール

ゼミナールは、社会科学部の基本理念のひとつである「問題発見・解決のできる学生の育成」をより具体的に推し進めるため、少人数教育の充実を目指した演習授業です。**卒業必須要件ではありませんが、修得した単位は卒業単位に算入されます**。ゼミナールの各クラスは、2年次秋学期から2年半にわたって一貫したテーマにより実施されます。

ゼミナール登録は、担当教員による選考で決定し、合格したゼミナールが自動登録されます。「課題研究」（4単位）の設置有無はゼミナールのクラスによって異なります。詳細はゼミナール要覧などの社会科学部 Web サイトに掲載の資料をご確認ください。

2. 分野紹介

社会科学部は、社会で起こる諸現象を、社会科学の専門諸分野の壁を越えた学際的・総合的視点から、分析、解明して、解決策を考えることを創設以来目指してきた学部です。もちろん、自然科学、人文科学の専門知識も動員します。以下のような科目群や分野があります。将来の目的に沿って上手に組み合わせて選択、履修してください。

社会科学総合分野

本学部は、社会科学を中心とした諸科学の「総合」を教育理念としています。それは、現実社会が直面する複雑で錯綜した諸課題が、総合的なものの見方とソリューションを要請しているからです。

社会科学総合分野は、そうした本学部における諸科学の「総合」を中心的に担う分野として、専門分野の縦割りではなく、社会保障、市民社会、社会思想、人権、ジェンダー、障害、バイオエシックス、環境、開発、グローバルビジネス、組織、労働、経済史、観光、ポピュラーカルチャーなど、多彩なテーマに関する総合・学際的な科目を設置しています。また、社会科学の哲学や方法論、社会調査、社会学や心理学に関する科目も、本分野に設置されています。

総合的なものの見方は、はじめからできる訳ではありません。まず各分野の「入門」や「基礎」の科目から履修をしましょう。その間に、自分が格闘すべきテーマ・課題を見つけ、どんな科目がその課題の解明と解決に役立つかを考えて履修していきましょう。正しい解を導くためには、正しい問いを立てることが必要です。正しい問いを立てるには、ゼミでの学びが大いに役立つはずです。

「総合」を志向・思考せずして、社会学を語るなかれ。

政治学分野

政治現象は、地方・国家・国家間・地域・地球規模などさまざまなレベルで展開されます。これを比較・モデル・統計・法政策・歴史・哲学などの手法と視野から分析するのが政治学です。

「政治学入門」や「政治分析の基礎」は政治学の概要と思考様式の基礎を紹介し、「政治学原論」はそれらをより専門的に扱います。また、「国際関係論入門」は、理論とフィールドの両面から、紛争・暴力や共同・統合の問題について学ぶための基礎を提供し、「平和学」や「平和構築論」、「国際関係論」などの科目では、それらの諸問題についてより深く発展的に扱います。

さらに、政治的意思決定の形成を分析する「政治過程論」や「立法過程論」、法政策の運用に注目する「行政学」、各国統治制度を比較の視点も交えて講ずる「現代政治制度論」、地域ごとの研究を反映した「比較政治学」「現代政治分析」、政治理論や理念の歴史を扱う「政治学史」、情報と政治行動のダイナミクスを見る「情報政治論」「政治行動論」などの科目があります。

法学分野

法学は、法律や判例等を通じて制度化されている社会規範である法について学ぶ学問分野です。社会科学部の学生として社会科学を学ぶにあたって、制度の何たるかについての理解は不可欠です。法学の入門科目として、法の基本となる憲法、民法、刑法の概要を学ぶ、「法学入門」が用意されています。また、ミニマムディシプリン科目として位置付けられている、「憲法Ⅰ」、「民法Ⅰ（総則）」、「刑法総論Ⅰ（犯罪論の基本構造）」、「行政法Ⅰ（行政法概論）」、「会社法Ⅰ（会社のガバナンス）」を受講すれば、法学の基本的な考え方を身に着けることができます。

このほか、「環境法」（サステナビリティ）、「国際法」（平和・国際協力）、「労働市場法」及び「労使関係法」（組織・社会イノベーション）等、法学以外の分野との関連性が強い科目は、コース科目として履修することができます。また、「医事法」等の専門・学際科目では、より高度な学際的研究に触れることもできるでしょう。

経済学分野

モノやお金の取引は人類が長い歴史の中で培って来た規則にしたがっています。その規則は誰かが設計したものではなく、言語における文法のように出来上がったものです。言葉は日常的に用いられていますが、改めてその規則性を問い直そうと思ったら以上に複雑かつ精妙です。

経済活動を支配する法則も同様です。不便だから、不合理だからといって文法の一部を変更すると言語そのものが混乱してしまうのと同じように経済の仕組みを人為的に変化させると社会は機能しなくなることもしばしばです。この意味で経済学は言語学に似ていますし、一度手を加えるとなかなか元に戻らないという意味では生態学にも似ています。経済の営みの背後にある人々の深い結びつきを探究するのがミクロ経済学とゲーム理論です。具体的な統計データを使って経済全体の動きを分析するのがマクロ経済学です。これらをもとに経済の仕組みの中で何が基本で何を変えてはいけないのかを明らかにするのが経済学です。

貧困、暴力など、さまざまな問題が山積していますが、何かを変えると、また別の問題が発生します。

複数の理想が同時に達成できないことを示す不可能性定理も、たくさん存在しています。どうしても何かを変えたいなら事前のテストも必要です。そのために最近では実験経済学が发展しています。

理想を語るのではなく何ができて何ができないかを冷静に見極める視点を養うことが大切です。そうした大人の教養を身につけることを目指して経済学を勉強してください。

商学分野

企業の経営資源に「人」「物・サービス」「資金」「情報」があります。商学系列の科目を履修することで、これら経営資源を有効に活用し、高い生産性と企業価値の向上を達成するためのマネジメントについて理論的・実証的に学んでいくことができます。まず学んで欲しい中心的な科目として、「経営学入門」、「マーケティング入門」、「会計学入門」を設置しています。「経営学入門」では、企業の活動や、経営の仕組みについて基礎概念を取得することを目的としています。「マーケティング入門」では、商品やサービスなどの消費者との接点の諸相について、事例を踏まえて学んでゆきます。「会計学入門」では企業の財務状況や経営成績を分析する方法について学びます。

経営について、より専門的には「経営学」で学ぶことができます。また、現代企業に必須とされる科学的方法論のスキルは「経営科学」によって得られます。上述の経営資源に対応する固有領域は「経営組織論」「流通論」「国際貿易論」「管理会計」「外部報告会計論」「企業財務論」「情報科学論」に対応していますので、各分野における専門知識を習得することができます。いずれも経営のプロフェッショナルとして必須の内容です。

商学は金融・証券・保険・貿易など、様々な場面における取引がその対象領域とされていますが、本学部では経営に係わる広範な学問領域を学ぶことができます。

情報科学分野

情報科学分野の科目は、主として1、2年生を対象とした科目と高学年を対象とした科目があります。前者は社会科学諸分野に共通するコンピュータアプリケーションソフトウェアの扱い方やインターネットの活用法を学びながら、社会科学に関わるデータの収集、処理、加工、蓄積、表現の基本的方法を、実習を通して学んでゆく科目です。その中で、簡単なプログラムを作成することにも含まれています。後者は、社会科学それぞれの分野固有の問題を情報科学的立場からシステムとして複合的に解析すること、問題解決を目指した情報システムのデザイン、テキスト・画像・音声を総合的に融合し、表現するマルチメディアデータの処理を学んでゆく科目があります。

これらの科目を社会科学科目と併行して履修することにより、学んだことがらをより広く、深く理解し、更にその内容を多様な方法で表現することを体得することが出来ます。

人文科学分野・自然科学分野

学問は大きく人文・社会・自然科学に分けられます。社会科学の多くが近代とともに発展したのとは対照的に、人文科学や自然科学の歴史は古く、中には文明の始まりにまでさかのぼる分野もあります。また、社会科学が主に人間を集団として考察するのに対し、哲学、文学、心理学のように個人の内面へと向かう視点もあります。人文・自然科学は、社会科学の礎となった学問領域であり、社会科学とは少し違った視点から社会や人間を研究します。

哲学、文学、歴史学のほかに、漢字文化圏の研究、言語学、文化やコミュニケーションに関する研究、写真や映像を使った社会デザインに関する研究、都市計画やまちづくり、環境科学、生物学的な人間研究、生物の世界と環境のかかわりを分析する生態学など、みなさんの知的好奇心をかき立てる講義が、多数用意されています。これらは、大学生としての幅広い教養を涵養し、新しいアイデアやユニークな着眼点を生む知識の源になります。

3. 履修計画の指針

1～3年次の年間の登録制限単位数は40単位（半期24単位）、4年次以上は48単位（半期28単位）です。（P.36 参照）

新入生必修科目登録で1年次の時間割の一部が決まり、その後の1～3次登録において春学期の時間割を自身で完成させることとなります。秋学期も同様に1～3次登録の機会があります。

社会科学部には、社会科学を総合的に学ぶ社会科学総合と、政治学、経済学、法学、商学、人文科学、自然科学まで幅広い科目が設置されています。

学生個人の興味に応じた設計が可能となるように高い自由度を有していますが、このことは知識や技術の虫食いの習得を容認するものではありません。

社会科学部では、計画的・体系的な科目履修を実現するため以下に紹介する科目分野を設けています。これらを指針として、自らの将来を見定めた科目履修を行ってください。

3-1. ミニマムディシプリン科目

ミニマムディシプリンとは、社会科学の伝統的学問分野において体系的な学びが推奨される最低限の科目群を指します。これにより、各分野の基礎的学力を養うものです。

このうち、メタディシプリンとは、学際的科目群であり、多様な学問分野の対話・越境・融合、さらに社会実践を通じた高度化の基礎的理解力を養うものです。

ミニマムディシプリン科目は、主に1・2年次に履修する科目群であり、**最低26単位の修得が必要です。**

■入門科目の自動登録について

1年次の春学期に**5つの入門科目（社会学入門、政治学入門、経済学入門1〔ミクロ経済学〕、経営学入門、法学入門）が自動登録されます。**これらの単位の修得は卒業必須要件ではありませんが、社会科学部における科目履修の基礎となる重要な科目であり、修得した単位は「ミニマムディシプリン科目」の卒業算入単位となります。なお、科目取消はできません。各科目の詳細は Web シラバスで確認してください。

3-2. コース科目

コース科目は、他学部における専攻や専修にあたるものであり、自身の関心分野を定めて高度な学際探究力を育むことを目的とします。5つのコースから自身の興味関心に沿う1つを選択し、2年次の秋学期から履修が始まります。**卒業必須要件であり、32単位以上**の修得が必要です。

- 平和・国際協力…………… P. 20
- 多文化社会・共生…………… P. 21
- サステナビリティ…………… P. 22
- コミュニティ・社会デザイン…………… P. 23
- 組織・社会イノベーション…………… P. 24

■履修上のルール

- ・2年次の夏ごろにコース選択の機会があります。
- ・各コースの定員は300名です。これを超える希望者がいた場合は1年次のGPAを基にした選考によりコースを決定します。
- ・コース科目は2年次秋学期から履修することができます。
- ・選択したコース以外の科目（他コース科目）も履修することができます。その場合は「専門・学際科目」として扱われます。
- ・コースの変更は在学中一度のみ認められます。希望者は2年次秋学期に申請し、3年次春学期から変更されます。変更前のコースで修得した単位は「専門・学際科目」に振り替えられます。また、コース変更前（2年次秋学期）に変更先のコース科目を「専門・学際科目」として単位修得した場合、「コース科目」に振り替えられます。（一部、自コースとしてのみ履修可能なコース科目もあります）
- ・自身の興味関心・目的に基づいてコースを選択してください。原則として、ゼミナールの履修に連動するルール（あるゼミナールを履修するためには特定のコースを選択しなければならない等）はありません。ただし、ゼミナールによっては特定のコースを推奨する可能性がありますので、ゼミナール要覧（社会科学部 Web サイト掲載）を別途確認してください。
- ・コース科目は変更になる可能性があります。その場合は単位を修得した年度に指定されていた科目区分で取り扱われます。そのため、最新年度の学科目配当表を確認のうえで科目登録に臨んでください。

■「社会科学総合創造的探究：〇〇コース」について

社会科学総合創造的探究科目は、各コースのハブになる実践的な学びの科目です。学際的連携をベースに、総合知を生かし、各コースの中心的なトピックを取り上げて、複数教員とともに探求していきます。履修者同士のグループワークや学外との社会連携等を通じて、実践的な学びの場を作っていきます。

本科目は自コースとしてのみ履修可能です。他コース学生は履修できません。

コース紹介

平和・国際協力

1. 概要

効果的かつ公正な平和・国際協力をめぐる研究・実践について、総合的に学び、実習します。今日の社会空間の越層性（glocality）、多様な公共問題の交差性（intersectionality）、公共、市場、市民社会等異なるセクターを架橋する協働（governance）軸として、cross-disciplinary な知見とスキルを涵養します。

2. 到達目標

平和・国際協力をめぐる諸問題・課題について、自らが設定した問い(research question)の主体的探究・調査を行い、その成果を論述、発表・発信することができる能力・スキルを習得することを目指します。

3. 想定される業種・分野

主には、国際公務員、国家・地方公務員、NGO・国際 NGO、政策シンクタンク・コンサルタント等が想定されます。公共・市民社会・市場セクターの垣根を越えた協働が必要とされるグローバル化時代では、卒業生にはより広範な分野・業種で活躍することが期待されます。

4. 指定科目

配当年次 1 年以上・2 年以上の科目については、コース選択後の 2 年次秋学期より履修可能です。

科目名	単位数	科目名	単位数
社会科学総合創造的探究： 平和・国際協力コース（※）	2	人間の安全保障論	2
国際政治理論	2	国際人権論 1	2
太平洋地域海洋国家研究	2	国際人権論 2	2
国際 NGO 協力論	2	EU 地域研究 I	2
国際開発制度論	2	EU 地域研究 II	2
国際関係論	2	Japan and Peacebuilding： Asian Policies	2
平和構築論	2	War and Japan	2
国際法 1	2	Gender and Development	2
国際法 2	2	Education and Development	2
国際経済法 1	2	Development Studies	2
国際経済法 2	2	Problem / Conflict Analysis and Resolution	2
紛争解決論実習 1・2・3	2	Liberal, Post-Liberal and Everyday Peacebuilding	2
平和学 I	2	Critical Development Studies	2
平和学 II	2		

※自コース学生のみ履修可能

コース紹介

多文化社会・共生

1. 概要

世界各地域の多様な歴史・宗教・文化・社会を人文科学の学知として学び、政治・法律・経済などの社会科学の学知を融合させ、多文化共生社会に生きる地球市民としての豊かな専門性とグローバルな教養を身につけます。言語的・文化的背景を異にする人々と対話する知性と協働する実践力を合わせ持つ人材を世界に送り出します。

2. 到達目標

英語以外のもう一つの外国語を習得し、専門とする地域の歴史・宗教・文化・社会などの基本知識を身に付けます。また、フィールドワークやインタビュー調査などの学習活動を通じて、実践的なコミュニケーション能力を高めます。資料の調査、解読能力を高めることによって、学際的な専門知識を応用する人材を目指します。

3. 想定される業種・分野

政府や民間の国際機関で活躍する専門人材、メディアなどで活躍するジャーナリスト、民間企業で国際協力に貢献する人材が想定されます。

4. 指定科目

配当年次 1 年以上・2 年以上の科目については、コース選択後の 2 年次秋学期より履修可能です。

科目名	単位数	科目名	単位数
社会科学総合総合的探究： 多文化社会・共生コース（※）	2	商業史 II	2
文化の社会学	2	比較近代社会思想 1	2
日本文学 2	2	比較近代社会思想 2	2
文化人類学 2	2	スペイン語文化圏論 2	2
中国研究 1	2	国際人権論 1	2
中国研究 2	2	国際人権論 2	2
国際NGO協力論	2	観光学	2
歴史学（日中関係史） 2	2	日本環境文化史 2	2
日本文化研究	2	ジェンダーの社会学 2	2
漢字文化圏論 2	2	Japan and World War II: Historical Controversies	2
Examining Global Issues 1 〔Social Problems in Contemporary Japan: Global Comparisons〕	2	Women in Modern Japan: Outside Encounters and Early Changes	2
Examining Global Issues 2 〔Major Themes and Events in Modern Japanese History〕	2	Urban History of Tokyo	2
国際教育協力論	2	War and Japan	2
商業史 I	2	Contemporary Japanese Foreign Policy	2

※自コース学生のみ履修可能

コース紹介

サステナビリティ

1. 概要

将来世代に良好な自然環境を承継しつつ、社会経済の発展を実現することについて、構造的な理解を得ます。地球温暖化を緩和するための脱炭素社会の実現、森林・里山・海域の適切な管理による生態系と地域環境の保全、食料・エネルギー・資源の保全など持続可能な発展の問題について、政治、経済、社会、制度などの視点で分析します。

2. 到達目標

サステナビリティの構造を理解し、その重要性についての認識を獲得します。

環境、地域、そして社会の持続可能性の実現に必要な政府・地方自治体、企業、市民・住民・消費者としての行動についての知識を身に付けます。

そして、行政、ビジネス、市民活動や日常生活を通じてサステナビリティの向上に貢献するのに必要となる知識とスキルを獲得します。

3. 想定される業種・分野

企業のサステナビリティ情報開示の義務化が進展する中で、サステナビリティに関わる知識は、ほとんどの事業活動に関係する事柄であるため、どの分野に進んでも役立ちます。

中でも、環境、開発、農林漁業に係わる業種で学習した成果を生かしやすいでしょう。

具体的には、公務員、エネルギー産業、ディベロッパー、不動産業、造園・公園管理、観光業、農林漁業、食品などが挙げられます。

4. 指定科目

配当年次 1 年以上・2 年以上の科目については、コース選択後の 2 年次秋学期より履修可能です。

科目名	単位数	科目名	単位数
社会科学総合創造的探究： サステナビリティコース（※）	2	地域計画システム論 I	2
生態学 1	2	地域計画システム論 II	2
生態学 2	2	理論人類学 1	2
自然地理学 I	2	理論人類学 2	2
自然地理学 II	2	環境科学概論	2
環境法 1〔公害規制法〕	2	環境社会学 1	2
環境法 2〔自然保護法〕	2	環境社会学 2	2
国際法 1	2	開発社会学	2
産業構造論	2	都市復興デザイン論	2
環境の産業連関分析	2	イオン環境財団寄附講座 サステナブルコミュニティ論	2
食料と農業の経済学 1 〔食料需給の決定要因と食料問題・農業調整問題〕	2	環境経済学 I	2
食料と農業の経済学 2 〔日本の経験と教訓〕	2	環境経済学 II	2
地理情報システム論 I	2	環境共生社会学	2
地理情報システム論 II	2	環境政治学	2

※自コース学生のみ履修可能

コース紹介

コミュニティ・社会デザイン

1. 概要

都市・農村地域などコミュニティにおける社会・経済・文化・環境の複雑な課題についてコミュニケーション・メディア、計画・開発、政策過程論を基礎としながら市民の相互理解と主体性、企業の社会的責任、公民協働をベースとしたデザイン思考アプローチから、課題解決および未来創造の専門知とスキルを修得します。

2. 到達目標

ソーシャルイノベーターとして、これらの力を身に付けることを目指します。

- ①超域知（幅広い専門分野や地域をまたぐ知識創出）やメタ認知による探索思考力
- ②社会の構造的な理解力
- ③社会イノベーションおよび適応能力
- ④他者との相互理解と関係構築能力
- ⑤自律的な行動および自己調整能力

3. 想定される業種・分野

- ①公共政策・政府機関（社会課題解決、地域活性化、持続可能な地域づくり、地方創生などの企画・政策調整）
- ②コンサルティング業界（デザインリサーチ）
- ③メディア・クリエイティブ産業（デジタル、メディア、コンテンツ制作）
- ④観光業（観光戦略立案、地域ブランディング）
- ⑤スタートアップ・起業（社会的インパクトを追求する企業、NPO・NGO）・・・など

4. 指定科目

配当年次1年以上・2年以上の科目については、コース選択後の2年次秋学期より履修可能です。

科目名	単位数	科目名	単位数
社会科学創造的探究： コミュニティ・社会デザイン（※）	2	環境社会学 1	2
文化の社会学	2	環境社会学 2	2
地理情報システム論 I	2	開発社会学	2
地理情報システム論 II	2	都市復興デザイン論	2
コミュニティデザイン	2	イタリアの都市づくり	2
制度設計の経済学 I	2	社会デザインの思考と技法 1 〔他者と関わりを持つということ〕	2
制度設計の経済学 II	2	社会デザインの思考と技法 2 〔フィールドでの技術〕	2
地域自治論 1	2	社会デザインの思考と技法 3 〔社会言語としての写真・映像〕	2
地域自治論 2	2	社会デザインの思考と技法 4 〔参加のデザイン技術〕	2
地域計画システム論 I	2	社会デザインの思考と技法 5 〔演劇実践と場の創造〕	2
地域計画システム論 II	2	イオン環境財団寄附講座 サステナブルコミュニティ論	2
比較近代社会思想 1	2	Urban History of Tokyo	2
比較近代社会思想 2	2	Introduction to Rural Development	2
観光学	2	Community Design: History, Method and Practice	2

※自コース学生のみ履修可能

コース紹介

組織・社会イノベーション

1. 概要

企業に競争力強化と持続的な成長・発展をもたらすとともに、顧客やさまざまなステークホルダーに対する価値を高め、社会経済的な変革と進化をも生み出すイノベーションに、経済学、経営学、社会学、政治学などの理論や分析枠組みを用いてアプローチします。イノベーションの効果的な創出法と経済社会へのインパクトを洞察し、グローバルな文脈においても持続可能な価値を提供する能力を身につけます。

2. 到達目標

多様な学問分野の理論と分析枠組みを基に、企業競争力や持続的成長を支えるイノベーションの手法を体系的に学びます。

また、単一組織や職場内にとどまらず、サプライヤーや顧客との統合的イノベーション、クラウド知識を活用したオープンイノベーション、さらには国際社会や地域社会、公共セクターとの連携する社会イノベーションを通じて、組織間、業界間、国家間を横断して新たな価値創出や経済社会変革をリードする力を養います。

3. 想定される業種・分野

企業内の新規事業開発やイノベーション戦略に携わり、競争力強化と価値創出をリードする役割が期待されます。

また、社外のサプライチェーンや顧客との連携を通じた統合型イノベーション、さらには社会課題解決に向けた社会イノベーションの分野でも活躍が期待されます。

分野横断的な連携やオープンイノベーションの手法を活かして様々なプロジェクト推進、公共政策立案、非営利組織や社会的企業における価値創出にも貢献できる人材を目指します。

4. 指定科目

配当年次 1 年以上・2 年以上の科目については、コース選択後の 2 年次秋学期より履修可能です。

科目名	単位数	科目名	単位数
社会科学創造的探究： 組織・社会イノベーションコース（※）	2	産業組織論	4
アントレプレナーシップ	2	科学技術・イノベーション概論	2
研究開発戦略	2	グローバルビジネス論 1	2
社会イノベーション	2	グローバルビジネス論 2	2
会社法 3〔組織再編・M&A〕	2	組織行動論	2
労働市場法	2	組織イノベーション 1	2
国際経済法 1	2	組織イノベーション 2	2
産業構造論	2	ディーセント・ワーク 2	2
国際金融論	2	Understanding the Japanese Economy: Macroeconomic Perspectives	2
労使関係法	2	Understanding the Japanese Economy: Microeconomic Perspectives	2
制度設計の経済学 I	2	Theories of Social Business Cooperation	2
制度設計の経済学 II	2	Theories of Social Business	2
商業史 I	2	Professionals Innovating Work 1: Exploring New Work and Life Styles in the Changing World	2
商業史 II	2	Professionals Innovating Work 2: Getting to Know the World of Work	2

※自コース学生のみ履修可能

3-3. 各ゼミナールにおいて履修が望まれる科目

2 年次より「ゼミナール」履修が開始します。一部ゼミナールでは、担当教員が「履修が望まれる科目」を設定しています。これは必修や前提科目ではなく、既得か同時履修または今後の履修が望まれる科目のことです。社会科学部 Web サイト「在学生の方へ」の「ゼミナール」内に掲載されている「ゼミナール要覧」において各ゼミナールの「履修が望まれる科目」を公開しているので、科目選択の指針のひとつとしてください。

なお、ゼミナール履修は卒業要件ではありませんが、例年約 9 割の学生が履修しています。

データ科学認定制度を活用しよう！

早稲田大学では、データ科学（データサイエンス）の学びに対する明確な目標を提示するとともに、履修者のデータ科学に関する能力を保証するためのデータ科学認定制度を設置しています。各級の認定要件を満たした方にはデータ科学センターより認定証明書を発行します。詳しくは、デジタルパンフレットをご覧ください。

【ここがポイント！】

初年次教育である「統計リテラシーα」「統計リテラシーβ」の単位を修得することで、データ科学認定制度における「リテラシー級」の認定要件を満たすことができます。認定には、級毎の認定希望申請が必須ですので、以下の認定希望申請フォームより是非申請してください。（単位修得前から希望申請可能）

**【リテラシー級認定を取得したら】**

リテラシー級に加え、所定の 3 科目（3 単位）を修得し、認定希望申請をすると初級認定を取得することができます。初級の認定は、データ分析の一通りの流れを実践することができるようになることが目標です。データ分析の知識・スキルは、授業のレポートやプレゼン、卒業論文に加え、卒業後のキャリアでも活用することができます。データ科学認定制度をご自身の学びやキャリア形成に是非活用してください。

4. 社会科学部以外で履修できる科目

社会科学部では、学生の学習の自由度を高めるため、社会科学部の科目以外にも、本学他箇所や協定他大学が提供する「全学オープン科目※」を卒業算入単位に含めることができます（在学中最大 36 単位まで）。また、社会科学部のカリキュラムとしては卒業単位には算入できない科目も、ご自身の進路、研究や興味に合わせて履修が可能です（教職科目等）。単位の算入区分については、P.40 をご確認ください。

※全学オープン科目とは、学生の所属学部を問わず全学に提供されている科目で、各学部・グローバルエデュケーションセンター（以下 GEC）・留学センター・協定他大学より提供されています。

グローバルエデュケーションセンター（GEC）提供 全学オープン科目 (<https://www.waseda.jp/inst/gec/>)

GEC では、全学部・全研究科の学生が、専門分野に限らず全く異なる分野も学習できる多種多様な科目を展開しています。

すべての学問の基礎となる大学生の必須スキルとして、アカデミック・ライティング科目（「学術的文章の作成」ほか）、数学科目（「数学基礎プラスα（金利編）」ほか）、データ科学科目（「統計リテラシーα」「データ科学入門α」ほか）、情報科目（「プログラミング初級」ほか）、英語科目（「Tutorial English」「Academic Writing and Discussion in English」ほか）を提供します。また、早稲田大学以外では学ぶ機会の少ない言語科目や、多数の特色あるスポーツ実習科目（「ラグビー」「弓道」ほか）、日本語教育科目（「日本語教育学入門」ほか）等も提供しています。

人間的力量と呼ばれる科目群には問題解決型・体験型の実践的な学びを多く取り入れています。

科目の提供に加えて、GEC では「全学副専攻制度」を設けています。所属している学部で重点的に学ぶ「主専攻」のほかに、その他の学問分野を「副専攻」として体系的に学び、主専攻の補強、第二の強みの獲得、主専攻の応用領域の獲得などを目指します。全学副専攻の修了者には、卒業時に修了証明書が発行されます。

※GEC 提供科目のうち、インターンシップ科目は在学中最大 2 単位まで、保健体育科目は 4 単位まで卒業算入単位として扱うことができます。また、GEC 提供の科目のうち、1 年次に必修として履修する「学術的文章の作成」「統計リテラシーα・β」「AWADE」「Tutorial English」、および「教養外国語」として履修する「朝鮮語」の各科目については他箇所提供科目の卒業算入上限（36 単位）には含まれません。

他学部提供 全学オープン科目・他学部提供科目

他学部が自箇所学生以外にも履修を認める科目については、社会科学部生も履修することができます。他学部が提供する科目には、全学オープン科目と他学部提供科目があります。

【全学オープン科目】 GEC が提供する全学オープン科目と同じく、学生所属学部に関係なく履修を認める科目です。他学部が公開している科目を、1 次登録にて登録することができ、修得した単位は卒業算入単位に含めることができます。

【他学部提供科目】 他学部が自箇所学生以外の履修を認め、自箇所学生の登録を優先したのち、定員に余裕があれば開放される科目です。3 次登録にて登録することができますが、修得した単位は卒業算入単位には含まれません。

※他学部提供科目のうち、政治経済学部、法学部、商学部の提供する一部科目は、専門・学際科目として卒業単位に算入できます。

これらの学部は、社会科学部とは異なった特徴を持っていますので、強い専門性を志向する学生の皆さんの履修を推奨しています。

但し、科目登録は 3 次登録に限られていますので、科目提供学部の学生で定員に達している場合には履修できません。

協定他大学 提供科目 (https://www.waseda.jp/inst/gec/undergraduate/other_univ/)

早稲田大学は協定を結んでいる他大学と互いに科目を提供しあっています。早稲田大学には設置されていない各大学特有の科目も多くラインナップされており、登録の選択肢も広がります。他大学からの提供科目も所属学部のルールに従い卒業単位に算入することが可能です。履修は 2 年生以上が対象ですが、一部科目については、1 年生も履修可能です（詳細は「全学オープン科目履修ガイド」で確認できます）。

留学センター 提供科目 (<https://www.waseda.jp/inst/cie/>)

留学センターは、海外からの留学生受入れや本学の学生の海外留学支援はもちろん、国際教育プログラムの実施拠点として、留学プログラムと連動して履修できる科目、外国語学習・テーマ研究・異文化体験を中心とした短期留学科目のほか、海外の学生とともに授業を本学で履修するサマーセッション科目、海外大学からの教員を招聘して実施する「International Japanese Studies」の科目など、独自の科目を学部生に提供しています。

教育学部提供 資格関連科目（教職課程、図書館司書など）

社会科学部生も教育学部提供の資格関連科目を履修することで、教員免許・図書館司書・博物館学芸員などの資格取得が可能です。教育学部提供の資格関連科目はすべて、卒業算入単位として扱われません（自由科目）。

資格取得に必要な科目詳細については、教育学部発行の「教職課程履修の手引き」および社会科学部 Web サイトの資格ページを確認してください。

社会科学研究科提供科目

4 年生以上の学生は、科目担当教員の承認があれば、年間 8 単位まで社会科学研究科提供の講義科目履修が可能です（先取り履修制度）。社会科学部の卒業算入単位としては扱われませんが、社会科学研究科入学後、最大 10 単位まで修了単位として認定可能です。履修を希望する学生は、事務所までメールでご連絡ください。事務所より申請フォームを提供しますので、科目担当教員の許可を得たことを確認できるメールを添付のうえ、各学期の 3 次登録期間最終日 17 時までに申請してください。

Ⅱ. 科目登録の手続き

1. 科目登録手続きのながれ

科目登録の手続きは、科目の設置箇所、および科目区分ごとに、時期と方法が異なります。下記①～⑧の詳細説明を参照し、科目登録に臨んでください。

①	新入生自動登録（春学期）
②	初年次教育再履修自動登録
③	必修外国語再履修登録
④	1 次登録
⑤	2 次登録
⑥	3 次登録
⑦	ゼミナール継続者・合格者の登録
⑧	他箇所（社会科学部以外）科目の登録手続き

① 新入生自動登録（春学期）

新入生自動登録は、入学前までに完了します。初年次教育、必修外国語、入門科目（ミニマムディシプリン科目）が自動登録されます。詳細は「2025年度 新入生必修科目登録の手引き」を参照してください。

[対象者] 新入生

[申請期間] なし

[対象科目]

通常/再履修	対象科目	申請方法	詳細
通常	ラーニング・コミュニティ	申請不要	1 年次の春学期に自動登録されます。
通常	学術的文章の作成	申請不要	単位を修得できなかった場合は、「②初年次教育再履修自動登録」とおり再履修します。
通常	統計リテラシー	申請不要	
通常	AWADE	申請不要	LANGX スコアによって登録される学期やクラスが確定し、春学期（春クォーター・夏クォーター）・秋学期（秋クォーター・冬クォーター）いずれかに各科目週 2 コマが自動登録されます。
通常	Tutorial English	申請不要	Tutorial English に関する詳細はグローバルエデュケーションセンター発行の「Tutorial English 履修ガイド」を、AWADE に関しては Web シラバスを参照してください。
通常	教養外国語	申請不要	入学手続き時に希望した言語が春学期・秋学期に自動登録されます。（日本語を除く）
通常	入門科目（ミニマムディシプリン科目）	申請不要	1 年次の春学期に 5 つの入門科目（社会学入門、政治学入門、経済学入門 1（ミクロ経済学）、経営学入門、法学入門）が自動登録されます。

[注意事項]

- ・「AWADE」を不合格になった場合、来年度以降に不合格だった科目（α/β）の再履修者用クラスをご自身で登録してください。
- ・「Tutorial English」を不合格になった場合、来年度以降に「Tutorial English」ではなく、社会科学部設置の「英語 1 - 2 /スピーチ」を必要な単位数分ご自身で登録してください。1 単位の修得が必要な場合、履修すべき学期の指定はありませんのでいずれかを履修してください。
- ・教養外国語を不合格になった場合、来年度以降に再履修クラスをご自身で登録してください。
- ・入門科目（ミニマムディシプリン科目）は必修ではありませんので、不合格となった場合の再履修は任意です。

② 初年次教育再履修自動登録

[対象者] 1 年生以上 ※初年次教育の科目を再履修する必要がある学生のみ

[申請期間] なし

[対象科目]

通常/再履修	対象科目	申請方法	詳細
再履修	ラーニング・コミュニティ	申請不要	再履修クラスである Y・Z クラスが秋クォーターに自動登録されます。
再履修	学術的文章の作成	申請不要	不合格となった翌学期に自動登録されます。
再履修	統計リテラシー α・β	申請不要	不合格となった翌学期に自動登録されます。

[注意事項]

- ・「ラーニング・コミュニティ」は合格するまで再履修クラスが秋クォーターに自動登録されます。
- ・「学術的文章の作成」「統計リテラシー」は、不合格となった科目が合格するまで自動登録されます。

③ 必修外国語再履修登録

[対象者] 2年生以上（特に新2年生） ※必修外国語を再履修する必要がある学生のみ

[申請期間] 春学期：3/11(火) 9:00 ～ 3/12(水) 17:00、秋学期：9/10(水) 9:00 ～ 9/11(木) 17:00

[対象科目]

通常/再履修	対象科目	申請方法	詳細
再履修	英語 1 - 2 ※ Tutorial English の再履修科目	MyWaseda	Tutorial English ではなく、社会科学部設置の「英語 1 - 2（春学期・秋学期）」に必要な単位数分履修する必要があります。A・B クラスから第 2 希望まで申請可能です。
	教養外国語 ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語	MyWaseda	春学期の単位を未修得の場合は春学期に、秋学期の単位を未修得の場合は秋学期にそれぞれ申請してください。なお、開講クラスの授業形態（対面・オンライン）は、シラバス等でご自身でご確認ください。 <ドイツ語・フランス語 選択者> A～E クラスの中から第 5 希望まで申請可能です。 <中国語・スペイン語 選択者> 再履修クラスの Y・Z クラスの中から第 2 希望まで申請可能です。

[注意事項]

- ・「本登録期間に再履修登録の申請を忘れた」もしくは「希望した全クラスが選外になった」場合、1 次登録・2 次登録期間に、定員に余裕があるクラスに限り、Web 科目登録を受け付けます。
- ・必修英語のうち「AWADE」を不合格となった方は、1 次登録期間以降に不合格だった科目（α/β）の再履修者用クラスを登録してください。
- ・教養外国語について朝鮮語または日本語選択者の方は、1 次登録期間以降に再履修登録を行ってください。
- ・教養外国語の再履修の申請期間は、単位の修得状況によって異なります。
 - (1)春学期のみ未修得の場合は春学期に科目登録を行ってください。
 - (2)秋学期のみ未修得の場合は秋学期に科目登録を行ってください。
 - (3)春学期・秋学期ともに未修得の場合は学期ごとに科目登録を行ってください。

◆休学・留学をした場合の必修外国語の取り扱いに関して

対象科目	休学・留学等で履修を取りやめた場合	「不合格」の状態に休学・留学した場合
英語 1 - 2 ※Tutorial English の再履修科目	復学後、必修外国語再履修登録期間に必ず登録を行ってください。	
教養外国語 （ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語）		
教養外国語 （朝鮮語、日本語）	復学後、1 次登録期間以降に必ず登録を行ってください。	
AWADE	復学後、1 次登録期間以降に再履修者用クラス＜以外＞の科目を登録してください。	復学後、1 次登録期間以降に再履修者用クラスの科目を登録してください。

Ⅱ. 科目登録の手続き

1. 科目登録手続きのながれ

④ 1 次登録

[対象者] 全学年

[申請期間] 春学期：＜在学生＞3/18（火）9:00 ～ 3/21（金）17:00、＜新入生＞4/1（火）9:00 ～ 4/3（木）17:00
秋学期：＜全学年共通＞9/17（水）9:00 ～ 9/19（金）17:00

[対象科目]

対象科目	申請方法	詳細
必修英語（再履修）	MyWaseda	「◆1 次登録期間の必修外国語の再履修登録に関して」を参照のうえ登録申請してください。
教養外国語	MyWaseda	定員に余裕があるクラスに限り、Web 科目登録を受け付けます。
ミニマムディシプリン科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
専門・学際科目 ※英語学位プログラム提供科目を含む	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
コース科目	MyWaseda	コース選択後の2 年次秋学期より履修可能です。
自由科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
全学オープン科目	MyWaseda	学部提供全学オープン科目については1 次登録期間中にのみ申請可能です。2 次登録期間以降は申請できません（P.33 参照）。
教職等資格関連科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。

[注意事項]

- ・新入生自動登録・在学生自動登録・必修外国語再履修登録の結果、定員に達した科目には申請できません。

◆1 次登録期間の必修外国語の再履修登録に関して

対象科目	科目提供箇所	登録方法
AWADE α・β	グローバルエデュケーションセンター	【再履修者用クラス】を登録してください。 ※科目名の冒頭に【再履修者用クラス】の記載があります。詳細はシラバスを確認してください。
英語 1 - 2 ※Tutorial English の再履修科目	社会科学部	定員に余裕のあるクラスを登録可能です。 社会科学部 Web サイトに掲載される余裕定員表を確認してください。
教養外国語 （ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語）		
教養外国語（朝鮮語）	グローバルエデュケーションセンター	不合格となった科目を登録してください。
教養外国語（日本語）	日本語教育研究センター	必要な単位数を満たす科目を登録してください。

◆【重要】「ソーシャル・リサーチ」の登録方法および履修ルールについて

「ソーシャル・リサーチⅠ・Ⅱ」では、科目運営上の理由から独自の登録方法および履修ルールを設けています。履修を検討している方は必ず確認してください。詳細は社会科学部 Web サイトで案内する予定です。

＜登録方法＞

- ・**春学期 1 次登録期間（在学生）において、所定のフォームから申請を行います。通常の Web 科目登録では申請できません。また、2 次登録以降は登録できません。**登録結果発表日時・方法は通常とおりです。
- ・申請にあたり志望理由書の提出が必須です。また、履修希望科目を複数提出することが可能です。これらの内容に基づき、担当教員が履修可否および科目を決定します。
- ・申請した「ソーシャル・リサーチ」と同じ曜日・時限に他の科目を登録しないでください。登録した場合、原則として「ソーシャル・リサーチ」が優先的に決定となります（必修科目やゼミナールを除く）。
- ・定員は 20 名程度です。なお、申請が 5 名以下の場合、科目運営上の理由で不開講となる可能性があります。
- ・実験実習料の納入が必要です。納入に関する詳細は P.48・49 を確認してください。

＜履修ルール＞

1. ソーシャル・リサーチはⅠ・Ⅱのセット科目です。どちらか一方のみの履修登録はできません。
つまり、Ⅰ（春学期）の履修が決定した場合、Ⅱ（秋学期）が自動的に登録されます。
2. Ⅰ・Ⅱ いずれも科目取消を不可とします。Ⅰの成績が不合格であっても、Ⅱの取消はできません。
3. Ⅰの「志望理由書」を担当教員に提出し、登録許可を得る必要があります。
4. 授業時間外の作業が多いこと、秋学期末に調査報告書を作成することが必要なこと、および社会調査を実施する上での旅費宿泊費・交通費は自己負担となること（実験実習料に加えて必要）を理解したうえで履修に臨んでください。
5. その他、シラバスの案内を熟読したうえで履修に臨んでください。

⑤ 2次登録

[対象者] 全学年

[申請期間] 春学期：4/7(月) 9:00 ～ 4/8(火) 17:00、秋学期：9/25(木) 9:00 ～ 9/26(金) 17:00

[対象科目]

対象科目	申請方法	詳細
必修英語（再履修）	MyWaseda	「◆ 2次登録期間の必修外国語の再履修登録に関して」を参照のうえ登録申請してください。
教養外国語	MyWaseda	定員に余裕があるクラスに限り、Web 科目登録を受け付けます。
ミニマムディシプリン科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
専門・学際科目 ※英語学位プログラム提供科目を含む	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
コース科目	MyWaseda	コース選択後の2年次秋学期より履修可能です。
自由科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
全学オープン科目 ※学部提供全学オープン科目除く	MyWaseda	学部提供全学オープン科目については1次登録期間中のみ申請可能です。2次登録期間以降は申請できません（P.33 参照）。
教職等資格関連科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。

[注意事項]

- ・ 1次登録までの結果、定員に達した科目には申請できません。

◆ 2次登録期間の必修外国語の再履修登録に関して

対象科目	科目提供箇所	登録方法
AWADE α・β	グローバルエデュケーションセンター	【再履修者用クラス】を登録してください。 ※科目名の冒頭に【再履修者用クラス】の記載があります。詳細はシラバスを確認してください。 ※定員に余裕のあるクラスを登録可能です。
英語1－2 ※Tutorial Englishの再履修科目	社会科学部	定員に余裕のあるクラスを登録可能です。 科目提供箇所のWebサイトに掲載される余裕定員表を確認してください。
教養外国語 (ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語)		
教養外国語（朝鮮語）	グローバルエデュケーションセンター	
教養外国語（日本語）	日本語教育研究センター	

⑥ 3次登録

[対象者] 全学年

[申請期間] 春学期：4/18(金) 9:00 ～ 4/19(土) 17:00、秋学期：10/8(水) 9:00 ～ 10/9(木) 17:00

[対象科目]

対象科目	申請方法	詳細
教養外国語	MyWaseda	<朝鮮語 選択者>および<日本語 選択者>のみ 定員に余裕があるクラスに限り、Web 科目登録を受け付けます。
ミニマムディシプリン科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
専門・学際科目 ※英語学位プログラム提供科目含む ※外国語・地域研究の基礎・初級科目除く	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
コース科目	MyWaseda	コース選択後の2年次秋学期より履修可能です。
自由科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。
全学オープン科目 ※学部提供全学オープン科目除く	MyWaseda	学部提供全学オープン科目については1次登録期間中にのみ申請可能です。2次登録期間以降は申請できません (P.33 参照)。
他学部提供科目	MyWaseda	科目設置学部で他学部生の履修を認めている科目のうち、各学部の2次登録終了後に定員に余裕がある科目に限り、3次登録で申請することができます。
教職等資格関連科目	MyWaseda	ご自身の履修計画に基づいて登録申請してください。

[注意事項]

- ・2次登録までの結果、定員に達した科目には申請できません。
- ・3次登録では、1次・2次登録にて決定した科目の一部を対象に、取り消し、および算入科目区分の変更ができます。詳細はP.46を参照してください。

◆ 3次登録期間の必修外国語の再履修登録に関して

対象科目	科目提供箇所	登録方法
AWADE α・β	グローバルエデュケーションセンター	【再履修者用クラス】を登録してください。 ※科目名の冒頭に【再履修者用クラス】の記載があります。詳細はシラバスを確認してください。 ※定員に余裕のあるクラスを登録可能です。
英語1-2 ※Tutorial Englishの再履修科目 教養外国語 (ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語)	社会科学部	3次登録では登録できません。
教養外国語(朝鮮語)	グローバルエデュケーションセンター	定員に余裕のあるクラスを登録可能です。 科目提供箇所のWebサイトに掲載される余裕定員表を確認してください。
教養外国語(日本語)	日本語教育研究センター	

⑦ ゼミナール継続者・合格者の登録

ゼミナールの各科目は、在学生自動登録において、前年度中に実施したゼミナール継続判定、および募集の結果に基づき自動登録されます。

なお、以下の場合は、個別手続が必要となりますのでご注意ください。

ゼミナールの継続履修を希望しない場合

「ゼミナール非継続申請」を所定の期日までに所定の申請フォームから提出してください。

申請フォームはWebサイト (<https://www.waseda.jp/fsss/sss/students/seminar/>) に掲載しています。

延長生がゼミナール履修を希望する場合

「延長生ゼミナール登録申請」を所定の期日までに所定の申請フォームから提出してください。

申請フォームはWebサイト (<https://www.waseda.jp/fsss/sss/students/seminar/>) に掲載しています。なお、申請にあたっては、担当教員が登録を認めた旨が記載されたEメールのスクリーンショットをアップロードする必要があります。

⑧ 他箇所（社会科学部以外）科目の登録手続き

- ・各科目の登録日程や登録における注意事項など、詳細については当該科目に関連する履修ガイドや Web ページ等を参照してください。
- ・科目の講義内容は、Web シラバスを参照してください。
- ・春学期科目登録の対象となるのは、以下の期間に開講する科目です。
「通年」「春学期」「春クォーター」「夏クォーター」「夏季集中」「集中講義（春学期）」「集中講義（春・秋学期）」「春夏期」「夏秋期」「夏シーズン」
- ・秋学期科目登録の対象となるのは、以下の期間に開講する科目です。
「秋学期」「秋クォーター」「冬クォーター」「冬季集中」「春季集中」「集中講義（秋学期）」「冬シーズン」

分類	科 目		参照先要項・手引き等	科目登録時期						取消可否 (※2)
				春学期登録			秋学期登録			
				1次	2次	3次	1次	2次	3次	
全学オープン科目	グローバルエデュケーションセンター提供科目			○	○	○	○	○	○	○ (※3)
	Web 科目 登録	アカデミック・ライティング科目	・全学オープン科目履修ガイド ・GEC Web ページ (https://www.waseda.jp/inst/gec/)	「春クォーター」「秋クォーター」科目のうち 週2コマ（週に2時限実施する）科目は、 3次登録の開放は行いません。 2次登録までに科目登録をするようにしてください。 ＜例：週2コマ科目＞ 火2時限・金2時限（週2回授業がある科目） 水4～5時限（2時限連続の科目） 水2時限＋オンデマンド（ハイブリッド科目） 2次・3次登録で登録可能な科目については、 GEC Web ページに掲載する「余裕定員表」を参照 してください。						
		数学科目								
		データ科学科目								
		情報科目								
		英語科目（※1）								
		言語科目								
		保健体育科目								
		自然科学科目								
		人文・社会科学科目								
日本語教育科目										
他大学提供科目		・他大学マニュアル ・GEC Web ページ (https://www.waseda.jp/inst/gec/) →学部学生の方へ →→他大学提供科目	各大学の登録スケジュールや申請方法については、 左記 Web ページを参照してください。						×	
留学センター提供科目		・全学オープン科目履修ガイド ・留学センターWeb ページ	○	○	○	○	○	○	○	
学部提供全学オープン科目		・全学オープン科目履修ガイド ・各学部 Web ページ	○	—	—	○	—	—	○ (※4)	
他学部提供科目		各学部 Web ページ	—	—	○	—	—	○	—	
教職等資格関連科目		『教職課程履修の手引き』 (教職支援センター発行)	○	○	○	○	○	○	○ (※5)	

- ※1 グローバルエデュケーションセンター提供の以下の英語科目は、グループ編成の都合上、登録機会が以下の通りとなります。
- ・Tutorial English（春クォーター、秋クォーター開講）：1次登録のみ
- ※2 1～2次登録期間に Web 科目登録で申請し、履修決定となった科目を3次登録期間中に取消可能か示しています。一部授業運営に支障が出るため、取消不可の科目があります。※3～※5も確認してください。
- ※3 グローバルエデュケーションセンター提供の科目のうち、1～2次登録で決定した以下の科目は取り消しできません。
- ・聴講料支払対象科目・学術的文章の作成
- ※4 若干数の科目は取消不可となっています。取消不可の科目は全学オープン科目履修ガイド 科目一覧の備考欄に記載されています。
- ※5 教職等資格関連科目のうち「教育実習演習」「教職実践演習」「介護体験実習講義」は取消不可。

国際教養学部の他学部提供科目登録（3次登録）について

- ・国際教養学部の Web ページ (<https://www.waseda.jp/fire/sils/students/registration/>) で、他学部生が登録可能な科目を公開しますので、事前に確認のうえ、Web から履修申請を行ってください。
- ・1人1科目までの申請となります。2科目以上登録した場合は、無作為に超過分がエラーとなりますので、2科目以上の登録は行わないでください。
- ・中級科目は2年生以上、上級科目は3年生以上のみが登録可能です。
- ・英語力の証明は求めませんが、TOEFL ITP 530点以上の英語力がある方を対象の目安としています。

2. 主なルール・注意点

科目登録では、登録エラーがおきないように注意すべき事項がいくつかあり、事前に確認する必要があります。主なルール・注意点をよく読み、自身の希望する科目登録が行えるように準備してください。なお、**エラーにより希望しない算入区分への登録決定、希望する科目の登録不可等が発生した場合、登録内容を変更することはできません。**十分に注意して登録に臨んでください。

	ルール・注意点	参照先	
履修申請時	算入区分	各科目には「算入区分」が設けられており、「卒業算入」扱いにできるものと、できないものの2種類があります。	「2-1. 単位の種類（算入区分）」
	制限単位数	「卒業算入」扱いとして申請できる単位数は、学期、科目区分、科目設置箇所などにより制限が設けられています。	「2-2. 登録制限単位数・算入上限単位数」
	他箇所科目の科目区分	他箇所提供科目は、科目の設置箇所や性質により算入区分・科目区分が異なります。	「2-3. 社会科学部以外で履修した科目の単位算入部門」
	留学における単位認定・履修計画	留学を検討している場合、単位認定を考慮して履修計画をたてる必要があります。	「2-4. 留学における単位認定・履修計画について」
	前提条件	一部の科目（積み上げ式科目）は、登録する前学期までに修得すべき所定の科目を合格する必要があります。	「2-5. 科目名のルールと履修方法」
	配当年次	各科目には配当年次が定められており、履修学年によって登録できる科目が制限されています。	
	遠距離	授業実施キャンパス間の移動時間が確保できない場合、登録はできません。	
	曜日・時限の重複	同一曜日時限には複数科目を申請できません。	
	同一科目の重複履修	同一学期に同一科目を申請することや、前学期までに単位を修得した科目を申請することはできません。	
履修申請後	例外条件	上記の例外として、科目名称や講義内容等の変更により履修条件が例外的に定められている科目があります。	「2-6. 履修条件の例外科目一覧」
	定員と抽選	各科目には定員が定められており、定員を超える希望申請があった場合には抽選により履修者が決定されます。	「2-7. 定員と抽選」
	取消・区分変更	一部科目では、決定後科目の取り消しと算入区分の変更ができます。	「2-8. 決定した科目の取り消し・算入区分変更」
	申請・登録結果の確認	申請情報および登録結果は、必ず Web 科目登録画面で確認してください。	「2-9. 申請情報・登録結果の確認」
	聴講料・実験実習料納入	聴講料・実験実習料の納入が必要な科目の登録が決定し、期限内に納入しなかった場合、決定科目は取り消しとなり、その後の科目登録において抽選の優先順位が下がります。	「2-10. 聴講料・実験実習料納入」

2-1. 単位の種類（算入区分）

各科目には「算入区分」が設けられており、卒業単位として加算される「卒業算入単位」と、卒業単位には加算されない「卒業非算入単位」とがあります。

◆卒業算入単位

卒業算入単位とは、科目を履修し、合格した場合、その単位が卒業必要単位数（124 単位）の一部として、それぞれの科目区分（初年次教育、必修英語、教養外国語、ミニマムディシプリン、専門・学際科目、コース科目、ゼミナール）の上限単位数まで**算入される単位**のことです。卒業算入として登録した科目はすべて **GPA（成績の平均、下記表に詳細あり）に影響します**。ただし、初年次教育科目のうち、「ラーニング・コミュニティ」は GPA の対象にはなりません。

なお、上限が設定されている、ミニマムディシプリン科目（上限 30 単位）、専門・学際科目（上限 52 単位）は上限単位数を超えて卒業算入単位として登録することが可能ですが、それぞれの上限単位数を超過した単位は卒業必要単位数（124 単位）に算入することはできません（GPA には影響します）。

また、科目登録時にエラーは表示されないのをご注意ください。

◆卒業非算入単位

非算入単位とは、科目を履修し合格した場合、成績は付与されますが、**卒業必要単位数には加算されない単位**のことです。

非算入科目には、「**超過履修科目**」と「**自由科目**」の 2 つがあります。卒業非算入として登録した科目は **GPA に影響しません**。

なお、初年次教育および必修外国語（必修英語・教養外国語）は、卒業算入単位から非算入単位に変更することはできません。

◇超過履修科目

超過履修科目とは、本来「卒業算入」として扱える科目が、申請者の希望や登録時のエラーにより「卒業非算入」の単位として登録されたものを指します。例えば、登録制限単位数を超えて科目登録を行う場合や、成績の良し悪しに関係なくご自身の研究または興味に基づいて履修したい場合に、「超過履修科目」として申請することができます。

ただし、超過履修科目として申請した科目（社会科学部設置科目）が抽選対象科目となった場合、卒業算入単位として申請した学生が優先的に登録されます。

◇自由科目

自由科目とは、「卒業非算入」としてのみ履修が可能な科目です。社会科学部のカリキュラムとして卒業算入単位に認められないと判断された科目、もしくは他箇所提供科目のうち社会科学部設置科目と「同名科目」または「同内容」と判断された科目が該当します。

【GPA（Grade Point Average）について】

GPA とは成績の平均を表す値で、学期毎または在学中通算の GPA が確認できます。対象科目は、「卒業算入科目」として登録したすべての科目で、不合格科目を含みます。

GPA は様々な場面で成績評価として利用され、留学プログラム申請や大学院入学、また奨学金判定基準等に利用されています。大切な指標となるため、科目登録の際には、「算入」「非算入」に十分注意して登録を行ってください。

GPA 計算式は以下のとおりです。

$$\frac{(A^+ \text{ 修得単位数} \times 4) + (A \text{ 修得単位数} \times 3) + (B \text{ 修得単位数} \times 2) + (C \text{ 修得単位数} \times 1)}{\text{総登録単位数（卒業算入単位すべて、不合格科目も含む）}}$$

2-2. 登録制限単位数・算入上限単位数

各学期に「卒業算入単位」として申請・登録できる単位数は制限があり、これらの制限を超えて申請するとエラーとなります。

《重要》

- 各登録制限単位数を超えて申請しようとすると、Web 科目登録時にエラーが表示されます。**エラーを解消せずに申請した場合、無作為に選ばれた科目が登録不可もしくは「超過履修科目（非算入）」として登録されます。**
- 一度「超過履修科目」として登録決定した科目の卒業算入区分への変更はできません。また、他の卒業算入科目との算入区分の入れ替えも認められません。各種制限単位数を超えて登録を希望する際は、必ずオーバーする単位数分以上をご自身で選び、超過履修科目（卒業非算入単位）として申請するようにしてください。

◆年間・半期登録制限単位数

◇1 年次入学者

3 年生以下		4 年生以上	
年間合計		年間合計	
40 単位		48 単位	
春学期	秋学期	春学期	秋学期
24 単位	24 単位	28 単位	28 単位

◇3 年次編入学者

3 年生		4 年生以上	
年間合計		年間合計	
48 単位		56 単位	
春学期	秋学期	春学期	秋学期
28 単位	28 単位	32 単位	32 単位

※「通年」・「春夏期」・「夏季集中」科目は「春学期」の登録単位数、「冬季集中」・「春季集中」・「夏秋期」科目は「秋学期」の登録単位数に数えられます。

重要 春学期に不合格となった単位があっても、不合格分の単位数は秋学期の登録制限単位数に補充されません。

- 例 1) 3 年次の春学期に 24 単位登録した場合、春学期科目がすべて不合格であったとしても、秋学期登録可能単位数は 16 単位までとなります（年間登録制限単位数：40 単位－春学期登録単位数：24 単位＝16 単位）。
- 例 2) 2 年次の春学期に 10 単位のみを登録した場合、秋学期の最大登録可能単位数は 30 単位ではなく、24 単位です（秋学期登録制限単位数の上限）。

◆科目種別ごとの登録制限・算入上限単位数

科目種別	年間登録制限	在学中算入上限
外国語・地域研究	—	16 単位
社会科学特殊講義（特講含む）	4 単位	12 単位
グローバルラーニング	4 単位	4 単位
ソーシャル・リサーチ	6 単位※	12 単位
ゼミナール I	2 単位	2 単位
ゼミナール II・III	4 単位	8 単位
課題研究	4 単位	4 単位

※ソーシャル・リサーチは春学期 2 単位、秋学期 4 単位の登録制限があります。

◆他箇所提供科目 登録制限・算入上限単位数

科目種別	年間登録制限	在学中算入上限
他箇所科目 合計	12 単位	36 単位
うち 外国語・地域研究	12 単位	16 単位
うち 保健体育科目	4 単位	4 単位
うち インターンシップ科目	2 単位	2 単位

※学術的文章の作成、統計リテラシーα・β、必修英語として履修した AWADE・Tutorial English および教養外国語として履修した朝鮮語・日本語は他箇所制限単位数の対象外です。

※他箇所提供科目のうち超過履修科目または自由科目として登録された科目は登録制限単位数・算入上限単位数に含まれません。

重要 単位認定の取り扱いについて

- 他箇所の在学中算入上限 36 単位には、**留学認定単位**、および**入学前の高校生特別聴講**、**外国学生導入教育**、**編入元大学からの認定単位**も含まれます。なお、これらの認定単位は、「年間登録制限単位」の対象外です。留学の単位認定の詳細は、「社会科学部生のための留学案内」で確認してください。

◀重要▶

登録制限単位数・算入上限単位数については P.36 に記載のとおりですが、合わせて以下の「超過履修科目・自由科目を含めた年間登録単位数の上限」および「オンライン授業科目の卒業算入上限と授業方法区分」についても必ず確認のうえ、履修計画を検討してください。

◆ 超過履修科目・自由科目を含めた年間登録単位数の上限

本学では、以下＜単位制度について＞に記載の内容から、卒業必要単位に算入する科目のみならず、超過履修科目・自由科目といった卒業必要単位に算入しない科目を含めて、年間登録単位数の上限の目安を年間 49 単位としています。

※超過履修科目・自由科目についての説明は P.35 をご参照ください。

参考 単位制度について

単位制度とは、一定の基準に従って授業科目を履修し、試験等に合格することによって、その授業科目の単位が付与される制度です。本学の各授業科目の単位数は、早稲田大学学則（早稲田大学大学院学則）により、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。また、1 単位あたりに必要となる授業時間数は、授業の方法（講義、演習等）にかかわらず、15 時間から 45 時間までの範囲で各学部が定める時間数としています。本学では、毎週 1 コマ（100 分）で 14 週実施される授業時間数を 30 時間とみなしています（7 週の場合は 15 時間とみなしています）。

そのため、2 単位科目の場合、90 時間に相当する内容の学修が必要となり、例えば講義科目（毎週 1 コマを 14 週）で 2 単位を修得するためには、授業時間数である 30 時間に加え、授業時間以外に約 60 時間に相当する内容の学修を行う必要があります。したがって、14 週の授業に対して毎回概ね 4 時間程度の内容に相当する授業時間外の学修（予習・復習等）が必要となります。

このように、単位修得のためには、授業時間だけでなく、授業時間外にも必要な学修時間を確保する必要があるため、1 年間で登録できる単位数を制限することが必要になります（9 月入学の場合は、春学期を起点として算出します）。なお、本学では、卒業（修了）必要単位に算入する科目のみならず、超過履修科目・自由科目といった卒業必要単位に算入しない科目を含めて、年間登録単位数の上限の目安を年間 49 単位としています。

重要 年間登録単位数の上限を超えて登録した場合の取り扱いについて

科目履修を行う際は、上記に説明する単位制度の趣旨を踏まえた年間登録単位数に留意してください。なお、年間登録単位数の上限を越えている場合、次学期以降の登録単位数について注意喚起および科目履修に関する面談を行う可能性があります。

◆ オンライン授業科目の卒業算入上限と授業方法区分

オンライン授業科目（オンラインによる授業が総授業時間の半分以上を超えるもの）は、大学設置基準により、**学部（通信教育課程および大学院の課程を除く。）における卒業所定単位数への算入は 60 単位まで**（以下「60 単位制限」とする）とされています。

本学では、今後もオンラインと対面を組み合わせた授業科目など、授業の実施方法が多様化することが想定されることから、科目登録時に各授業科目の実施方法や60 単位制限への計上の要否を確認できるように、対面授業科目・オンライン授業科目の分類を以下のとおり定義し、「授業方法区分」としてシラバスで示します。自身の履修計画を立てるにあたり、参考としてください。

<「授業方法区分」の定義について>



- ✓ 授業方法区分が、“【対面】”（下表の①、②）および“【非常時】”（下表の⑥、⑦、⑧）で始まる授業科目は「対面授業科目」と取り扱うため、60 単位制限には含めません。
- ✓ 授業方法区分が“【オンライン】”（下表の③、④、⑤）で始まる授業科目で修得した単位は、学部の卒業所定単位としては（③、④、⑤を合わせて）**60 単位を上限として履修が可能です**。

分類	授業方法区分	説明※1	60 単位制限 への計上要否	曜日時限重複 チェック※2	遠距離 チェック※3
対面授業科目	① 【対面】	全時限対面授業により実施する授業科目です（対面授業をオンライン配信する「ハイフレックス型」を含む）。	含めない	対象	対象
	② 【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）	対面授業とオンライン授業の併用により実施し、対面の割合が半数以上の授業科目です。			
オンライン授業科目	③ 【オンライン】ハイブリッド（対面回数半数未満）	対面授業とオンライン授業の併用により実施し、対面の割合が半数未満の授業科目です。	含める	対象	対象
	④ 【オンライン】フルオンデマンド	全時限オンデマンド授業により実施する授業科目です。		対象外	対象外
	⑤ 【オンライン】リアルタイム配信	全時限をオンライン授業により実施し、その一部または全時限をリアルタイム配信として実施する授業科目です。		対象	対象外
非常時対応※4 （すべて対面授業科目として扱う）	⑥ 【非常時】ハイブリッド	対面授業とオンライン授業の併用により実施する授業科目です。	含めない	対象	対象
	⑦ 【非常時】フルオンデマンド	全時限オンデマンドとして開講する科目です。			
	⑧ 【非常時】リアルタイム配信	全時限をオンラインにより実施し、その一部または全時限をリアルタイム配信として実施する授業科目です。			

※1 本学においてオンラインを用いて行われる授業は、以下のとおり分類されます。

■ オンデマンド配信型：

事前に収録された講義動画を視聴することで学び、小テストや課題提出による理解度確認や質疑応答、履修生同士の意見交換等を行う授業。

■ リアルタイム配信型：

指定されている曜日・時限に合わせて授業がライブ配信される授業。

■ ハイフレックス配信型：

教場で実施される対面授業をオンラインシステムにより配信し、履修者がオンラインでも対面でも同じ授業内容を受講可能な授業。本学では対面授業として扱う。

※2 「曜日時限重複チェック」とは、曜日・時限が設定されている授業科目間での時間割重複判定のことです。

※3 「遠距離チェック」とは、異なるキャンパス間の移動時間に基づいた受講可否判定のことです。

※4 「非常時対応」の授業方法区分（⑥～⑧）は、新型コロナウイルス感染症や大規模災害等の社会的な影響を受けて、やむを得ない理由（国や自治体からの大学に対する休講要請、教室定員の制限等）により、当初の授業計画において対面で実施する予定だった授業をオンラインで実施する場合に当該授業科目を設置する学部等の判断により適用します。これらの【非常時】の授業科目は、感染症や災害等の改善状況などにより、当初の計画通り対面授業を実施する可能性があるため、すべての非常時の授業科目について、予め曜日時限が設定されており、科目登録時の曜日時限重複チェック、遠距離チェックの対象となります。

【注意】卒業所定単位数へのオンライン授業の算入制限について

先頭に【オンライン】と付いている授業方法（前ページ表中の③、④、⑤）の科目について、卒業所定単位（124 単位）に算入できる単位数は 60 単位までに制限されます。

つまり、**卒業所定単位数（124 単位）のうち、最低 64 単位は、対面授業で修得する必要があります。**

Web 科目登録の際にシステムでこのチェックは行っていないので、ご自身で単位数を確認してください。

社会科学部事務所では、オンライン授業科目 60 単位制限に関する個別のお問い合わせには対応しておりません。また、それに伴う履修申請の正否に関するお問い合わせについても、同様に対応しておりません。

<オンライン授業科目 60 単位制限の対象となる科目・単位数の確認方法>**1) これから登録を行う科目・履修中の科目**

Web シラバスの「授業方法区分」が “【オンライン】” で始まる科目が計上対象です。

※卒業非算入科目（超過履修科目、自由科目）は計上不要です。

2) 過去に履修し、単位を修得した科目

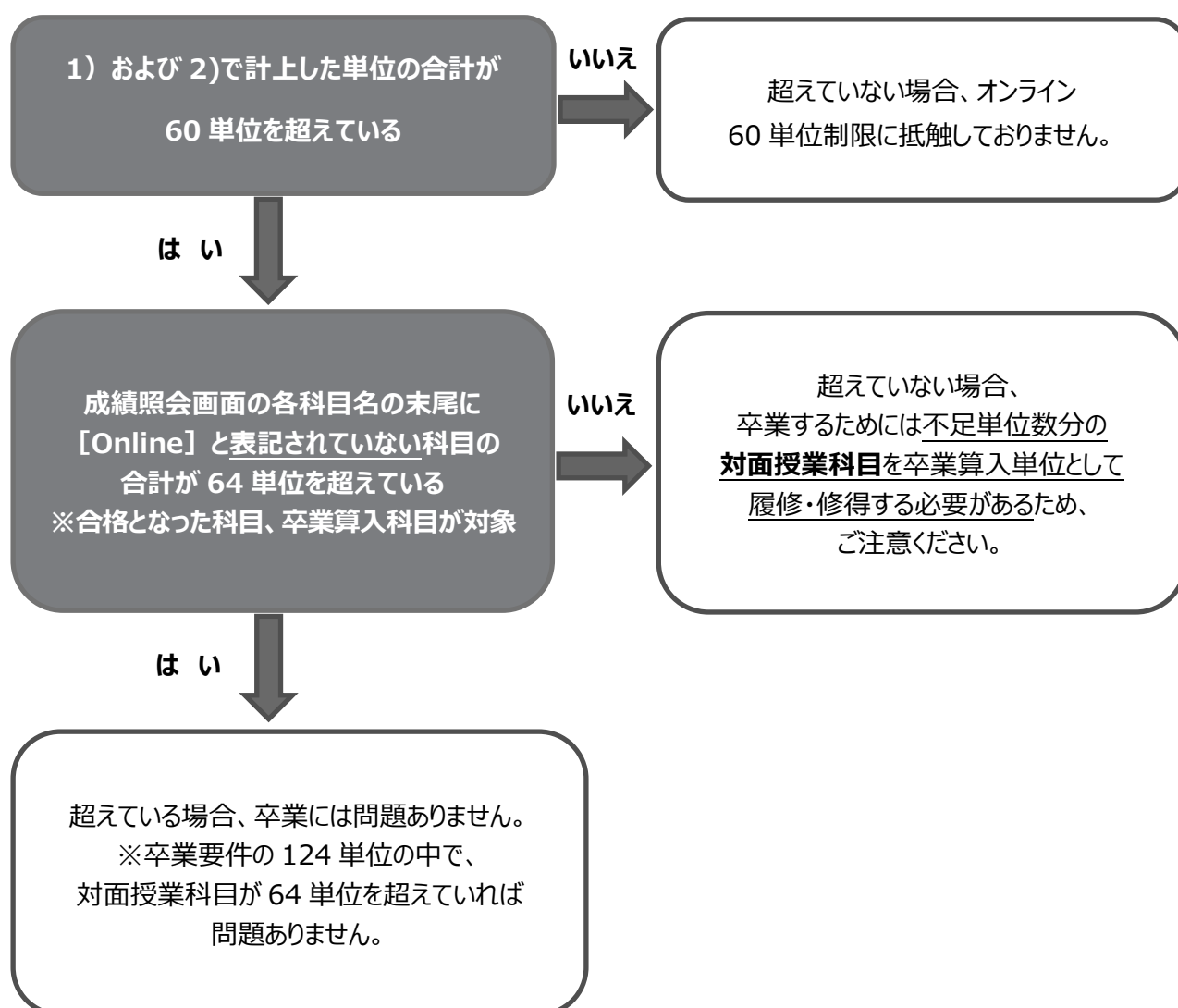
成績照会画面の各科目名の末尾に【Online】と表記された科目が計上対象です。

※履修年度にかかわらず、【Online】と表記された科目はすべて対象となりますのでご注意ください。

※不合格となった科目、卒業非算入科目（超過履修科目、自由科目）は計上不要です。

<オンライン授業科目の履修・修得状況確認フローチャート>

「はい」または「いいえ」の矢印の先の吹き出しをご確認ください。



2-3. 社会科学部以外で履修した科目の単位算入部門

◆全学オープン科目の取り扱いについて

下表において、各学部・センター提供全学オープン科目を履修した場合の単位の取り扱いを示しています。また、社会科学部 Web サイトにて公開される「全学オープン科目の取り扱い一覧」にて、全学オープン科目の科目部門が科目別に一覧化されています。この一覧表は、毎年更新されますので、申請前に確認するようにしてください。

分類	科目群		科目種別			備考
			講義科目	外国語科目	同名科目※ ¹	
全学オープン科目	グローバルエデュケーションセンター提供科目	アカデミック・ライティング科目	専門・学際科目	—	自由科目	※ ²
		数学科目	専門・学際科目	—	自由科目	
		データ科学科目	専門・学際科目	—	自由科目	※ ²
		情報科目	専門・学際科目	—	自由科目	
		英語科目	—	外国語・地域研究	自由科目	※ ³
		言語科目	—	外国語・地域研究	自由科目	※ ⁴
		保健体育科目	専門・学際科目	—	自由科目	算入上限 4 単位
		自然科学科目	専門・学際科目	—	自由科目	
		人文・社会科目	専門・学際科目	—	自由科目	
		国際教育科目	専門・学際科目	—	自由科目	
		日本語教育科目	専門・学際科目	—	自由科目	
		人間的力量科目	専門・学際科目	—	自由科目	
		インターンシップ実習	専門・学際科目	—	自由科目	算入上限 2 単位
		【他大学】 f-Campus 武蔵野美術大学 東京女子医科大学 広島大学 九州大学	専門・学際科目	—	—	年間登録制限単位数があります。GEC 発行の「全学オープン履修ガイド」を参照してください。
他学部提供科目	留学センター提供科目		専門・学際科目	—	自由科目	
	学部提供全学オープン科目(全学部)		専門・学際科目	外国語・地域研究	自由科目 ※ ⁵	
	他学部提供科目		自由科目	自由科目	自由科目	※ ⁶
	教職等資格関連科目		自由科目	—	—	
社会科学部提供科目		自由科目	—	—	—	※ ⁷

※1 同名科目とは、社会科学部設置科目と科目名が同じ科目に加え、科目内容が同じと判断された科目、および社会科学部カリキュラムとして卒業算入単位に認定できないと判断された科目も含まれ、すべて「自由科目」（卒業非算入単位）となります。

※2 1 年次に履修する「学術的文章の作成」および「統計リテラシーα・β」（GEC 提供科目）は、「初年次教育」の区分に入ります。

※3 1 年次に履修する「AWADE」および「Tutorial English」（GEC 提供科目）は、「必修英語」の区分に入ります。

※4 1 年次に教養外国語として履修する「朝鮮語」（GEC 提供科目）は、「教養外国語」の区分に入ります。

※5 同名科目は通常「自由科目」となりますが、語学科目に限り「外国語・地域研究」（卒業算入単位）として履修可能です。

◆政経・法・商学部の他学部提供科目の取り扱いについて（上記表中の※6）

早稲田大学の各学部が、全学オープン科目以外に他学部生の提供を許可し、自箇所学生の登録後、定員に余裕があれば開放される科目があり、それらの科目は 3 次登録において登録が可能です。これらの科目は原則として「自由科目」（卒業非算入科目）となりますが、政経・法・商学部提供の以下科目においては、専門・学際科目として卒業単位に算入できます。これらの学部では、社会科学部とは異なった特徴を持っていますので、強い専門性を志向する学生の皆さんの履修を推奨しています。

学部	科目部門
政治経済学部	1. 政治学科科目部門（文献研究、公共哲学を除く） 2. 経済学科科目部門（入門科目を除く）
法学部	法律科目（演習科目を除く）
商学部	専門教育科目（演習科目を除く）

※対象科目の詳細は、社会科学部 Web サイトを参照してください。

◆社会科学部 先取り履修について（上記表中の※7）

科目担当教員の承認があれば、年間 8 単位まで社会科学部提供の講義科目履修が可能です。「自由科目」（卒業非算入科目）となりますが、社会科学部入学後、最大 10 単位まで修士課程修了単位として認定が可能です。

【申請時期】春学期／秋学期 1 次～3 次登録期間

2-4. 留学における単位認定・履修計画について

留学中に修得した単位は、教授会の承認をもって正式に認定が確定しますが、ここでは認定の考え方について記し、留学前の履修について意識しておくべきことを説明します。詳細は、「社会科学部生のため留学案内」（事務所配布）を確認してください。

単位認定は、基本的な考え方として、留学先機関での履修科目の内容・分野によって、社会科学部の各科目部門へ認定されます。何単位認定されるか、認定単位数の上限に関しては、留学前までの「他箇所・他機関科目」の履修状況と「各科目部門」の履修状況の2点から確定します。

1) 他箇所・他機関科目の履修状況を踏まえた認定上限に関して

留学先での履修科目は、「他箇所・他機関科目」として取り扱われ、認定可能な科目部門は、以下表の通り、「必修外国語科目（必修英語・教養外国語）」ならびに「専門・学際科目」となり、それぞれ認定上限が設定されています。

「専門・学際科目」の認定上限 36 単位には、留学前に修得した「他箇所・他機関科目」の単位数を含みます。つまり、たとえば留学前に GEC や他学部等の科目を 6 単位修得済の場合、「専門・学際科目」の単位認定上限は計 30 単位となります（必修外国語科目は下表の通り別枠）。

科目部門（社会学）		留学先での履修科目の専門分野	単位認定 上限	備考
必修外国語科目	必修英語	英語の学習を目的とした科目 ※社会科学部での「必修英語」の取り扱いに 準ずる	6 単位	
	教養外国語	英語以外の言語の学習を目的とした科目 ※社会科学部での「教養外国語」の取り扱いに 準ずる	4 単位	
専門・学際科目		外国語の学習を目的とした科目 ※社会科学部での「外国語・地域研究」の取 り扱いに準ずる	※(16 単位)	※外国語の学習を 目的とした科目 の 16 単位は、 36 単位の内数
		社会科学総合、人文科学、自然科学、 政治学、法学、経済学、商学、情報科学 の各分野に相当する分野	36 単位	

2) 「各科目部門」の卒業算入単位数を踏まえた認定上限に関して

留学先での履修科目は、表の通り「必修外国語科目（必修英語・教養外国語）」もしくは「専門・学際科目」への認定が可能ですが、留学前に各科目部門が卒業所定単位数に達している場合、その科目部門への単位認定申請はできません。つまり、1 年生で必修外国語の単位を取り終えた状態で、2 年生以上で留学に行く場合、「必修外国語」には認定申請できません。また、留学前に「専門・学際科目」の上限単位数である 52 単位をすでに修得済の場合、留学先で履修しても、認定の枠がないため、単位認定申請はできません。単位認定ができないと、復学後多くの科目の履修が必要になることや、場合によっては、延長生になる可能性があります。

つまり、留学を検討していて、かつ 4 年間で大学を卒業したい場合は、単位認定の認定上限を意識して、計画的に履修を進める必要があります。留学前には、「他箇所・他機関科目」の履修はおさえると同時に、「専門・学際科目」の単位数をできるだけ多く残した状態で留学にいかれることをおすすめします。

◆留学を含めた4年間の履修モデル

以下に、留学を含めた4年間の履修計画を記しますが、あくまでも例となりますので、ご自身の判断で履修計画を立ててください。迷う点があれば、社会科学部事務所まで相談してください。

●2年秋から留学に出発する場合

1年生		2年生		3年生		4年生	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
自動登録された ・初年次教育 ・必修外国語科目 ・ミニマムディシプリン を中心に履修	ミニマムディシプリンを中心に履修	専門・学際科目を20単位程度まで履修	留学 (専門・学際科目に20単位程度認定する)		コース科目を中心に残りの必要単位を履修		

●3年秋から留学に出発する場合

1年生		2年生		3年生		4年生	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
自動登録された ・初年次教育 ・必修外国語科目 ・ミニマムディシプリン を中心に履修	ミニマムディシプリンを中心に履修	専門・学際科目を20単位程度まで履修	コース科目を中心に履修	留学 (専門・学際科目に20単位程度認定する)		残りの必要単位を履修	

2-5. 科目名のルールと履修方法

社会科学部の科目名は「科目名称」と「クラス名称」（科目名の後につくアルファベット）により識別されます。科目名によって履修方法が異なりますので、十分注意してください。

(例)	経済学入門 1	〔ミクロ経済学〕	A ~ C
	科 目 名	ク ラ ス 名	
	流 通 論 II	A ~ B	
	科 目 名	ク ラ ス 名	

積み上げ式科目① 「I・II 科目」（Iを履修し単位を修得していないと、IIが履修できない）

社会科学部設置科目では、科目名末尾にローマ数字の「I」または「II」がついていた場合、**Iを合格していないとIIの登録・履修ができません**（前提条件エラー）。

【例】「商業史 I」の単位を前学期までに修得していない場合、「商業史 II」の登録はできません。

※「I」を登録しても、不合格であった場合は「II」の登録ができません。

※必ずしも「I」が春学期、「II」が秋学期に開講されるとは限らないため、在学中計画的に履修をしてください。

※「I」と「II」は、積み上げ式科目のため、「I」を合格した場合、「II」も登録・履修されることが望めます。春学期に「I」を履修・合格した学生には、秋学期 1 次登録前に「II」が自動登録されます。**登録された「II」は秋学期 1 次登録期間から取消ができます（例外あり）**ので、履修を望まない場合は、ご自身で取消してください。

※春学期終了時点で卒業必要単位数を修得済であっても、春学期に「I」を履修・合格した場合には、秋学期 1 次登録前に「II」が自動登録されます。

【I/II 積み上げ式科目の例外①：ゼミナール】

ゼミナールにも「I/II/III」が科目名につきますが、履修可否は担当教員の判断となるため、「II」または「III」からの履修が認められる場合もあります。※「I」の単位を修得しても、「II」の履修が認められない場合もあります。

【I/II 積み上げ式科目の例外②：ソーシャル・リサーチ】

I・II はセット科目のため、I の履修が決定した場合、II が自動的に登録されます。また、I・II のいずれも科目取消を不可とします。I の成績が不合格であっても、II の取消はできません。詳細は P.30 を必ず確認してください。

積み上げ式科目② 外国語科目（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語）

社会科学部設置の外国語科目（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語）では、科目名に「基礎」・「初級」がついていた場合、「**基礎**」科目を合格、単位修得していないと、「**初級**」科目の登録・履修はできません（前提条件エラー）。

【例】「ドイツ語 1 基礎」の単位を前学期までに修得していない場合、「ドイツ語 1 初級」の登録はできません。

科目名に「1」・「2」・「3」…がつく科目

社会科学部設置で、科目名末尾に「1」・「2」・「3」…がついている科目は、**いずれの科目からでも履修可能です**。

【例】「民法 1」を履修していなくても、「民法 3」の登録が可能です。

※「1」は「2」の、「2」は「3」の前提科目ではありません。番号に関係なく、登録・履修が可能です。

※必ずしも、1, 2, 3…の全てを履修する必要はありません。

クラス名に「A」・「B」・「C」…がつく科目

社会科学部設置で、クラス名が「A」・「B」・「C」…となっている科目は**同科目**です。いずれか 1 科目のみ履修が可能で、一度単位を修得した場合は担当教員が異なっても、再度登録・履修はできません。

【例】「政治分析 A」の単位が既得であった場合、「政治分析 B」の登録はできません。

※同学期に複数クラスが開講している場合、その学期にはいずれか 1 科目のみ登録が可能です。複数クラスの申請を行った場合、どちらか一方がエラーとなり、登録されません。

※前学期までに「A（または B,C…）」の単位が不合格であった場合、同じクラス、また別クラスの登録・履修は可能です。

2-6. 履修条件の例外科目一覧

前述の諸条件に加えて、履修条件変更や科目名称変更により、例外的に登録できない科目があります。（以下一覧）

対象科目	例外履修条件
国際教育協力論	「Education and Development」の単位を修得している場合は履修できません。また、「Education and Development」と同一学期に履修することはできません。
Education and Development	「国際教育協力論」の単位を修得している場合は履修できません。また、「国際教育協力論」と同一学期に履修することはできません。
グローバルビジネス論 1	「International Business」の単位を修得している場合は履修できません。また、「International Business」と同一学期に履修することはできません。
グローバルビジネス論 2	「International Business」の単位を修得している場合は履修できません。また、「International Business」と同一学期に履修することはできません。
International Business	「グローバルビジネス論 1」または「グローバルビジネス論 2」の単位を修得している場合は履修できません。また、「グローバルビジネス論 1」または「グローバルビジネス論 2」と同一学期に履修することはできません。
健康と人権	「Health and Human Rights」の単位を修得している場合は履修できません。また、「Health and Human Rights」と同一学期に履修することはできません。
Health and Human Rights	「健康と人権」の単位を修得している場合は履修できません。また、「健康と人権」と同一学期に履修することはできません。
国際金融論	「International Finance」の単位を修得している場合は履修できません。また、「International Finance」と同一学期に履修することはできません。
International Finance	「国際金融論」の単位を修得している場合は履修できません。また、「国際金融論」と同一学期に履修することはできません。
社会科学のための回帰分析 1（回帰分析の基礎、クロスセクションデータの分析）	「Regression Analysis for Social Sciences 1: Basics of Regression Analysis, Analysis of Cross-Sectional Data」の単位を修得している場合は履修できません。また、「Regression Analysis for Social Sciences 1: Basics of Regression Analysis, Analysis of Cross-Sectional Data」と同一学期に履修することはできません。
Regression Analysis for Social Sciences 1: Basics of Regression Analysis, Analysis of Cross-Sectional Data	「社会科学のための回帰分析 1（回帰分析の基礎、クロスセクションデータの分析）」の単位を修得している場合は履修できません。また、「社会科学のための回帰分析 1（回帰分析の基礎、クロスセクションデータの分析）」と同一学期に履修することはできません。
社会科学のための回帰分析 2（時系列データ、パネルデータの分析）	「Regression Analysis for Social Sciences 2: Analysis of Time Series and Panel Data」の単位を修得している場合は履修できません。また、「Regression Analysis for Social Sciences 2: Analysis of Time Series and Panel Data」と同一学期に履修することはできません。
Regression Analysis for Social Sciences 2: Analysis of Time Series and Panel Data	「社会科学のための回帰分析 2（時系列データ、パネルデータの分析）」の単位を修得している場合は履修できません。また、「社会科学のための回帰分析 2（時系列データ、パネルデータの分析）」と同一学期に履修することはできません。
組織行動論	「Cross-Cultural Organizational Behavior」の単位を修得している場合は履修できません。また、「Cross-Cultural Organizational Behavior」と同一学期に履修することはできません。
Cross-Cultural Organizational Behavior	「組織行動論」の単位を修得している場合は履修できません。また、「組織行動論」と同一学期に履修することはできません。
理論人類学 2	「Evolutionary Anthropology」の単位を修得している場合は履修できません。また、「Evolutionary Anthropology」と同一学期に履修することはできません。
Evolutionary Anthropology	「理論人類学 2」の単位を修得している場合は履修できません。また、「理論人類学 2」と同一学期に履修することはできません。
スペイン語・会話	「スペイン語 1 基礎」および「スペイン語 2 基礎」の単位を修得している場合に履修可能です。
応用ミクロ経済学 1	「経済学入門 1（ミクロ経済学）」の単位を修得している場合に履修可能です。
応用ミクロ経済学 2	「経済学入門 1（ミクロ経済学）」の単位を修得している場合に履修可能です。
Economic Growth	「Introduction to Economics」の単位を修得している場合に履修可能です。
異文化コミュニケーション論	「Intercultural Communication」の単位を修得している場合は履修できません。また、「Intercultural Communication」と同一学期に履修することはできません。
Intercultural Communication	「異文化コミュニケーション論」の単位を修得している場合は履修できません。また、「異文化コミュニケーション論」と同一学期に履修することはできません。
日本近代政治史 1	2024 年度以前に「日本史概論 1」の単位を修得している場合は履修できません。
日本近代政治史 2	2024 年度以前に「日本史概論 2」の単位を修得している場合は履修できません。
政治学原論 1	「政治学原論 I」の単位を修得している場合は履修できません。
政治学原論 2	「政治学原論 II」の単位を修得している場合は履修できません。
科学技術・イノベーション概論	「科学の歴史と科学技術政策」の単位を修得している場合は履修できません。
企業活動と法実務 1	「企業活動と法 1」の単位を修得している場合は履修できません。
企業活動と法実務 2	「企業活動と法 2」の単位を修得している場合は履修できません。

2-7. 定員と抽選

社会科学部設置科目の定員は以下、別途定員が定められている科目以外は、原則 1 科目 300 名です。

※教室設備との関係から、教室収容定員を履修定員とすることがあります。

定員が定められている科目

対象科目	履修定員（最大）
〇〇語 基礎・初級	40 名
〇〇語・地域研究入門 〇〇語・地域研究 〇〇語・地域研究演習	40 名
スペイン語・会話	20 名
英語 1 - 2 /スピーチ	40 名
英書研究	40 名
グローバルラーニング	40 名
ソーシャル・リサーチ	20 名程度
ヴィジュアルイメージ研究	20 名
社会デザインの思考と技法 2 〔フィールドでの技術〕	30 名
社会デザインの思考と技法 4 〔参加のデザイン技術〕	30 名
社会デザインの思考と技法 5 〔演劇実践と場の創造〕	20 名
紛争解決論実習 1・2・3	15 名
コンピューターームで授業を行う科目	26 名 (14-613) または 42 名 (14-614)
JA 共済寄附講座 SDGs 未来都市に学ぶ 1・2	32 名

対象科目	履修定員（最大）
イオン環境財団寄附講座 サステナブルコミュニティ論	100 名
持続可能社会実現への企業の貢献： エコファースト企業の取り組み	50 名
グローバル・サプライチェーン・マネジメント	20 名
情報化社会とワーキングスタイル	30 名
健康と人権	30 名
異文化コミュニケーション論	49 名
Examining Global Issues 1・2	20 名
Exploring Cultures through Film 1・2	20 名
Ethnicity and Gender in Global Issues 1	20 名
Diversity in Modern Japan 2	20 名
科目部門が「Practicum（実践）」の科目（★）	20～35 名
Japanese Patterns of Communication（★）	35 名
Intercultural Communication（★）	35 名
Postwar Japan-US Relations（★）	20 名
Building Local Peace: Field Work Practice（★）	8 名

（★）英語学位プログラム設置科目

抽選時の優先順位

希望者が各科目の定員を超える場合には、抽選が行われ登録者が決定されます。抽選の結果、落選してしまった場合、「選外」となり登録されません。なお、抽選の際には、下記の「抽選時に優先順位が定められている科目」を除き、申請者全員が平等に扱われます。

◆抽選時に優先順位が定められている科目

科目区分	抽選における優先順位（数字が小さいほど高順位）			
	1		2	
ミニマムディシプリン科目	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生以上

科目区分	抽選における優先順位（数字が小さいほど高順位）		
	1	2	3
コース科目 （一般プログラム設置科目）	・自コース学生 ・2023 年度以前入学者	・他コース学生 ・英語学位プログラム学生 ・他箇所学生	—
コース科目 （英語学位プログラム設置科目）	・英語学位プログラム学生	・自コース学生 ・2023 年度以前入学者	・他コース学生 ・他箇所学生

前年度に抽選が発生した科目

今年度開講科目の内（外国語科目を除く）、前年度に抽選が発生した科目について、その科目名および倍率を3月中旬頃までに社会科学部Webサイトの科目登録関連ページに掲載します。1次登録に向けて履修計画をたてるうえで参考としてください。

2-8. 決定した科目の取り消し・算入区分変更

一度申請し、決定した科目は原則として取り消し、変更はできません。

ただし、一部の科目においては、**3次登録期間中に限り**、1次・2次登録期間に登録した科目の①取り消し、または②算入区分変更（算入→非算入）が認められています。対象科目はそれぞれ以下のとおりです。

◆各科目種別における3次登録期間中の取り消し・算入区分変更の可否について

科目種別		① 取り消し	② 算入区分変更
社会科学部設置科目	初年次教育	×	×
	必修外国語	×	×
	ミニマムディシプリン科目	○ (注) 1年次に自動登録された「入門」科目は取り消し不可	×
	専門・学際科目	○	×
	○○語 基礎・初級	×	×
	ソーシャル・リサーチ	×	×
	コース科目	○	×
	ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ	×	×
他箇所設置科目（以下の場合を除く）		○	○ (算入→非算入のみ)
P.33で取消不可とされている科目		×	○ (算入→非算入のみ)
日本語教育研究センター提供科目 ※		○	○ (算入→非算入、非算入→算入)

※ 外国学生に限りです。また、3次登録期間だけでなく、2次登録期間でも取り消し・算入区分変更が可能です。

重 要

- 一度「取り消し」を行った科目は、**登録決定に戻すことはできません。**
- 科目区分の変更の確定後に、**再度「非算入」から「算入」に変更することはできません。**
- 取り消し単位数および区分変更する単位数の上限はありませんが、**3次登録終了後に追加登録の機会はありません。**
- 取り消し、または算入区分を変更した分の単位数を、3次登録で別科目により補うことは可能です。
- 自動登録された必修科目を取り消すことはできません。
- 秋学期に自動登録された積み上げ式科目は、秋学期1次登録から取り消すことが可能です。
(P.43に記載の「積み上げ式科目①」を参照)

※ 科目取り消し、算入区分変更等の操作方法については、P.54～をご確認ください。

2-9. 申請情報・登録結果の確認

申請情報および登録結果は Web 科目登録画面にて必ず確認してください。

Web 科目登録画面

科目登録結果発表日の朝から最新の科目登録結果が反映されますので必ずご確認ください。

なお、科目登録は原則自己責任となりますので、Web 科目登録画面を確認しなかったことで生じた履修上の不利益について、学部は一切責任を負いかねますことご承知おきください。

重要 授業実施教室の確認について

授業が行われる教室は、必ず最新の Web 科目登録画面にて確認してください。

なお、教室は授業開始後も変更される可能性がありますので、科目設置箇所の掲示板やWebシラバスもあわせて確認してください。

注意 「登録制限単位数オーバーエラー」を解消しないまま科目登録を終えた場合、登録申請した科目が無作為に「不可」または「超過履修（卒業非算入）」に変更されます。登録結果を確認する際、この点もご自身で確認してください。

2-10. 聴講料・実験実習料納入

聴講料・実験実習料は、一部の科目を履修するにあたって授業料以外に支払う必要のある費用のことです（実習科目や体育科目等）。期限までに納入しなかった場合、決定科目は取り消しとなり、その後の科目登録において抽選の優先順位が下がります。

◆納入期間

登録学期	納入対象科目	納入期間
春学期	1次登録／2次登録／3次登録	4月24日（木）～ 4月28日（月）23:59
秋学期	1次登録／2次登録／3次登録	10月15日（水）～10月20日（月）23:59

※上記期間外の納入は一切受け付けられません。

◆納入方法

科目の登録が決定したら、以下①～③の方法で納入を完了させてください。

①納入案内メールの確認

納入期間の初日に、Waseda メールアドレス宛に**納入案内メール**が届きます。

メールには、納入にあたり必要な情報が記載されていますので、必ず確認をしてください。

＜納入案内メール＞

差出人：fee-payment@list.waseda.jp

件名：【重要】2025年度●学期登録 聴講料・実験実習料の納入について

本文：【納入金額（合計）・納入期限・納入方法選択画面の URL・注意事項】などが記載

※Waseda メールの容量がいっぱいの場合、メールを受信することができません。事前に空き容量を確認するようにしてください。

※納入案内メールや納入手順案内メール（納入方法選択後に送信）が「迷惑メール」フォルダに入ってしまうことがあります。メールが見つからない場合は、検索ボックスに【検索キーワード：【fee-payment】】を入力し、【迷惑メール】や【ゴミ箱】も含めて検索してみてください。それでもメールが見つからない場合は、以下の窓口にお問い合わせください。

【納入方法に関するお問い合わせ】

fee-payment@list.waseda.jp（早稲田大学教務部教育企画課）

※お問い合わせの際は、必ず Waseda メールアドレスを使用し、学籍番号・氏名・所属学部・携帯電話番号を明記してください。

※お問い合わせ対応時間：月曜～金曜 9:00～17:00（土日除く）

※科目登録・授業の履修等に関する内容については、所属学部事務所、または科目設置箇所までお問い合わせください。

②納入方法の選択・確定

納入方法は以下の3つから選択できます。

メール本文中の URL をクリックし、納入方法選択画面から納入方法を1つ選択してください。

一度確定した納入方法を変更することはできませんのでご注意ください。

納入方法	説明	備考・注意
コンビニエンスストア（受付番号）決済	納入方法選択画面より支払用番号を発行し、コンビニ店舗で納入する方法 【詳細ページ】 https://waseda.box.com/v/waseda-freepayment	・Web 上で納入先のコンビニを選択する必要あり（ <u>番号発行後のコンビニ変更不可</u> ）。 ・基本的にクレジットカードでの納入不可。 ・30 万円を超える納入不可。
ペイジー決済	納入方法選択画面で支払用番号を発行し、各金融機関のインターネットバンキングまたは ATM を利用して納入する方法 【詳細ページ（利用可能な金融機関など）】 http://www.pay-easy.jp/howto/index.html	・納入金額が10万円を超える場合、金融機関の ATM は利用不可（インターネットバンキングは可）。 ・コンビニ設置の ATM は不可。
クレジットカード決済	納入方法選択画面でクレジットカード情報を入力して納入する方法	・VISA・MasterCard のみ対応。その他のブランド不可。 ・分割・リボ払い不可。 ・決済不可の場合は、納入方法選択画面に戻る。

③納入手順の確認・納入完了

納入方法の確定後、Waseda メールアドレス宛に**納入手順案内メール**が届きます。

その手順にしたがって、期限までに納入を完了すると、**納入完了通知メール**が届きます。

※「クレジットカード決済」選択者は、②で納入方法が確定した時点で決済完了となり、納入完了通知メールが届きます（納入手順案内メールは届きません）。

◆注意事項

- ・**期間外の納入はいかなる理由があっても認められません（期間間際に納入を試みたが、完了しなかった場合も含む）。未納の場合、決定科目の履修が認められないだけでなく、その後の科目登録において抽選の順位が下がることがあります。**
- ・聴講料・実験実習料は納入案内メールに記載された合計金額をすべて納入してください。**一部の科目の聴講料・実験実習料のみ納入することはできません。また、納入後の返金もできません。**
- ・納入方法の確定後は、別の方法に変更できません。
- ・クレジットカード決済を利用する際は、カードの利用限度額や有効期限に注意してください。
- ・**大学生協店舗で納入を行うことはできません。**
- ・**新入生必修の「Tutorial English」については、入学時に納入済みですので、科目登録後に納入する必要はありません。**
- ・**1次登録で決定となった「Tutorial English」については、レッスングループ編成の都合上、その他の登録決定科目とは異なる期間に実験実習料を納入します。**
- ・納入案内メールが届かない、またはあやまって削除してしまった場合は教育企画課（fee-payment@list.waseda.jp）までお問い合わせください。

◆聴講料・実験実習料が必要な科目（2025 年度社会科学部設置科目）

科目名	聴講料・実験実習料
ソーシャル・リサーチ（歴史と記憶） I	¥5,000
ソーシャル・リサーチ（歴史と記憶） II	¥5,000
ソーシャル・リサーチ（ジェンダーとセクシュアリティ） I	¥5,000
ソーシャル・リサーチ（ジェンダーとセクシュアリティ） II	¥5,000
紛争解決論実習 1	¥20,000
Building Local Peace : Field Work Practice ※英語学位プログラム提供科目	¥5,000

- ・上記科目については聴講料・実験実習料に加えて実費精算が必要となるものがあります。また、上記以外の科目においても実費精算が必要になる可能性があります。履修を検討する科目については必ずシラバスをご確認ください。
- ・他箇所提供科目における聴講料・実験実習料の有無については全学オープン科目履修ガイドや Web シラバスをご確認ください。

3. WEB 科目登録利用マニュアル

Web 科目登録利用手順

※凡例  …中心となる作業。数字は、作業順序

【注意】科目登録をWEBで申請する場合、申請する科目をあらかじめ決めて申請をしてください！

1. Web 科目登録の流れ

「成績照会・科目登録専用ログイン」画面からのログイン

○MyWaseda ログイン前画面左下の＜成績照会・科目登録専用＞

をクリックし＜成績照会・科目登録専用ログイン＞画面からログインを行い、
＜成績照会・科目登録専用メニュー＞から科目登録を選択します。

○登録済みの科目を確認します。

登録科目一覧の確認

①科目検索

- [科目検索]ボタンをクリックすると科目検索画面が表示されます。
- 科目開講箇所を選択し科目群、検索条件を指定して[科目検索]ボタンをクリックします。
- 検索条件に合う履修の許可される科目が表示されます（それ以外の科目は非表示）。

①

登録希望
科目の検索

②

科目の[選択]

②科目の[選択]

- 選択チェックボックスにチェックを入れます（次の科目を検索するか登録科目一覧に戻ると選択中となります）。※この作業を繰り返します。

③科目申請

- 選択中の科目を[科目申請]ボタンをクリックして申請します。

科目申請

申請内容確認

【重要】

- 検索結果を選択しただけでは、申請は完了しません。必ず[科目申請]ボタンをクリックして、申請を行ってください。
- 登録科目一覧の状態欄に“申請中”と表示されていれば、申請は完了しています。

申請中

エラー

- エラーの場合、エラー内容を確認してエラーを解消します。

抽選/登録チェック

- 抽選／登録チェックは大学の行う作業です。

科目取消

- 登録科目一覧画面から[科目取消]ボタンをクリックします。

確認

- 取消可能な科目の一覧が表示されますので「取り消す科目の」取消チェックボックスにチェックを入れて[取消]ボタンをクリックします。

- 申請中となった科目は申請が完了しています。登録結果発表で抽選結果を確認します。

- 申請時のチェックで判定を行わない履修規定については、その登録結果発表にて併せて発表されます。

登録結果発表

決定
登録完了♪選外・不可
次の登録へ

2. Web 科目登録画面説明

Web 科目登録は、すべてこの画面（ログイン後、メニューから科目登録を選択した状態）から行います。

(1) 履修申請(登録科目一覧)(この画面)を中心に4つの画面で構成されます。登録科目一覧では現在の科目の状態を常に確認してください。

(2) 履修希望科目は[科目検索]ボタンにより科目検索画面で検索のうえ選択します。検索～選択の作業が終了したら登録科目一覧に戻り[科目申請]ボタンで申請を確定してください。

(3) 一部の科目は登録の取り消しが可能です。取消可能科目は[科目取消]ボタンで確認できます。

(4) 一部の科目は科目区分の変更が可能です。変更可能科目は[発表後算入変更]ボタンで確認できます。

(5) [閉じる]ボタンで作業を終了する前に[印刷]ボタンでこの画面を印刷して保管してください。

(1) ■所属学部Web申請期間
春学期1次登録 2013年3月30日 10:00～2013年4月2日 17:00 申請期間詳細情報

(3) 科目検索
科目申請
科目取消

発表後算入変更

■登録科目一覧 備考に「¥」マークのある科目は聴講料等の支払対象、[関連URL]ボタンは関連するWebサイトへのリンク、[入力有]ボタンは追加で登録する情報の申請画面へのリンクを表しています。科目名をクリックするとシラバス情報が表示されます。

登録科目数	28	通年	0	春学期	22	秋学期	6				
学期	曜日	時限	開講学部	備考	科目名	担当教員	キャンパス	教室名	科目区分	単位	状態/希望順位
春学期	月	3時限	政経		政治学基礎 03	谷藤 悦史	早稲田	15-202	専門・関連・政治	2	申請中
春学期	水	2時限	政経		ゲーム理論入門 03	船木 由喜彦	早稲田	15-401	基礎・入門:必修以外	2	申請中
春学期	金	4時限	政経		比較宗教学a 01	鎌田 東二	早稲田	15-201	隣接・文化・歴史	2	申請中
春学期	土	3時限	政経		計量分析 01	松村 幸輝	早稲田	4-307(PC室)	専門・基礎:必修以外	2	申請中
春学期	月	1時限	政経		経済学入門A 03	長江 亮	早稲田	8-B101	基礎・入門:必修	2	決定
春学期	月	2時限	政経		解析学入門 01	西原 健二	早稲田	1-301	基礎・数学:必修	4	決定

(1) 申請期間表示

科目により申請締切日が異なります。科目群ごとの申請期間を確認してください。

(2) 登録科目一覧

現在の科目登録の状態を科目ごとに表示します。備考欄に「¥」マークの表示される科目は聴講料等の納入が必要です(期限までに納入しない場合、申請科目の登録が取り消されます)。

(3) 各機能ボタン

〔科目検索〕〔科目申請〕〔科目取消〕の各機能ボタンが用意されています。

① 〔科目検索〕

〔科目検索〕ボタンを押すと「科目検索画面」に遷移します。「科目検索画面」では、申請しようとする科目の開講箇所を指定して〔確定〕ボタンを押し、科目群を選択します。検索条件には必ず1項目以上を入力します。〔科目検索〕ボタンを押すと申請可能な科目のリストを表示します(履修できない科目はあらかじめ検索対象から除かれます)。

② 〔科目申請〕

〔科目申請〕ボタンを押すと、選択中の科目の申請を確定するための確認画面が表示されます。

③ 〔科目取消〕

〔科目取消〕ボタンを押すと、科目取消を確定するための確認画面が表示されます。取り消すことができるのは、選択中、申請中の科目が対象です。

※学部によっては限られた期間内で登録決定科目を取り消すことができます。

(4) 印刷ボタン

使用中のPCがプリンターに接続している場合、このボタンを押すことで画面イメージを印刷することができます。申請科目の保管に利用してください。

3. Web 科目登録利用手順

1

成績照会・科目登録
専用メニュー

<https://my.waseda.jp/>

上記のURLにアクセスし、
＜成績照会・科目登録専用＞を選択し
ます。

- 専用メニューは MyWaseda ログイン画面の左下にあります
- 科目登録期間中は専用メニューを利用してください。

成績照会・科目登録専用



2

ログイン

Waseda メールアドレス、パスワード
を入力して [Login] ボタンをクリッ
クします。

WASEDA University
サインイン

Wasedaメールアドレス

アカウントにアクセスできない場合

次へ

【重要】2021年8月21日より、ログイン画面に加えて、**ログイン時のIDがWasedaメールアドレスに変更**されましたのでご注意ください。詳細はこちらをご確認ください。ログインできない場合（パスワードを忘れた、等）はこちら、初回ログインの方はこちらをご確認ください。

WASEDA University

〒XXXXXXXX@waseda.jp

パスワードの入力

パスワード

パスワードを忘れた場合

サインイン

【重要】2021年8月21日より、ログイン画面に加えて、**ログイン時のIDがWasedaメールアドレスに変更**されましたのでご注意ください。詳細はこちらをご確認ください。ログインできない場合（パスワードを忘れた、等）はこちら、初回ログインの方はこちらをご確認ください。

3

成績照会・科目登録
専用メニュー

ログインすると「成績照会・科目登録専用メニュー」が表示されます。
＜科目登録＞のリンクをクリックし
ます。

○履修申請に関する問い合わせを行
う場合には、「お問い合わせフォー
ム」ボタンをクリックし、必要事
項を記入し送信してください。

成績照会・科目登録専用メニュー

＜成績照会・科目登録専用メニュー＞

- ▶ 科目登録
- ▶ 成績照会
- ▶ Waseda-netメール

※学部等によって締め切り日時が異なります。科目登録関連情報にてご確認ください。

■ ガイド

- 科目登録日程（締切日時）や利用方法を確認したい
- 曜日・時間などが講義要項と異なる（変更情報）
- よくある質問を確認したい
- その他、Web科目登録について質問したい

科目登録関連情報

Web科目登録対応履歴

FAQ

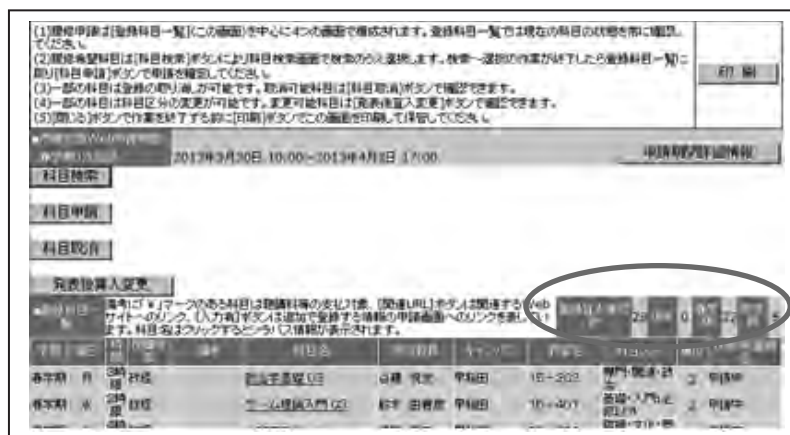
お問い合わせフォーム

4

登録科目一覧

科目登録をクリックすると「登録科目一覧画面」が表示されます。自動登録科目など、登録済科目の状態や時間割を確認します。

- 登録算入単位数で卒業単位に算入される登録済科目の合計単位数がわかります。制限単位数と比較しながら申請してください（登録算入単位数は、通年・春学期・秋学期の合計となります）。



5

科目検索

登録希望科目を検索します。

- 学部を選択し「確定」ボタンを押します。
- 次に科目群の中から登録を希望する科目の科目群を選択します。
- 検索条件を1項目以上を入力して「科目検索」ボタンを押します。
- 希望の科目が見付からない場合は検索条件を再度確認し、検索条件を例えば学期のみにするなど極力減らして検索してください。



いろいろな検索方法

▼科目名

部分一致検索です。

▼曜日・時限

プルダウンメニューで学期・曜日・時限を指定して検索することができます。

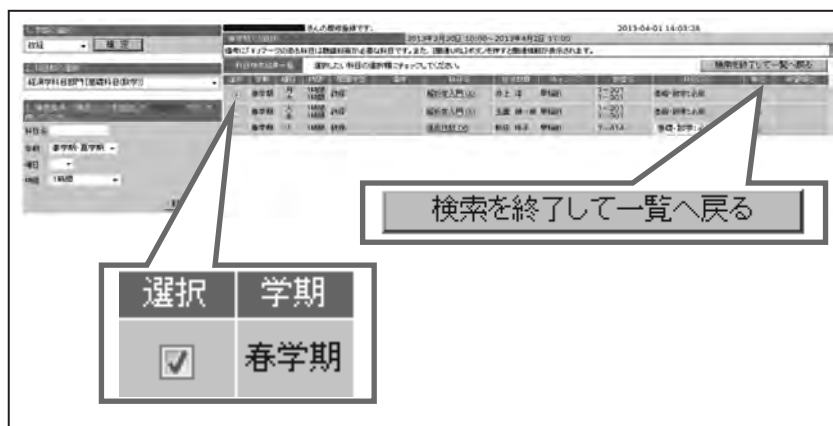
6

科目の選択

科目を選択するには、検索結果から科目名の左側にある選択チェックボックスにチェックを入れます。

複数の科目を同時に選択することができます。

選択チェックボックスにチェックが入っている状態で検索を終了して一覧へ戻るをクリックするか次の科目を検索します。選択した科目は登録科目一覧で、[選択中]と表示されます。



7

科目申請

選択が終了すると一覧画面に戻り、選択した科目の状態は「選択中」となっています。

「選択中」の科目は「科目申請」ボタンを押して申請を確定します。

- 科目検索を繰り返して複数の科目を同時に申請することもできます。

- 「選択中」の科目がある場合は、「[選択中]の科目があります。[科目申請]ボタンで科目を申請してください。」というメッセージが表示されます。

■所属学部Web申請期間
春学期1次登録 2013年3月30日 10:00～2013年4月2日 17:00

科目検索

科目申請

科目取消

発表後算入変更

備考(「¥」マークのある科目は聴講料等の支払対象。[関連URL]ボタンは関連するWebサイトへのリンク。[入力有]ボタンは追加で登録する情報の申請画面へのリンクを表しています。科目名はクリック登録算入単位数 32 通年 0 春学期

学期	曜日	開講時間	開講学部	備考	科目名	担当教員	キャンパス	教室名	科目区分	単位	状態
春学期	月	1時限	政経		経済学入門 02	井上 淳	早稲田	1-301	基礎・数学:必修	4	選択中
春学期	月	3時限	政経		政治学基礎 03	谷藤 悦史	早稲田	15-202	専門・関連・政治	2	申請中

8

申請の確認

「OK」ボタンをクリックすると申請時登録チェックが行われ、科目の履修可否が判定されます。

- エラーがない場合は状態が「選択中」から「申請中」に変わります。
- エラーが発生するとエラーメッセージが表示されますので、エラーの原因となった科目を取り消して問題を解消し、あらためて「科目申請」ボタンを押してください。

■所属学部Web申請期間
春学期1次登録 2013年3月30日 10:00～2013年4月2日 17:00

科目検索

科目申請

科目取消

発表後算入変更

備考(「¥」マークのある科目は聴講料等の支払対象。[関連URL]ボタンは関連するWebサイトへのリンク。[入力有]ボタンは追加で登録する情報の申請画面へのリンクを表しています。科目名はクリック登録算入単位数 26 通年 0 春学期 秋学期

学期	曜日	開講時間	開講学部	備考	科目名	担当教員	キャンパス	教室名	科目区分	単位	状態/希望順位
春学期	月	1時限	政経		経済学入門A 03	長江 亮	早稲田	8-B101	基礎・入門:必修	2	選択中

9

科目取消

登録期間中は「申請中」「選択中」の科目を取り消すことができます。科目を取り消すには「科目取消」ボタンをクリックします。

※登録決定科目の取り消し

一部の科目で登録決定科目の取り消しを限られた期間内に行うことが可能です。一度取り消すと登録データが消えてしまい、**再度登録決定に戻すことはできません**ので、十分注意してください。

■所属学部Web申請期間
春学期1次登録 2013年3月30日 10:00～2013年4月2日 17:00

科目検索

科目申請

科目取消

発表後算入変更

備考(「¥」マークのある科目は聴講料等の支払対象。[関連URL]ボタンは関連するWebサイトへのリンク。[入力有]ボタンは追加で登録する情報の申請画面へのリンクを表しています。科目名はクリック登録算入単位数 26 通年 0 春学期 秋学期

学期	曜日	開講時間	開講学部	備考	科目名	担当教員	キャンパス	教室名	科目区分	単位	状態/希望順位
春学期	月	1時限	政経		経済学入門 02	井上 淳	早稲田	1-301	基礎・数学:必修	4	選択中:既得済・登録済エラー
春学期	月	3時限	政経		政治学基礎				専門・関連・政治	2	申請中

単位 状態/希望順位

4 選択中:既得済・登録済エラー

10 取消の確認

取り消し可能な科目の一覧が表示されますので、取り消したい科目のチェックボックスにチェックを入れて「取消」ボタンを押してください。

○取消ボタンを押すと確認のメッセージが表示されます。

さんの履修登録です。 2013-04-01 17:18:12

取消可能な科目は下記の通りです。取り消しますか？
取り消さない場合は登録科目一覧画面へ戻ってください。

取消可能な科目一覧 **取消** 科目をチェックし「取消」ボタンを押すと科目が取消されます。 **取り消しせずに登録科目一覧へ戻る**

取消	学期	曜日	時限	開講学部	備考	科目名	担当教員	キャンパス	教室名	科目区分	単位	状態/希望順位
☒	春学期	月	1時限	政経		経済学入門A03	長江 亮	早稲田	8-B101	基礎・入門・必修	2	選択中/既得済・登録済エラー

11 登録一覧画面の印刷

もし利用中の PC にプリンターが接続されていたら、申請作業が終了した時点で登録科目一覧画面を印刷して保管してください。

- 科目の状態が「申請中」となっている科目が申請の確定した科目です。「選択中」の科目は画面を閉じると情報が破棄されてしまいますので「科目申請」ボタンで申請を確定してください。
- プリンターが接続されていない場合は、申請した科目の状態をメモに残して保管しましょう。

(1)履修申請書(登録科目一覧(この画面)を中心とする画面)を構成されます。登録科目一覧では現在の科目の状態を常に確認できます。
(2)履修希望科目は「科目検索」ボタンにより科目検索画面で検索のうえ登録します。検索～選択の作業が終了したら登録科目一覧に追加「科目申請」ボタンで申請を確定してください。
(3)一部の科目は登録の取り消しが可能です。取消可能な科目は「科目取消」ボタンで確認できます。
(4)一部の科目は科目区分の変更が可能です。変更可能な科目は「発表後追加変更」ボタンで確認できます。
(5)「印刷」ボタンで作業を終了する際に「印刷」ボタンでこの画面を印刷して保管してください。

2013年3月30日 10:00 ~ 2013年4月3日 17:00

科目検索

科目申請

科目取消

発表後追加変更

印刷

学期	曜日	時限	科目名	担当教員	キャンパス	教室名	科目区分	単位	状態
春学期	月	1時限	経済学入門A03	長江 亮	早稲田	8-B101	基礎・入門・必修	2	申請中
春学期	月	2時限	経済学入門A03	長江 亮	早稲田	8-B101	基礎・入門・必修	2	申請中

登録科目一覧画面上、科目の状態は、次のとおり遷移します。

状 態	説 明	状 態	説 明
選択中	科目検索－〔選択〕後の状態。このまま作業を終了すると選択は無効となります。取消可。	不可	〔選択〕〔申請〕後、履修上の問題があり申請が許可されなかった科目。(発表期間中の表示)
申請中	〔申請〕ボタンにより申請の許可された科目。取消可。	処理中	申請期間が終了し処理中の状態。取消不可。 (申請期間終了後、発表開始前までの表示)
決定	履修の決定した科目。取消不可。(発表開始後の表示)	選外	履修希望者が定員を超えていたため無作為抽選が行われ抽選に外れ、履修の許可されなかった科目。(発表期間中の表示)

※表示件数の制限について

条件を入力し、科目の検索を行う際に検索結果が100件より多い場合には、検索結果表示欄にエラーメッセージが表示されます。このメッセージが表示された場合は、曜日、時限、科目名の先頭の数文字など、検索条件を追加してから、再度検索を行ってください。

いろいろな申請方法

希望順位登録：希望順位登録とは、抽選が行われる可能性が高い科目を同時に複数申請できる登録方法です。希望順位を選択できる科目群は、希望順位選択のプルダウンメニューが表示されます。希望順位を選択する場合は、必ず第1希望から順に選択してください。例えば、第2希望のみを選択した場合、抽選は第1希望者の後に行われますので、科目を登録できる可能性は極端に低くなります。

科目区分変更：検索結果一覧に表示される「科目区分」の欄がプルダウンメニューで選択可能になっている場合は、科目区分を変更して申請することができます。例えば登録制限単位数オーバーエラーになった科目を一度取り消し、科目区分を制限単位数に算入されない科目区分に変更してあらためて申請することにより、申請が受け付けられる場合があります。

● 他箇所設置科目を申請してみましょう。

学部を変更し[確定]ボタンをクリックします。
次に科目群の中から登録を希望する科目の科目群を指定します。自学部の科目登録と同じ要領で科目を検索し、選択後、科目申請ボタンを押して申請します。

● 登録結果を確認しましょう。

各登録の発表日時になると、申請した科目の登録結果が発表されます。登録が認められた科目は「決定」、抽選の結果、登録できなかった科目については「選外」、登録エラーのため登録できなかった科目については「不可」がそれぞれ表示されます。

科目区分	単位	状態/希望順位
基礎・社会	4	申請中
基礎・社会	4	申請中
基礎・人文	2	選外
必修・英語 I	2	決定 英語 I (必修) ~ 3/25 / 2

4. Web 科目登録上の注意事項

申請科目のチェック機能について

Web 科目登録では、科目申請時に以下のチェックが行われエラー情報を表示します。

[主な登録エラー]

エラー名称	エラー内容	解消方法
既登録エラー	既に登録されている科目を申請している	申請できないため科目取消する
希望順位重複エラー	希望順位を指定する場合に既に同一の希望順位で科目を申請している	同一希望順位の科目についていずれかを科目取消する
曜日時限重複エラー	既に申請・登録されている科目と曜日時限が重複する科目を申請している	いずれかの科目を取消する
前提条件エラー	履修の前提となる条件を満たしていない	申請できないため科目取消する
遠距離エラー	休み時間内で移動できないキャンパスの科目を申請している	いずれかの科目を取消する
制限単位数エラー	登録可能な単位数の上限を超えて申請している	いずれかの科目を取消するか、修正せずに申請を行う (※)

この他にも履修規則上のエラーがあります。内容がわからない場合は、「科目登録関連冊子」などを参照して問題を解決してください。

※制限単位数エラーは修正しなくても申請可能です。但し、エラーのまま申請を行った場合は、登録結果発表時に無作為に選ばれた科目がエラーとなるため注意してください。

5. その他の機能

● 関連ページへのリンク

科目検索画面の備考欄に「関連 URL」ボタンが表示される科目は、関連するホームページへのリンクが設定されています。必要な情報が記載されていますので、必ずクリックして確認ください。

備考	科目名
関連URL	EU/欧州統合研究入門

● 志望理由等の入力が必要な科目

科目検索画面の備考欄に「入力有」が表示される科目は、別画面から「申請フォーム」を呼び出し、志望理由などの内容を入力する必要がある科目です。

※申請フォームは 120 分間操作がないとセッションが切れ、再度呼び出す必要がありますのでご注意ください。

備考	科目名
入力有	EU/欧州統合研究入門

● 聴講料等が必要な科目

科目検索画面の備考欄に「¥(要聴講料等)」が表示される科目は、聴講料等が必要な科目です。

備考	科目名
¥(要聴講料等) 関連URL	General Tutorial English (初級) 37 (早稲田)

● Web シラバスの参照

科目選択画面で科目名をクリックすると、該当科目の Web シラバスを参照することが可能です。

科目名	担当教員
学際研究入門(現代福祉)	久塚 純一

6. エラー表示について

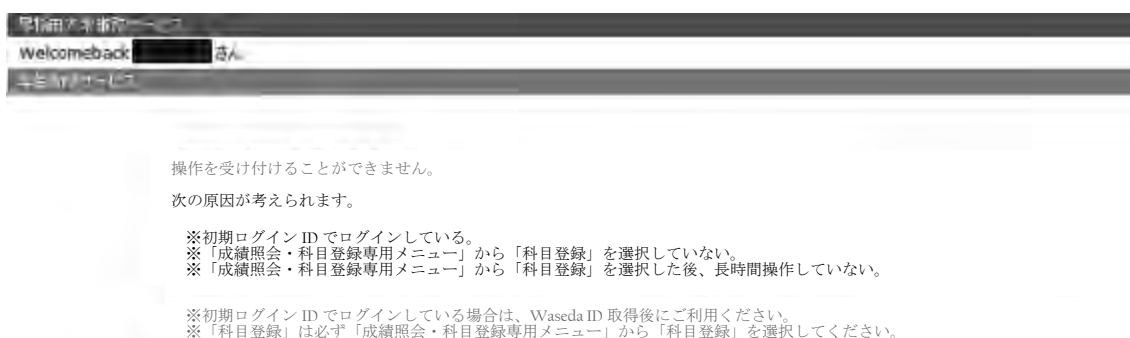
● サービスを提供することができない場合

以下のメッセージが表示された場合は、[お問い合わせフォーム]ボタンを押し、必要事項を記載の上、問い合わせを行ってください。



● 操作を受け付けることができない場合

全てのブラウザを閉じて、「成績照会・科目登録専用ログイン」からログインしてご利用ください。



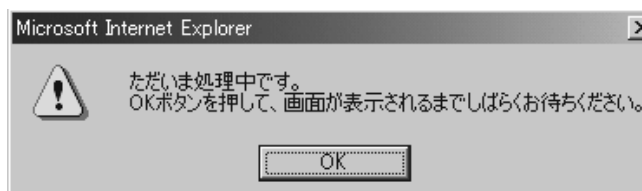
● メンテナンス中の場合

Web 科目登録システムはシステム最適化作業のため、毎日、メンテナンス時間を設けています（2:00AM～7:00AM）。メンテナンス中の場合、以下のメッセージが表示されます。



● 同じボタンを続けて複数回押してしまった場合

[OK] ボタンを押して、処理が終了するまでお待ちください。



7. 推奨環境について

Web 科目登録の推奨環境は下記のウェブサイトをご確認ください。

http://www.waseda.jp/navi/services/system/sys_requirements.html

以上

Ⅲ. 学科目配当表

◆時間割について

本冊子に掲載されている時間割は、2025 年 1 月末時点での情報で、変更の可能性があります。
変更が生じた場合には、社会科学部 Web サイトにてお知らせいたします。

◆Web シラバス

早稲田大学の全科目の講義内容については、Web シラバスで確認ができます。
(早稲田大学 Web サイト TOP → (右上) データ集 → シラバス検索)

URL: <https://www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php>

寄附講座・提携講座・協力講座の開設について

早稲田大学（以下、大学と表記します）では、教育研究の質的向上・発展に寄与することを目的として学術研究提携等を行っています。

その際、大学の主体性と独自性を堅持するため、次の「ガイドライン」を制定しています。

1. 学問の自由および独立を守ること。
2. 世界の平和および人類の福祉に貢献する研究を行うものとし、軍事研究および軍事開発は行わないこと。
3. 本大学における研究活動の発展および教育の向上に寄与すること。
4. 研究成果の公表を禁止された秘密研究は行わないこと。ただし、研究成果の公表時期に関する研究委託者または共同研究者との信頼関係に基づく合理的制約は、この限りでない。
5. 社会的に公正であること。
6. 関連資料を開示の上、民主的な手続きに基づき、提携等に関する意思決定を行うこと。

また、このガイドラインを正しく運用していくため、大学は、「学術研究提携等審査委員会」を設置して、個々の提携等を審査しています。

以下の寄附講座・提携講座・協力講座は、このような学術研究提携等の一環として上記の審査を経て設置されたものです。

以下の科目は全国共済農業協同組合連合の協力に基づいて開設されています。

区分	科目名	教員氏名
提携講座	農と SDGs（研究と実践のために） A	早田 宰 落合 基継 加藤 基樹
提携講座	農と SDGs（研究と実践のために） B	早田 宰 落合 基継 加藤 基樹
寄附講座	JA 共済寄附講座 SDGs 未来都市に学ぶ 1	早田 宰 加藤 基樹 神林 邦明 益子 智之
寄附講座	JA 共済寄附講座 SDGs 未来都市に学ぶ 2	早田 宰 加藤 基樹 神林 邦明 益子 智之

以下の科目はイオン環境財団の協力に基づいて開設されています。

区分	科目名	教員氏名
寄附講座	イオン環境財団寄附講座 サステイナブルコミュニティ論	早田 宰 黒川 哲志 益子 智之 岡田 久典 中野 健太郎

以下の科目は財団法人ハクボン奨学会の協力に基づいて開設されています。

区分	科目名	教員氏名
提携講座	社会科学総合研究（ユーラシア共同体と東アジア）	弦間 正彦 李 愛俐娥

以下の科目はエコ・ファースト推進協議会の協力に基づいて開設されています。

区分	科目名	教員氏名
提携講座	持続可能社会実現への企業の貢献：エコ・ファースト企業の取り組み	棟居 徳子 黒川 哲志 長島 祐基 劉 雨迪

学科目配当表

Ⅲ. 学科目配当表

初年次教育 - ラーニング・コミュニティ

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	1	ラーニング・コミュニティ	A	荒井 洋一	春ク	水4
			B	安中 進	春ク	水5
			C	遠藤 晶久	春ク	水5
			D	及川 浩希	春ク	月5
			E	曾野 浩勢	春ク	月4
			F	君塚 弘泰	春ク	水5
			G	小阪 玄次郎	春ク	月4
			H	須子 純太	春ク	月4
			I	鈴木 俊晴	春ク	水4
			J	周藤 真也	春ク	水5
			K	千葉 清史	春ク	水5
			L	寺尾 範野	春ク	月4
			M	中橋 渉	春ク	月5
			N	浜本 篤史	春ク	水4
			O	福永 有夏	春ク	水4
			P	古川 敏明	春ク	水4
			Q	益子 智之	春ク	水4
			R	山崎 薫	春ク	月4
			S	山崎 薫	春ク	水4
			T	横野 恵	春ク	水4
			Y	休講		
			Z	笠島 洋一	秋ク	水5

ミニマムディシプリン科目 社会学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	2	社会学入門	A	曾野 さおり	春	火1
			B	周藤 真也	春	金1
			C	浜本 篤史	春	水1
		社会調査の基礎	A	開沼 泰隆	春	月1
			B	北川 由紀彦	秋	金3
		社会調査法 1	A	開沼 泰隆	春	月2
			B	小山 泰代	秋	火5
		社会統計の読み方	—	曾野 さおり	秋	火1
		社会学原論 1〔歴史と理論〕	—	周藤 真也	秋学期集中	その他
		社会学原論 2〔現代社会への応用〕	—	周藤 真也	春	水3

ミニマムディシプリン科目 政治学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	2	政治学入門	A	厚見 恵一郎	春	水2
				稲生 信男		
			B	安中 進	春	フルOD
				厚見 恵一郎		
		政治分析の基礎	A	稲生 信男	春	フルOD
				安中 進		
			B	遠藤 晶久	秋	フルOD
				奥迫 元		
		国際関係論入門	A	堀 芳枝	春	フルOD
				宮下 大夢		
				奥迫 元		
			B	堀 芳枝	秋	フルOD
				奥迫 元		
				宮下 大夢		
		政治学史 I	—	厚見 恵一郎	春	水5

ミニマムディシプリン科目 法学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	2	法学入門	—	仲道 祐樹	春	フルOD
				塚林 美弥子		
				吉田 和夫		
				坂口 正二郎		
		憲法 I	B	坂口 正二郎	秋	火2
				川島 いづみ		
				仲道 祐樹		
		会社法 1〔会社のガバナンス〕	—	川島 いづみ	春	月3
		刑法総論 I〔犯罪論の基本構造〕	—	仲道 祐樹	秋	月4
		行政法 1〔行政法概論〕	—	吉岡 郁美	秋ク	火1
2年～	2	民法 1〔総則〕	—	大木 満	秋	金1

Ⅲ. 学科目配当表

学科目配当表

ミニマムディシプリン科目 経済学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	1	統計リテラシーγ	01	小林 学、他	春ク	フルOD
			02		夏ク	フルOD
			03		秋ク	フルOD
			04		冬ク	フルOD
	1	統計リテラシーδ	01	野村 亮、他	春ク	フルOD
			02		夏ク	フルOD
			03		秋ク	フルOD
			04		冬ク	フルOD
	2	経済学入門 1〔ミクロ経済学〕	A	北村 能寛	春	フルOD
			B	髙津 明由	春	月2
		経済学入門 2〔マクロ経済学〕	A	及川 浩希	秋	フルOD
			B	髙津 明由	秋	フルOD
2年～	2	ミクロ経済学Ⅰ	—	戸田 学	春	水1
	4	マクロ経済学	—	及川 浩希	春	水2 OD

ミニマムディシプリン科目 商学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限	
1年～	2	経営学入門	A	葛山 康典	春	火2	
				小阪 玄次郎			
				須子 統太			
			B	中島 健一		木2	
				葛山 康典			
				小阪 玄次郎			
		会計学入門	A	高橋 克幸	春	木4	
			B	高橋 克幸	秋	木4	
		マーケティング入門	A	野口 智雄	春	フルOD	
			B	野口 智雄	秋	フルOD	
	会計情報論	A	休講				
		B	休講				
	4	社会科学のための基礎コンピュータ	A	阿部 圭司	春	金1	
						金2	
B			開沼 泰隆	秋	月1		
					月2		
C			根岸 亮平	秋	月1		
					月2		
D			休講				
E			佐藤 公俊	春	フルOD		
2年～	4	経営学	F	休講			
			－	小阪 玄次郎	春	月2 火3	

ミニマムディシプリン科目 メタディシプリン

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	2	哲学総論	—	千葉 清史	秋	火5
		社会科学の基礎	A	吉田 敬	春	月2
		言語表現論 1	B	吉田 敬	秋	月2
		歴史学概論	—	笹原 宏之	春	月3
			—	黒田 智	春	水2
			—	劉 傑		
			—	君塚 弘哉		
		総合知入門	—	早田 幸	秋ク	フルOD
			—	山田 寛邦		

専門・学際科目 社会科学総合分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	1	フィールドへの招待	—	周藤 真也	秋学期 集中	—
			—	落合 基雄		
			—	佐藤 洋一		
			—	早田 幸		
			—	益子 智之		
	2	バイオエシックス	—	横野 恵	春	木1
			—	阿部 哲理	秋	火3
			—	君塚 弘哉	春	フルOD
			—	君塚 弘哉	秋	フルOD
			A	吉田 敬	春	月3
		近代経済社会思想史 1	B	吉田 敬	秋	水3
			—	寺尾 範野	春	木2
			—	寺尾 範野	秋	木2
			—	横野 優子	春	水5
			A	本間 まり子	春	水3
		ジェンダーの社会学 1	B	本間 まり子	秋	水3
			—	釜野 さおり	春	月4
			—	高林 久美子	秋	水2
			—	休講		
			—	休講		
			—	休講		
			—	休講		
2年～	2	社会調査法 2	—	周藤 真也	春	フルOD
			—	周藤 真也	秋	金4
			—	横野 恵子	秋	火3
			—	黒川 哲志		
			—	長島 祐基		
		臨床心理学	—	阿部 哲理	春	金2
			—	横野 恵子	春	火4
			—	隔年休講		
			—	鄭 有希	秋	フルOD
			—	休講		
		政策科学 2〔日本の政策過程〕	—	休講		
			—	休講		
			—	隔年休講		
			—	隔年休講		
			—	隔年休講		
3年～	2	データ倫理	—	横野 恵	夏ク	水4
			—	浪岡 新太郎	秋ク	月3
			—	浪岡 新太郎	秋ク	月4
			—	浪岡 新太郎	冬ク	月3
			—	浪岡 新太郎	冬ク	月4
			—	隔年休講		

専門・学際科目 社会科学総合分野（ソーシャル・リサーチ）

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
2年～	2	ソーシャル・リサーチ（歴史と記憶）Ⅰ	—	周藤 真也	春	金2
		ソーシャル・リサーチ（ジェンダーとセクシュアリティ）Ⅰ	—	釜野 さおり	春	火2
		ソーシャル・リサーチ（まちづくり）Ⅰ	—	隔年休講		
		ソーシャル・リサーチ（開発・環境）Ⅰ	—	隔年休講		
		ソーシャル・リサーチ（歴史と記憶）Ⅱ	—	周藤 真也	夏秋	金2
	4	ソーシャル・リサーチ（ジェンダーとセクシュアリティ）Ⅱ	—	釜野 さおり	夏秋	火2
		ソーシャル・リサーチ（まちづくり）Ⅱ	—	隔年休講		
		ソーシャル・リサーチ（開発・環境）Ⅱ	—	隔年休講		

学科目配当表

Ⅲ. 学科目配当表

専門・学際科目 政治学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	2	政治分析	A	浅野 正彦	春	火4
			B		休講	
		日本政治史Ⅰ	—	大西 比呂志	春	水3
		日本政治史Ⅱ	—	大西 比呂志	秋	水3
		日本近代政治史Ⅰ	—	星原 大輔	春	月3
		日本近代政治史Ⅱ	—	星原 大輔	秋	月3
		外国政治史Ⅰ	—		休講	
2年～	2	外国政治史Ⅱ	—		休講	
		現代政治制度論(イタリア)	—	池谷 知明	秋	水3
		現代政治制度論(ドイツ)	—	高見 仁	秋	土3
		現代政治制度論(イギリス)	—	秋本 富雄	春	木4
		現代政治制度論(スペイン)	—	野上 和裕	春	月2
		現代政治制度論(アメリカ合衆国)	—		休講	
		政治過程論Ⅰ	—	安中 進	春	金4
		政治過程論Ⅱ	—	安中 進	秋	金3
		政治学史Ⅱ	—	厚見 恵一郎	秋	水5
		行政学Ⅰ	—	稲生 信男	春	金3
		行政学Ⅱ	—	稲生 信男	秋	金3
		比較政治制度論Ⅰ	—	池谷 知明	春	火4
		比較政治制度論Ⅱ	—	池谷 知明	秋	火4
		現代選挙論Ⅰ	—	遠藤 晶久	春	火2
		現代選挙論Ⅱ	—	遠藤 晶久	秋	火2
		政治学原論Ⅰ	—	池谷 知明	春	火3
		政治学原論Ⅱ	—	池谷 知明	秋	火3
3年～	2	情報政治論	—	櫻井 亮	春	水3
		現代政治分析(イタリア)	—	池谷 知明	春	水3
		現代政治分析(イギリス)	—	秋本 富雄	秋	木4
		現代政治分析(スペイン)	—	野上 和裕	秋	月2
		現代政治分析(ドイツ)	—	高見 仁	春	土3
		現代政治分析(アメリカ合衆国)	—		休講	
		比較政治学	A	河崎 健	春	水2
			B	河崎 健	秋	水2
		現代市民権理論	—	厚見 恵一郎	秋	フルOD
		国会論	—	小林 英樹	春	金6
		比較議会議論	—	秋本 富雄	秋	木5
		立法過程論	—	秋本 富雄	春	木5
		政治行動論Ⅰ	—	浅野 正彦	春	フルOD
		政治行動論Ⅱ	—	浅野 正彦	秋	フルOD

専門・学際科目 法学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	2	医事法	—	横野 恵	秋	木1
		会社法 2〔会社のファイナンス〕	—	川島 いづみ	秋	月3
		行政法 2〔行政組織・手続等〕	—	吉岡 郁美	冬ク	火1
			—			火2
2年～	2	憲法Ⅱ	—	阪口 正二郎	春	フルOD
		民法 2〔物権〕	—	大木 満	秋	金2
		民法 3〔債権総論〕	—	吉田 和夫	秋	フルOD
		民法 4〔債権各論〕	—	吉田 和夫	春	火4
		民法 5〔親族〕	—	北田 真理	春	フルOD
		民法 6〔相続〕	—	北田 真理	秋	フルOD
		刑法総論Ⅱ〔犯罪の諸形態〕	—	仲道 祐樹	春	月4
		雇用関係法Ⅰ	—	鈴木 俊晴	春	金4
		雇用関係法Ⅱ	—	滝原 啓介	秋	金5
		刑法各論Ⅰ〔個人、社会、国家に対する罪〕	—	芥川 正洋	春	フルOD
		刑法各論Ⅱ〔財産に対する罪〕	—	仲道 祐樹	秋	月2
		行政法 3〔行政争訟〕	—		休講	
		行政法	—		休講	
		法情報学	—	吉田 和夫	春	フルOD
		金融商品取引法Ⅰ〔総論・流通市場規制等〕	—	川島 いづみ	春	金3
		金融商品取引法Ⅱ〔発行市場規制・業者規制等〕	—	川島 いづみ	秋	金3
		現代雇用社会の法と政策	—	滝原 啓介	秋	金3
3年～	2	知的財産権法(著作権法)	—	今村 哲也	春	フルOD
		知的財産権法(特許法、商標法、不正競争防止法)	—	今村 哲也	秋	フルOD
		生命倫理と法Ⅰ〔生命の始期に関わる諸問題〕	—	横野 恵	春	火1
		生命倫理と法Ⅱ〔生命の終期に関わる諸問題〕	—	横野 恵	秋	火1
		企業活動と法実務Ⅰ	—	尾家 康介	春	火4
		企業活動と法実務Ⅱ	—	尾家 康介	秋	火4
		行政法 4〔行政法各論〕	—		休講	
		刑事政策	—		休講	
		犯罪学	—		休講	

専門・学際科目 経済学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	2	ゲーム理論の基礎	A	戸田 学	春	木1
			B	戸田 学	秋	木1
		経済数学Ⅰ	—	戸田 学	春	火3
		経済数学Ⅱ	—	戸田 学	秋	火3
		社会科学のための回帰分析Ⅰ〔回帰分析の基礎、クロスセクションデータの分析〕	—	荒井 洋一	春ク	水2 OD
		社会科学のための回帰分析Ⅱ〔時系列データ、パネルデータの分析〕	—	荒井 洋一	夏ク	水2 OD
			—			
2年～	2	ミクロ経済学Ⅱ	—	戸田 学	秋	火1
		金融経済論	—	大野 裕之	春	月1
		経済動学Ⅰ	—	篠塚 友一	春	フルOD
		経済動学Ⅱ	—	篠塚 友一	秋	フルOD
		実証経済学	—	王 在詒	春	金3
		公共経済学Ⅰ	—	笠島 洋一	春	金1
		公共経済学Ⅱ	—	笠島 洋一	秋	フルOD
3年～	2	財政学	—	大野 裕之	秋	月1
		法と経済学Ⅰ	—	土門 晃二	秋	月3
		法と経済学Ⅱ	—	土門 晃二	春	月3
		Mechanism Design	—	笠島 洋一	秋	木1
		応用マクロ経済学	—	及川 浩希	春ク	水3 OD
		応用ミクロ経済学Ⅰ	—	篠塚 友一	春	フルOD
		応用ミクロ経済学Ⅱ	—	篠塚 友一	秋	フルOD
		応用計量経済学〔計量経済学の進んだトピック〕	—	荒井 洋一	秋	水2

専門・学際科目 商学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	2	情報化社会とワーキングスタイル	—	須子 純太	秋	火3
		現代ビジネス論	—	平井 裕久	秋	火2
			A	井上 康太	春	木1
		簿記	B	菅野 浩勢	秋	フルOD
		経営のための経済学	—	土門 晃二	春	月4 水5 金3 金4
		情報科学論	—	中島 健一	春	フルOD
			—			フルOD
2年～	2	国際貿易論Ⅰ	—	橋 徹	春	フルOD
		国際貿易論Ⅱ	—	橋 徹	秋	フルOD
		ビジネス・イングリッシュⅠ	—	藤屋 美佐	春	火4
		ビジネス・イングリッシュⅡ	—	藤屋 美佐	秋	火4
		産業心理学Ⅰ	—	重森 雅彦	春	木2
		産業心理学Ⅱ	—	重森 雅彦	秋	木2
		経営分析	—	矢内 一利	春	金3
		品質管理	—	中島 健一	春	金2
		産業社会学Ⅰ	—	池田 心豪	春	金1
		産業社会学Ⅱ	—	池田 心豪	秋	金1
		国際経営論Ⅰ	—		休講	
		国際経営論Ⅱ	—		休講	
		会計学	—	菅野 浩勢	秋	火3 火4 水4
		証券論	—	葛山 康典	春	火4 水4
		グローバル・サプライチェーン・マネジメント	—	中島 健一	秋	金3 金4
		経営科学Ⅰ	—	須子 純太	秋	フルOD
		ビジネスのためのデータサイエンス	—	石田 崇	春	金3 金4
3年～	2	生産システム論	—	中島 健一	秋	金2
		金融データ解析Ⅰ	—	葛山 康典	春	火5
		金融データ解析Ⅱ	—	葛山 康典	秋	火4
		流通論Ⅰ	—	野口 智雄	春	フルOD
		流通論Ⅱ	—	野口 智雄	秋	フルOD
		人的資源管理論Ⅰ	—	上原 衛	春	金4
		人的資源管理論Ⅱ	—	上原 衛	秋	金4
		リスクマネジメントと保険Ⅰ	—	石坂 元一	春	木4
		リスクマネジメントと保険Ⅱ	—	石坂 元一	秋	木4
		ベンチャービジネス論Ⅰ	—	足代 訓史	春	金2
		ベンチャービジネス論Ⅱ	—	足代 訓史	秋	金2
		経営戦略Ⅰ	—		休講	
		経営戦略Ⅱ	—		休講	
		資金論Ⅰ	—		休講	
		資金論Ⅱ	—		休講	
		会計監査論	—	山崎 秀彦	春	月1 水1
		原価計算	—	成岡 浩一	春	水3 水4
		管理会計	—	齋藤 正章	春	木3 木4
		経営組織論	—	小阪 玄次郎	秋	月3 火2 火3 水3
		企業財務論	—	葛山 康典	秋	火3 水3
		経営科学Ⅱ	—	須子 純太	春	フルOD
		外部報告会計論	—		休講	
		経営管理論	—		休講	

Ⅲ. 学科目配当表

学科目配当表

専門・学際科目 情報科学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	4	社会科学のための数学	—	葛山 康典	春	火3
3年～	2	情報システム マルチメディア	—	金子 勝一 浮田 善文	春 秋	月3 木5

専門・学際科目 人文科学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	2	人文地理学	—	竹林 和彦	春	火4
		東洋哲学 1	—	王 前	春	火4
		東洋哲学 2	—	王 前	秋	火4
		中国哲学 1	—	遠藤 純一郎	春	金5
		中国哲学 2	—	遠藤 純一郎	秋	金5
		倫理学 1	—	関口 浩	春	月5
		倫理学 2	—	関口 浩	秋	月5
		日本史概論 1	—	黒田 智	春	木2
		日本史概論 2	—	黒田 智	秋	木2
		外国史概論 1	—	日尾野 裕一	春	火5
		外国史概論 2	—	日尾野 裕一	秋	火5
		歴史学(日本史) 1	—	黒田 智	春	木3
		歴史学(日本史) 2	—	黒田 智	秋	木3
		歴史学(日中間関係史) 1	—	劉 傑	春	火3
		歴史学(アジア史) 1	—	松田 春香	春	金2
		歴史学(アジア史) 2	—	松田 春香	秋	木2
		歴史学(ヨーロッパ史) 1	—	古川 誠之	春	フルOD
		歴史学(ヨーロッパ史) 2	—	古川 誠之	秋	フルOD
		地誌	—	竹林 和彦	秋	火4
		漢字文化圏論 1	—	笹原 宏之	春	火5
		異文化コミュニケーション論	—	花光 里香	春	木3
		言語表現論 2	—	笹原 宏之	秋	月3
	2	日本研究 1	—	ル・ルー清野 プレ ンダン	春	月3
		日本研究 2	—	ル・ルー清野 プレ ンダン	秋	月3
		スペイン語文化圏論 1	—	寺尾 隆吉	春	火2
		西洋哲学	—	千葉 清史	春	火5
		史料学(絵画史料論)	—	黒田 智	春	木5
		フランス語文化圏論 1	—	朝倉 三枝	春	火3
		フランス語文化圏論 2	—	朝倉 三枝	秋	火3
		英語圏の社会と文化 1	—	古川 敏明	春	火3
		英語圏の社会と文化 2	—	古川 敏明	秋	火3
		日本文学 1	—	山崎 薫	春	月3
		日本文化論	—	山崎 薫	春	木3
		文化人類学 1	—	隔年休講		
		日本環境文化史 1	—	隔年休講		
		公共文化論 1	—	隔年休講		
		公共文化論 2	—	青 豊	夏季集中	—
		応用倫理学	—	窪田 勉矢	秋	木5
		Exploring Cultures through Film 1	—	花光 里香	春	金2
		Exploring Cultures through Film 2	—	花光 里香	秋	金2
		Exploring Japanese Cultures through Film 1	—	花光 里香	春	金3
2年～	2	Exploring Japanese Cultures through Film 2	—	花光 里香	秋	金3
		Diversity in Modern Japan 1	—	休講		
		Diversity in Modern Japan 2	—	長谷川 和美	秋	月4
		Ethnicity and Gender in Global Issues 1	—	長谷川 和美	春	月4
		Ethnicity and Gender in Global Issues 2	—	休講		
		Building Inclusive Societies 1	—	休講		
		Building Inclusive Societies 2	—	休講		
		Challenges and Opportunities in Multicultural Societies 1	—	休講		
		Challenges and Opportunities in Multicultural Societies 2	—	休講		
		Contemporary Global Issues A 1	—	休講		
		Contemporary Global Issues A 2	—	休講		
		Contemporary Global Issues B 1	—	休講		
		Contemporary Global Issues B 2	—	休講		
		Migrating People in Japan 1	—	休講		
		Migrating People in Japan 2	—	休講		

専門・学際科目 自然科学分野

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限		
1年～	2	数学 1	—	高橋 一嘉	春	水3		
		数学 2	—	高橋 一嘉	秋	水3		
		環境表現論Ⅰ	—	佐藤 洋一	春	水3		
		社会、社会科学のなかの自然科学	—	中橋 涉	春	火2		
		農とSDGs(研究と実践のために)	A	早田 幸	春ク	月4 OD		
				落合 基樹				
				加藤 基樹				
			B	早田 幸	秋ク	月4 OD		
				落合 基樹				
				加藤 基樹				
		JA共済寄附講座 SDGs未来都市に学ぶ 1	—	早田 幸 加藤 基樹 神林 邦明 益子 智之	春	水5		
		JA共済寄附講座 SDGs未来都市に学ぶ 2	—	早田 幸 加藤 基樹 神林 邦明 益子 智之	秋	水5		
		保全生物学	—	休講				
		2	環境表現論Ⅱ	—	隔年休講			
		2年～	4	ヴィジュアルイメージ研究	—	佐藤 洋一	秋	水3 水4
		3年～	2	人間行動と進化	—	秋山 英三	春	フルOD

専門・学際科目 外国語・地域研究

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	1	スペイン語・会話	—	ゴンサレス ロンゴリ ア シルビア リディ ア	秋	金2
		ドイツ語・地域研究入門 1	A	関口 浩	春	金1
			B	関口 浩	春	金2
		ドイツ語・地域研究入門 2	A	町田 輝雄	春	木4
			B	中野 愛理	春	月2
		ドイツ語・地域研究 1	A	関口 浩	秋	金1
			B	関口 浩	秋	金2
		ドイツ語・地域研究 2	A	町田 輝雄	秋	木4
			B	中野 愛理	秋	月2
		スペイン語・地域研究入門 1	—	ヒガ マルセロ グ スターボ	春	火3
	2	スペイン語・地域研究入門 2	—	ゴンサレス ロンゴリ ア シルビア リディ ア	春	金2
		スペイン語・地域研究入門 α	—	寺尾 隆吉	春ク	火1 水1
		スペイン語・地域研究入門 β	—	寺尾 隆吉	夏ク	火1 水1
		スペイン語・地域研究 1	—	ヒガ マルセロ グ スターボ	秋	火3
		スペイン語・地域研究 2	—	郷野 徹哉	秋	金4
		スペイン語・地域研究 3	—	寺尾 隆吉	秋	火1
		スペイン語・地域研究 4	—	休講		
		中国語・地域研究入門 1	—	賀 越	春	金4
		中国語・地域研究入門 2	—	花井 みわ	春	水4
		中国語・地域研究入門 3	—	白 春岩	春	木2
	2	中国語・地域研究入門 4	—	賀 水	春	金1
		中国語・地域研究 1	—	賀 越	秋	金4
		中国語・地域研究 2	—	花井 みわ	秋	水4
		中国語・地域研究 3	—	白 春岩	秋	木2
		中国語・地域研究 4	—	賀 水	秋	金1
		フランス語・地域研究入門 1	—	マルティネル ルイ ソロ	春	月4
		フランス語・地域研究入門 2	—	赤羽 悠	春	金3
		フランス語・地域研究入門 3	—	梶谷 彩子	春	水3
		フランス語・地域研究入門 4	—	朝倉 三枝	春	火2
		フランス語・地域研究 1	—	マルティネル ルイ ソロ	秋	月4
2年～	2	フランス語・地域研究 2	—	赤羽 悠	秋	金3
		フランス語・地域研究 3	—	梶谷 彩子	秋	水3
		フランス語・地域研究 4	—	朝倉 三枝	秋	火2
		英書研究	25-1	安中 進	春	木2
			25-2	安中 進	秋	木2
			25-3	中橋 涉	春	月3
		ドイツ語・地域研究演習 1	—	休講		
		ドイツ語・地域研究演習 2	—	休講		
		フランス語・地域研究演習 1	—	朝倉 三枝	春	火4
		フランス語・地域研究演習 2	—	朝倉 三枝	秋	火4
2年～	2	中国語・地域研究演習 1	—	陳 璐	春	水4
		中国語・地域研究演習 2	—	陳 璐	秋	水4
		スペイン語・地域研究演習 1	—	寺尾 隆吉	春	水2
		スペイン語・地域研究演習 2	—	寺尾 隆吉	秋	水2

専門・学際科目 グローバルラーニング

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	2	グローバルラーニング(ジェンダーと開発)	A	本間 まり子	春	火2
			B	本間 まり子	秋	火2
		グローバルラーニング(社会デザインのための地域研究)	A	清水 健太	春	木4
			B	清水 健太	秋	木4
		グローバルラーニング(社会科学のための記録・表現)	A	清水 健太	春	月4
			B	清水 健太	秋	月4
		グローバルラーニング(環境ガバナンス)	A	宮澤 尚里	春ク	月4 金4
			B	宮澤 尚里	秋ク	月4 金4
		グローバルラーニング(持続可能な開発)	A	宮澤 尚里	春ク	月3 金3
			B	宮澤 尚里	秋ク	月3 金3
		グローバルラーニング(科学技術と社会)	A	中山 敬太	春	木2
			B	中山 敬太	秋	木2
		グローバルラーニング(地球社会と未来政策)	A	中山 敬太	春	金3
			B	中山 敬太	秋	金3

学科目配当表

Ⅲ. 学科目配当表

専門・学際科目 社会科学特講

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
2年～	2	社会科学特講(社会デザインの基礎理論)	A	清水 健太	春	水2
			B	清水 健太	秋	水2
		社会科学特講(国際協力)	A	宮澤 尚里	春ク	月2 金2
			B	宮澤 尚里	秋ク	月2 金2
		社会科学特講(リスクと不確実性の法政策学)	A	中山 敬太	春	金4
			B	中山 敬太	秋	金4

専門・学際科目 社会科学総合研究

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
3年～	2	社会科学総合研究(女性と政治)	－	堀 芳枝	秋	月4
				秋本 富雄		
				安中 進		
		社会科学総合研究(世界遺産学)	－	周藤 真也	秋	土2
				小田島 理絵		
				川津 彩可		
		社会科学総合研究(ロシア東欧現代経済) 1	－	佐藤 桂	春	フルOD
				弦間 正彦		
		社会科学総合研究(ロシア東欧現代経済) 2	－	弦間 正彦	秋	フルOD
				池本 修一		
		社会科学総合研究(食の社会科学)	－	君塚 弘森	春	金4
				柴田 恵美		
				釜野 さおり		
		社会科学総合研究(ジェンダーとセクシュア リティ)	－	遠藤 晶久	春	金4
神谷 悠一						
佐藤 洋一						
寺尾 範野						
堀江 有里						
社会科学総合研究(ユーラシア共同体と東 アジア)	－	本間 まり子	秋	月3		
		弦間 正彦				
		李 愛樹媛				
社会科学総合研究(文化のバースペクティ ヴ)	－	休講				

コース科目 平和・国際協力コース

(※) 配当年次「1年～」・「2年～」の科目については、コース選択後の2年次秋学期より履修可能です。

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～ (※)	2	国際関係論	—	奥迫 元	秋	火2
		国際法1	—	堀永 有夏	春	水3
		国際経済法1	—	堀永 有夏	秋	水3
		平和学1	—	堀 芳枝	春	火3
		Japan and Peacebuilding : Asian Policies	—	山田 満	春	水3
		War and Japan	—	奥迫 元	春	水3
		Gender and Development	—	堀 芳枝	春	火2
		Development Studies	—	小山 淑子	冬ク	月2 月3
		Problem / Conflict Analysis and Resolution	—	香川 めぐみ	秋	月3
		Liberal, Post-Liberal and Everyday Peacebuilding	—	香川 めぐみ	春	水2
2年～ (※)	2	Critical Development Studies	—	小山 淑子	春ク	月2 月3
		社会科学創造的探究: 平和・国際協力コース	—	奥迫 元	秋	木2
				香川 めぐみ		
				小山 淑子		
				堀 芳枝		
		紛争解決論実習1	—	堀 芳枝	秋学期集中	—
		紛争解決論実習2	—	休講		
		紛争解決論実習3	—	休講		
		国際人権論1	—	榎居 健子	春	水3
		国際人権論2	—	榎居 健子	秋	水3
		平和学II	—	堀 芳枝	秋	火3
3年～	2	Education and Development	—	山崎 瑛莉	冬ク	火4 火5
		国際政治理論	—	奥迫 元	春	水4
		太平洋地域海洋国家研究	—	奥迫 元	秋	水2
		国際NGO協力論	—	山田 満	春	火3
		国際開発制度論	—	日野 類子	春ク	火2 火3
		平和構築論	—	山田 満	秋	火3
		国際法2	—	堀永 有夏	春	水2
		国際経済法2	—	堀永 有夏	秋	水2
		人間の安全保障論	—	阿部 和泰	春	火5
		EU地域研究I	—	井上 淳	春	金3
		EU地域研究II	—	井上 淳	秋	金3

コース科目 多文化社会・共生コース

(※) 配当年次「1年～」・「2年～」の科目については、コース選択後の2年次秋学期より履修可能です。

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～ (※)	2	文化人類学2	—	ベル 裕紀	春	火3
		歴史学(日中間係史)2	—	劉 傑	秋	火3
		漢字文化圏論2	—	笹原 宏之	秋	木2
		スペイン語文化圏論2	—	寺尾 隆吉	秋	火2
		日本環境文化史2	—	黒田 智	秋	木2
		Japan and World War II: Historical Controversies	—	ホートン ウィリアム ブラッドリー	春	土3
		Women in Modern Japan: Outside Encounters and Early Changes	—	ホートン ウィリアム ブラッドリー	秋	土3
		Urban History of Tokyo	—	佐藤 洋一	春	水5
		War and Japan	—	奥迫 元	春	水3
		Contemporary Japanese Foreign Policy	—	本多 美樹	秋	木3
2年～ (※)	2	社会科学創造的探究: 多文化社会・共生コース	—	劉 傑	秋	木2
				君塚 弘森		
				黒田 智		
				佐藤 洋一		
		Examining Global Issues 1 [Social Problems in Contemporary Japan: Global Comparisons]	—	冷 君暁	春	月3
				冷 君暁		
		Examining Global Issues 2 [Major Themes and Events in Modern Japanese History]	—	冷 君暁	秋	月3
		商業史I	—	君塚 弘森	春	火3
		商業史II	—	君塚 弘森	秋	火3
		比較近代社会思想1	—	寺尾 範野	春	金2
3年～	2	比較近代社会思想2	—	寺尾 範野	秋	金2
		国際人権論1	—	榎居 健子	春	水3
		国際人権論2	—	榎居 健子	秋	水3
		ジェンダーの社会学2	—	釜野 さおり	秋	月4
		観光学	—	隔年休講		
		日本文学2	—	山崎 薫	秋	月3
		日本文化研究	—	山崎 薫	秋	水3
		文化の社会学	—	周藤 真也	秋	水3
		中国研究1	—	劉 傑	春	水3
		中国研究2	—	劉 傑	秋	水3
		国際NGO協力論	—	山田 満	春	火3
		国際教育協力論	—	山崎 瑛莉	夏ク	火4 火5

Ⅲ. 学科目配当表

学科目配当表

コース科目 サステナビリティコース

(※) 配当年次「1年～」・「2年～」の科目については、コース選択後の2年次秋学期より履修可能です。

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日・時間
1年～ (※)	2	生態学 1	—	隔年休講		
		生態学 2	—	赤尾 健一	春	フルOD
		自然地理学 I	—	小森 次郎	春	月3
		自然地理学 II	—	小森 次郎	秋	月3
		国際法 1	—	福永 有夏	春	水3
		地理情報システム論 I	—	大場 亨	春	土2
		地理情報システム論 II	—	大場 亨	秋	土2
		地域計画システム論 I	—	落合 基継	夏ク	月4
		地域計画システム論 II	—	落合 基継	冬ク	フルOD
		理論人類学 1	—	中橋 涉	春	火4
		理論人類学 2	—	中橋 涉	秋	火4
		環境科学概論	—	有賀 敏典	秋	火4
		開発社会論	—	浜本 篤史	夏ク	水5
		イオン環境財団寄附講座 サステナブルコミュニティ論	—	早田 幸	秋	金5
			—	岡田 久典		
			—	黒川 哲志		
			—	中野 健太郎		
			—	益子 智之		
2年～ (※)	2	社会科学創造的探究: サステナビリティコース	A	黒川 哲志	秋	水5
				赤尾 健一		
				弦間 正彦		
				中橋 涉		
				鷲津 明由		
			B	黒川 哲志	秋	水5
				赤尾 健一		
				弦間 正彦		
				中橋 涉		
				鷲津 明由		
		産業構造論	—	鷲津 明由	春	水2
		食料と農業の経済学 1〔食料需給の決定要因と食料問題・農業調整問題〕	—	弦間 正彦	春	フルOD
		食料と農業の経済学 2〔日本の経験と教訓〕	—	弦間 正彦	秋	フルOD
		環境社会学 1	—	浜本 篤史	春ク	水5
		環境社会学 2	—	湯浅 陽一	秋	フルOD
		都市復興デザイン論	—	益子 智之	秋ク	木1
		環境経済学 I	—	赤尾 健一	秋	月3
		環境経済学 II	—	休講		
3年～	2	環境法 1〔公害規制法〕	—	黒川 哲志	夏ク	火4 金4
		環境法 2〔自然保護法〕	—	黒川 哲志	秋ク	火4 金4
		環境の産業連関分析	—	鷲津 明由	秋	月2
		環境共生社会論	—	休講		
		環境政治学	—	休講		

コース科目 コミュニティ・社会デザインコース

(※) 配当年次「1年～」・「2年～」の科目については、コース選択後の2年次秋学期より履修可能です。

配当年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日・時間
1年～ (※)	2	地理情報システム論 I	—	大場 亨	春	土2
		地理情報システム論 II	—	大場 亨	秋	土2
		コミュニティデザイン	—	益子 智之	春ク	木1 木2
		地域計画システム論 I	—	落合 基継	夏ク	月4 フルOD
		地域計画システム論 II	—	落合 基継	冬ク	月4 フルOD
		開発社会論	—	浜本 篤史	夏ク	水5 その他
		イオン環境財団寄附講座 サステナブルコミュニティ論	—	早田 幸	秋	金5
			—	岡田 久典		
			—	黒川 哲志		
			—	中野 健太郎		
			—	益子 智之		
		Urban History of Tokyo	—	佐藤 洋一	春	水5
		Introduction to Rural Development	—	落合 基継	春	水4
		社会科学創造的探究: コミュニティ・社会デザインコース	—	早田 幸	冬ク	金3 フルOD
			—	落合 基継		
			—	佐藤 洋一		
			—	益子 智之		
			—	山田 寛邦		
2年～ (※)	2	地域自治論 1	—	稲生 信男	春	火2
		地域自治論 2	—	稲生 信男	秋	火2
		比較近代社会思想 1	—	寺尾 範野	春	金2
		比較近代社会思想 2	—	寺尾 範野	秋	金2
		観光学	—	隔年休講		
		環境社会学 1	—	浜本 篤史	春ク	水5 フルOD
		環境社会学 2	—	湯浅 陽一	秋	木3
		都市復興デザイン論	—	益子 智之	秋ク	木1 木2
		社会デザインの思考と技法 1〔他者と関わりを持つということ〕	—	佐藤 洋一	秋ク	火2 火3
			—	落合 基継		
			—	清水 健太		
			—	瀬尾 夏美		
			—	周藤 真也		
		社会デザインの思考と技法 2〔フィールドでの技術〕	—	早田 幸	冬ク	火2 火3
			—	益子 智之		
			—	佐藤 洋一		
			—	落合 基継		
			—	早田 幸		
		社会デザインの思考と技法 3〔社会言語としての写真・映像〕	—	佐藤 洋一	春ク	火2 火3 月4 月5
			—	磯崎 未菜		
			—	百武 ひろ子		
			—	佐藤 洋一		
			—	小林 七緒		
		文化の社会学	—	周藤 真也	秋	水3
		Community Design: History, Method and Practice	—	益子 智之	春ク	水2 水3
3年～	2	制度設計の経済学 I	—	笠島 洋一	春	水2
		制度設計の経済学 II	—	笠島 洋一	秋	水2
		イタリアの都市づくり	—	益子 智之	冬ク	木1 木2
			—			

コース科目 組織・社会イノベーションコース

(※) 配当年次「1年～」・「2年～」の科目については、コース選択後の2年次秋学期より履修可能です。

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日・時間
1年～ (※)	2	国際経済法Ⅰ	—	福永 有夏	秋	水3
		科学技術・イノベーション概論	—	島岡 未来子	春	木2
				丸山 浩平		
				岡村 麻子		
				斉藤 卓也		
				手嶋 達也		
				湯沢 友之		
		ディーセント・ワーク2	—	隔年休講		
Understanding the Japanese Economy: Macroeconomic Perspectives	—	隔年休講				
2年～ (※)	2	Understanding the Japanese Economy: Microeconomic Perspectives	—	弦間 正彦	春	フルOD
		Theories of Social Business Cooperation	—	下田 恭美	春	水3
		Theories of Social Business	—	下田 恭美	秋	水3
		社会科学創造的探究：組織・社会イノベーションコース	—	好川 透	秋	木2
				北村 能寛		
				小山 淑子		
				鄭 有希		
				長谷川 信次		
		労働市場法	—	滝原 啓允	秋	金4
		産業構造論	—	鷲津 明由	春	水2
		国際金融論	—	北村 能寛	秋	火3
		商業史Ⅰ	—	君塚 弘泰	春	火3
		商業史Ⅱ	—	君塚 弘泰	秋	火3
		グローバルビジネス論1	—	長谷川 信次	秋	水2
		グローバルビジネス論2	—	長谷川 信次	秋	水3
組織行動論	—	鄭 有希	冬ク	水2 水3		
組織イノベーション1	—	好川 透	春	火3		
組織イノベーション2	—	好川 透	秋	火3		
アントレプレナーシップ	—	輪屋 泰隆	秋	水4		
社会イノベーション	—	小山 淑子	秋	金3		
3年～	2	研究開発戦略	—	休講		
		会社法3（組織再編・M&A）	—	隔年休講		
		労使関係法	—	鈴木 俊晴	春	金5
		制度設計の経済学Ⅰ	—	笠島 洋一	春	水2
		制度設計の経済学Ⅱ	—	笠島 洋一	秋	水2
		Professionals Innovating Work 1: Exploring New Work and Life Styles in the Changing World	—	小山 淑子	秋ク	火2 火3
		Professionals Innovating Work 2: Getting to Know the World of Work	—	小山 淑子	春ク	金2 金3
		3年～	4	産業組織論	—	土門 晃二

学科目配当表

Ⅲ. 学科目配当表

ゼミナールⅠ

配当 年次	単位	科目名	教員氏名	学期	曜日・時間
2年～	2	ゼミナールⅠ(中国研究／秋学期)	劉 傑	秋	火5
		ゼミナールⅠ(環境及び資源経済学研究／秋学期)	赤尾 健一	秋	月4
		ゼミナールⅠ(コミュニティ開発／秋学期)	早田 幸	秋	火4
		ゼミナールⅠ(現代社会学研究／秋学期)	周藤 真也	秋	水4
		ゼミナールⅠ(異文化コミュニケーション研究／秋学期)	花光 里香	秋	水3
		ゼミナールⅠ(メディアと言語の研究／秋学期)	笹原 宏之	秋	月4
		ゼミナールⅠ(政治思想研究／秋学期)	厚見 恵一郎	秋	火4
		ゼミナールⅠ(国際関係研究／秋学期)	奥田 元	秋	火3
		ゼミナールⅠ(契約法研究／秋学期)	吉田 和夫	秋	火4
		ゼミナールⅠ(Study of Environmental Law／秋学期)	黒川 哲志	秋	火4
		ゼミナールⅠ(国際経済法研究／秋学期)	福永 有夏	秋	水4
		ゼミナールⅠ(医療と法／秋学期)	横野 恵	秋	水3
		ゼミナールⅠ(Economic Analysis of the World Economy／秋学期)	張間 正彦	秋	月5
		ゼミナールⅠ(経済と環境の裏面分析／秋学期)	菅津 明由	秋	水4
		ゼミナールⅠ(情報産業の経済分析／秋学期)	土門 晃二	秋	水4
		ゼミナールⅠ(ゲーム理論とその応用／秋学期)	戸田 学	秋	火4
		ゼミナールⅠ(多国籍企業の研究／秋学期)	長谷川 信次	秋	火4
		ゼミナールⅠ(企業財務論研究／秋学期)	黒山 康典	秋	火4
		ゼミナールⅠ(財務会計研究／秋学期)	菅野 浩勢	秋	金3
		ゼミナールⅠ(刑法研究／秋学期)	仲道 祐樹	秋	火5
		ゼミナールⅠ(空間映像研究／秋学期)	佐藤 洋一	秋	火5
		ゼミナールⅠ(Study of International Financial Systems／秋学期)	北村 能寛	秋	水4
		ゼミナールⅠ(比較政治研究／秋学期)	池谷 知明	秋	水5
		ゼミナールⅠ(応用マクロ経済学研究／秋学期)	及川 浩希	秋	水2
		ゼミナールⅠ(公共文化研究／秋学期)	小長谷 英代	秋	(未定)
		ゼミナールⅠ(経営科学／秋学期)	須子 結太	秋	火4
		ゼミナールⅠ(制度設計の経済学／秋学期)	安島 洋一	秋	水4
		ゼミナールⅠ(比較経済史研究／秋学期)	君塚 弘森	秋	水3
		ゼミナールⅠ(社会科学の哲学／秋学期)	吉田 敬	秋	水2
		ゼミナールⅠ(行政・地域自治研究／秋学期)	福生 信男	秋	水3
		ゼミナールⅠ(哲学・倫理学／秋学期)	千葉 清史	秋	火4
		ゼミナールⅠ(福祉社会学研究／秋学期)	寺尾 龍吉	秋	火3
		ゼミナールⅠ(農村デザイン研究／秋学期)	落合 基継	秋	火4
		ゼミナールⅠ(人間進化モデル／秋学期)	中橋 渉	秋	月5
		ゼミナールⅠ(選挙・世論研究／秋学期)	遠藤 品久	秋	水2
		ゼミナールⅠ(応用計量経済学研究／秋学期)	荒井 洋一	秋	水4
		ゼミナールⅠ(情報科学／秋学期)	中島 健一	秋	水2
		ゼミナールⅠ(社会保障と人権／秋学期)	横野 恵	秋	火4
		ゼミナールⅠ(スペイン語圏の社会と文化／秋学期)	寺尾 龍吉	秋	水3
		ゼミナールⅠ(多言語社会の会話研究／秋学期)	古川 敬明	秋	水4
		ゼミナールⅠ(平和学研究／秋学期)	堀 芳枝	秋	金4
		ゼミナールⅠ(現代社会における基本的人権と民主主義／秋学期)	阪口 正二郎	秋	金3
		ゼミナールⅠ(Organizational Behavior and Human Resource Management／秋学期)	鄭 有希	秋	水4
		ゼミナールⅠ(Violence, Conflict and Development／秋学期)	小山 淑子	秋	水3
		ゼミナールⅠ(日本文化史／秋学期)	黒田 智	秋	火2
		ゼミナールⅠ(Global Business and Organizational Leadership／秋学期)	好川 透	秋	火4
		ゼミナールⅠ(Gender, Sexuality and Society／秋学期)	釜野 さおり	秋	水2
		ゼミナールⅠ(西洋服飾史／秋学期)	前倉 三枝	秋	水4
		ゼミナールⅠ(経営組織研究／秋学期)	小阪 玄次郎	秋	火3
		ゼミナールⅠ(都市・地域デザイン研究／秋学期)	益子 智之	秋	火5
		ゼミナールⅠ(政治過程論／秋学期)	安中 進	秋	金4
		ゼミナールⅠ(日本文学研究／秋学期)	山崎 薫	秋	火3
		ゼミナールⅠ(労働研究／秋学期)		秋	休講
		ゼミナールⅠ(Modern Japanese Studies／秋学期)		秋	休講
		ゼミナールⅠ(ヨーロッパ市民社会研究／秋学期)		秋	休講
		ゼミナールⅠ(人間の安全保障／秋学期)		秋	休講
		ゼミナールⅠ(雇用社会の法／秋学期)		秋	休講
		ゼミナールⅠ(開発・環境社会学研究／秋学期)		秋	休講

ゼミナールⅡ

配当 年次	単位	科目名	教員氏名	学期	曜日・時間
3年～	2	ゼミナールⅡ(労働研究／春学期)	篠田 徹	春	金2
		ゼミナールⅡ(労働研究／春学期)	小山 淑子	秋	水2
		ゼミナールⅡ(中国研究／春学期)	劉 傑	春	火4
		ゼミナールⅡ(中国研究／春学期)	劉 傑	秋	火4
		ゼミナールⅡ(環境及び資源経済学研究／春学期)	赤尾 健一	春	月5
		ゼミナールⅡ(環境及び資源経済学研究／春学期)	赤尾 健一	秋	月5
		ゼミナールⅡ(コミュニティ開発／春学期)	早田 幸	春	火5
		ゼミナールⅡ(コミュニティ開発／春学期)	早田 幸	秋	火5
		ゼミナールⅡ(現代社会学研究／春学期)	周藤 真也	春	水4
		ゼミナールⅡ(現代社会学研究／春学期)	周藤 真也	秋	水5
		ゼミナールⅡ(異文化コミュニケーション研究／春学期)	花光 里香	春	水2
		ゼミナールⅡ(異文化コミュニケーション研究／春学期)	花光 里香	秋	水2
		ゼミナールⅡ(メディアと言語の研究／春学期)	笹原 宏之	春	月5
		ゼミナールⅡ(メディアと言語の研究／春学期)	笹原 宏之	秋	月5
		ゼミナールⅡ(政治思想研究／春学期)	厚見 恵一郎	春	火5
		ゼミナールⅡ(政治思想研究／春学期)	厚見 恵一郎	秋	火5
		ゼミナールⅡ(国際関係研究／春学期)	奥田 元	春	火3
		ゼミナールⅡ(国際関係研究／春学期)	奥田 元	秋	火4
		ゼミナールⅡ(契約法研究／春学期)	吉田 和夫	春	火3
		ゼミナールⅡ(契約法研究／春学期)	吉田 和夫	秋	火3
		ゼミナールⅡ(Study of Environmental Law／春学期)	黒川 哲志	春	水4
		ゼミナールⅡ(Study of Environmental Law／春学期)	黒川 哲志	秋	水4
		ゼミナールⅡ(国際経済法研究／春学期)	福永 有夏	春	水5
		ゼミナールⅡ(国際経済法研究／春学期)	福永 有夏	秋	水5
		ゼミナールⅡ(医療と法／春学期)	横野 恵	春	水2
		ゼミナールⅡ(医療と法／春学期)	横野 恵	秋	水2
		ゼミナールⅡ(Economic Analysis of the World Economy／春学期)	張間 正彦	春	月4
		ゼミナールⅡ(Economic Analysis of the World Economy／春学期)	張間 正彦	秋	月4
		ゼミナールⅡ(経済と環境の裏面分析／春学期)	菅津 明由	春	水3
		ゼミナールⅡ(経済と環境の裏面分析／春学期)	菅津 明由	秋	水3
		ゼミナールⅡ(情報産業の経済分析／春学期)	土門 晃二	春	水4
		ゼミナールⅡ(情報産業の経済分析／春学期)	土門 晃二	秋	水4
		ゼミナールⅡ(ゲーム理論とその応用／春学期)	戸田 学	春	火5
		ゼミナールⅡ(ゲーム理論とその応用／春学期)	戸田 学	秋	火5
		ゼミナールⅡ(マーケティング管理研究／春学期)	野口 智雄	春	金3
		ゼミナールⅡ(マーケティング管理研究／春学期)	野口 智雄	秋	金3
		ゼミナールⅢ(多国籍企業の研究／春学期)	長谷川 信次	春	火4
		ゼミナールⅢ(多国籍企業の研究／春学期)	竹之内 秀行	秋	火4
		ゼミナールⅢ(多国籍企業の研究／春学期)	長谷川 信次	秋	火4
		ゼミナールⅢ(企業財務論研究／春学期)	黒山 康典	春	水5
		ゼミナールⅢ(企業財務論研究／春学期)	黒山 康典	秋	水5
		ゼミナールⅢ(財務会計研究／春学期)	菅野 浩勢	春	月3
		ゼミナールⅢ(財務会計研究／春学期)	菅野 浩勢	秋	月3
		ゼミナールⅢ(刑法研究／春学期)	仲道 祐樹	春	火4
		ゼミナールⅢ(刑法研究／春学期)	仲道 祐樹	秋	火4
		ゼミナールⅢ(空間映像研究／春学期)	佐藤 洋一	春	火4
		ゼミナールⅢ(空間映像研究／春学期)	佐藤 洋一	秋	火4
		ゼミナールⅢ(Study of International Financial Systems／春学期)	北村 能寛	春	水3
		ゼミナールⅢ(Study of International Financial Systems／春学期)	北村 能寛	秋	水3
		ゼミナールⅢ(比較政治研究／春学期)	池谷 知明	春	水4
		ゼミナールⅢ(比較政治研究／春学期)	池谷 知明	秋	水4
		ゼミナールⅢ(応用マクロ経済学研究／春学期)	及川 浩希	春	月4
		ゼミナールⅢ(応用マクロ経済学研究／春学期)	及川 浩希	秋	月4
		ゼミナールⅢ(公共文化研究／春学期)	小長谷 英代	秋	火5
		ゼミナールⅢ(公共文化研究／春学期)	小長谷 英代	春	火5
		ゼミナールⅢ(経営科学／春学期)	須子 結太	春	水4
		ゼミナールⅢ(経営科学／春学期)	須子 結太	秋	水4
		ゼミナールⅢ(制度設計の経済学／春学期)	安島 洋一	春	金2
		ゼミナールⅢ(制度設計の経済学／春学期)	安島 洋一	秋	金2
		ゼミナールⅢ(比較経済史研究／春学期)	君塚 弘森	春	火4
		ゼミナールⅢ(比較経済史研究／春学期)	君塚 弘森	秋	火4
		ゼミナールⅢ(社会科学の哲学／春学期)	吉田 敬	春	月4
		ゼミナールⅢ(社会科学の哲学／春学期)	吉田 敬	秋	月4
		ゼミナールⅢ(行政・地域自治研究／春学期)	福生 信男	春	水4
		ゼミナールⅢ(行政・地域自治研究／春学期)	福生 信男	秋	水4
		ゼミナールⅢ(哲学・倫理学／春学期)	千葉 清史	春	火4
		ゼミナールⅢ(哲学・倫理学／春学期)	千葉 清史	秋	火4
		ゼミナールⅢ(Modern Japanese Studies／春学期)	寺 君映	春	水4
		ゼミナールⅢ(Modern Japanese Studies／春学期)	寺 君映	秋	水4
		ゼミナールⅢ(ヨーロッパ市民社会研究／春学期)	最良 千乃	春	水5
		ゼミナールⅢ(ヨーロッパ市民社会研究／春学期)	最良 千乃	秋	水5
		ゼミナールⅢ(福祉社会学研究／春学期)	寺尾 龍吉	春	火4
		ゼミナールⅢ(福祉社会学研究／春学期)	寺尾 龍吉	秋	火4
		ゼミナールⅢ(農村デザイン研究／春学期)	落合 基継	春	火5
		ゼミナールⅢ(農村デザイン研究／春学期)	落合 基継	秋	火5
		ゼミナールⅢ(人間進化モデル／春学期)	中橋 渉	春	月4
		ゼミナールⅢ(人間進化モデル／春学期)	中橋 渉	秋	月4
		ゼミナールⅢ(選挙・世論研究／春学期)	遠藤 品久	春	水3
		ゼミナールⅢ(選挙・世論研究／春学期)	遠藤 品久	秋	水3
		ゼミナールⅢ(応用計量経済学研究／春学期)	荒井 洋一	春	水5
		ゼミナールⅢ(応用計量経済学研究／春学期)	荒井 洋一	秋	水5
		ゼミナールⅢ(情報科学／春学期)	中島 健一	春	水3
		ゼミナールⅢ(情報科学／春学期)	中島 健一	秋	水3
		ゼミナールⅢ(社会保障と人権／春学期)	横野 恵	春	火5
		ゼミナールⅢ(社会保障と人権／春学期)	横野 恵	秋	火5
		ゼミナールⅢ(人間の安全保障／春学期)	内川 明佳	春	月2
		ゼミナールⅢ(人間の安全保障／春学期)	内川 明佳	秋	月2
		ゼミナールⅢ(雇用社会の法／春学期)	鈴木 敬雄	春	火5
		ゼミナールⅢ(雇用社会の法／春学期)	鈴木 敬雄	秋	火5
		ゼミナールⅢ(スペイン語圏の社会と文化／春学期)	寺尾 龍吉	春	水4
		ゼミナールⅢ(スペイン語圏の社会と文化／春学期)	寺尾 龍吉	秋	水4
		ゼミナールⅢ(多言語社会の会話研究／春学期)	古川 敬明	春	水3
		ゼミナールⅢ(多言語社会の会話研究／春学期)	古川 敬明	秋	水3
		ゼミナールⅢ(開発・環境社会学研究／春学期)	浜本 康史	春	水3
		ゼミナールⅢ(開発・環境社会学研究／春学期)	周藤 真也	秋	水2
		ゼミナールⅢ(平和学研究／春学期)	堀 芳枝	春	金3
		ゼミナールⅢ(平和学研究／春学期)	堀 芳枝	秋	金3
		ゼミナールⅢ(現代社会における基本的人権と民主主義／春学期)	阪口 正二郎	春	火3
		ゼミナールⅢ(現代社会における基本的人権と民主主義／春学期)	阪口 正二郎	秋	火3
		ゼミナールⅢ(Organizational Behavior and Human Resource Management／春学期)	金 素延	春	水5
		ゼミナールⅢ(Organizational Behavior and Human Resource Management／春学期)	鄭 有希	秋	水5
		ゼミナールⅢ(Violence, Conflict and Development／春学期)	小山 淑子	春	水2
		ゼミナールⅢ(Violence, Conflict and Development／春学期)	小山 淑子	秋	水2
		ゼミナールⅢ(日本文化史／春学期)	黒田 智	春	火3
		ゼミナールⅢ(日本文化史／春学期)	黒田 智	秋	火3
		ゼミナールⅢ(Global Business and Organizational Leadership／春学期)	好川 透	春	火4
		ゼミナールⅢ(Global Business and Organizational Leadership／春学期)	好川 透	秋	火5
		ゼミナールⅢ(Gender, Sexuality and Society／春学期)	釜野 さおり	春	水4
		ゼミナールⅢ(Gender, Sexuality and Society／春学期)	釜野 さおり	秋	水4
		ゼミナールⅢ(西洋服飾史／春学期)	前倉 三枝	春	水3
		ゼミナールⅢ(西洋服飾史／春学期)	前倉 三枝	秋	水3
		ゼミナールⅢ(経営組織研究／春学期)	小阪 玄次郎	春	火4
		ゼミナールⅢ(経営組織研究／春学期)	小阪 玄次郎	秋	火4
		ゼミナールⅢ(都市・地域デザイン研究／春学期)	益子 智之	春	火4
		ゼミナールⅢ(都市・地域デザイン研究／春学期)	益子 智之	秋	火4
		ゼミナールⅢ(政治過程論／春学期)	安中 進	春	金5
		ゼミナールⅢ(政治過程論／春学期)	安中 進	秋	金5
		ゼミナールⅢ(日本文学研究／春学期)	山崎 薫	春	火4
		ゼミナールⅢ(日本文学研究／春学期)	山崎 薫	秋	火4

Ⅲ. 学科目配当表

ゼミナール Ⅲ					
配当 年次	単位	科目名	教員氏名	学期	曜日時限
4年～	2	ゼミナールⅢ(労働研究／春学期)	篠田 徹	春	金2
		ゼミナールⅢ(労働研究／秋学期)	小山 淑子	秋	水2
		ゼミナールⅢ(中国研究／春学期)	劉 傑	春	火4
		ゼミナールⅢ(中国研究／秋学期)	劉 傑	秋	火4
		ゼミナールⅢ(環境及び資源経済学研究／春学期)	森屋 健一	春	月5
		ゼミナールⅢ(環境及び資源経済学研究／秋学期)	森屋 健一	秋	月5
		ゼミナールⅢ(コミュニケーション関係／春学期)	早田 幸	春	火5
		ゼミナールⅢ(コミュニケーション関係／秋学期)	早田 幸	秋	火5
		ゼミナールⅢ(現代社会学研究／春学期)	藤原 真也	春	水4
		ゼミナールⅢ(現代社会学研究／秋学期)	藤原 真也	秋	水5
		ゼミナールⅢ(異文化コミュニケーション研究／春学期)	花光 里香	春	水2
		ゼミナールⅢ(異文化コミュニケーション研究／秋学期)	花光 里香	秋	水2
		ゼミナールⅢ(メディアと言語の研究／春学期)	笹原 宏之	春	月5
		ゼミナールⅢ(メディアと言語の研究／秋学期)	笹原 宏之	秋	月5
		ゼミナールⅢ(政治思想研究／春学期)	厚見 真一郎	春	火5
		ゼミナールⅢ(政治思想研究／秋学期)	厚見 真一郎	秋	火5
		ゼミナールⅢ(国際関係研究／春学期)	奥迫 元	春	火3
		ゼミナールⅢ(国際関係研究／秋学期)	奥迫 元	秋	火4
		ゼミナールⅢ(契約法研究／春学期)	吉田 和夫	春	火3
		ゼミナールⅢ(契約法研究／秋学期)	吉田 和夫	秋	火3
		ゼミナールⅢ(会社法研究／春学期)	川島 いづみ	春	金4
		ゼミナールⅢ(会社法研究／秋学期)	川島 いづみ	秋	金4
		ゼミナールⅢ(Study of Environmental Law／春学期)	奥迫 元	春	水4
		ゼミナールⅢ(Study of Environmental Law／秋学期)	奥迫 元	秋	水4
		ゼミナールⅢ(国際経済法研究／春学期)	福永 有夏	春	水5
		ゼミナールⅢ(国際経済法研究／秋学期)	福永 有夏	秋	水5
		ゼミナールⅢ(医療と法／春学期)	横野 真	春	水2
		ゼミナールⅢ(医療と法／秋学期)	横野 真	秋	水2
		ゼミナールⅢ(Economic Analysis of the World Economy／春学期)	枝間 正彦	春	月4
		ゼミナールⅢ(Economic Analysis of the World Economy／秋学期)	枝間 正彦	秋	月4
		ゼミナールⅢ(経済と環境の基盤分析／春学期)	菅澤 明由	春	水3
		ゼミナールⅢ(経済と環境の基盤分析／秋学期)	菅澤 明由	秋	水3
		ゼミナールⅢ(情報産業の経済分析／春学期)	土門 英二	春	水4
		ゼミナールⅢ(情報産業の経済分析／秋学期)	土門 英二	秋	水4
		ゼミナールⅢ(ゲーム理論とその応用／春学期)	戸田 学	春	火5
		ゼミナールⅢ(ゲーム理論とその応用／秋学期)	戸田 学	秋	火5
		ゼミナールⅢ(マーケティング管理研究／春学期)	野口 智雄	春	金3
		ゼミナールⅢ(マーケティング管理研究／秋学期)	野口 智雄	秋	金3
		ゼミナールⅢ(多国籍企業の研究／春学期)	長谷川 信次	春	火4
		ゼミナールⅢ(多国籍企業の研究／秋学期)	長谷川 信次	秋	火4
		ゼミナールⅢ(企業財務論研究／春学期)	高山 康典	春	水5
		ゼミナールⅢ(企業財務論研究／秋学期)	高山 康典	秋	水5
		ゼミナールⅢ(International Cooperation and Peace Building／春学期)	山田 満	春	水4
		ゼミナールⅢ(International Cooperation and Peace Building／秋学期)	山田 満	秋	水4
		ゼミナールⅢ(財務会計研究／春学期)	菅野 浩勢	春	月3
		ゼミナールⅢ(財務会計研究／秋学期)	菅野 浩勢	秋	月3
		ゼミナールⅢ(刑法研究／春学期)	仲道 祐樹	春	火4
		ゼミナールⅢ(刑法研究／秋学期)	仲道 祐樹	秋	火4
		ゼミナールⅢ(労働関係研究／春学期)	佐藤 洋一	春	火4
		ゼミナールⅢ(労働関係研究／秋学期)	佐藤 洋一	秋	火4
		ゼミナールⅢ(Study of International Financial Systems／春学期)	北村 能寛	春	水3
		ゼミナールⅢ(Study of International Financial Systems／秋学期)	北村 能寛	秋	水3
		ゼミナールⅢ(比較政治研究／春学期)	池谷 知明	春	水4
		ゼミナールⅢ(比較政治研究／秋学期)	池谷 知明	秋	水4
		ゼミナールⅢ(応用マクロ経済学研究／春学期)	及川 浩幸	春	月4
		ゼミナールⅢ(応用マクロ経済学研究／秋学期)	及川 浩幸	秋	月4
4年～	2	ゼミナールⅢ(公共文化研究／春学期)	小長谷 英代	秋	火5
		ゼミナールⅢ(経営科学／春学期)	須子 結本	春	水4
		ゼミナールⅢ(経営科学／秋学期)	須子 結本	秋	水4
		ゼミナールⅢ(制度設計の経済学／春学期)	宮島 弘典	春	金2
		ゼミナールⅢ(制度設計の経済学／秋学期)	宮島 弘典	秋	金2
		ゼミナールⅢ(社会科学的哲学／春学期)	吉田 敬	春	月4
		ゼミナールⅢ(制度設計の経済学／春学期)	宮島 洋一	秋	金2
		ゼミナールⅢ(比較経済学研究／春学期)	宮島 弘典	秋	水4
		ゼミナールⅢ(社会科学的哲学／秋学期)	吉田 敬	秋	月4
		ゼミナールⅢ(行政・地域自治研究／春学期)	福生 俊男	春	水4
		ゼミナールⅢ(行政・地域自治研究／秋学期)	福生 俊男	秋	水4
		ゼミナールⅢ(行政・地域自治研究／春学期)	千葉 清史	春	水4
		ゼミナールⅢ(行政・地域自治研究／秋学期)	千葉 清史	秋	水4
		ゼミナールⅢ(哲学・倫理学／春学期)	冷 君誠	春	水4
		ゼミナールⅢ(哲学・倫理学／秋学期)	冷 君誠	秋	水4
		ゼミナールⅢ(ヨーロッパ市民社会研究／春学期)	藤長 千乃	春	水5
		ゼミナールⅢ(ヨーロッパ市民社会研究／秋学期)	藤長 千乃	秋	水5
		ゼミナールⅢ(福祉社会学研究／春学期)	寺原 聡野	春	火4
		ゼミナールⅢ(福祉社会学研究／秋学期)	寺原 聡野	秋	火4
		ゼミナールⅢ(農村デザイン研究／春学期)	落合 基樹	春	火5
		ゼミナールⅢ(農村デザイン研究／秋学期)	落合 基樹	秋	火5
		ゼミナールⅢ(人類進化モデル／春学期)	中根 渉	春	月4
		ゼミナールⅢ(人類進化モデル／秋学期)	中根 渉	秋	月4
		ゼミナールⅢ(選考・世論研究／春学期)	遠藤 昌久	春	火3
		ゼミナールⅢ(選考・世論研究／秋学期)	遠藤 昌久	秋	火3
		ゼミナールⅢ(応用計量経済学研究／春学期)	高井 洋一	春	水5
		ゼミナールⅢ(応用計量経済学研究／秋学期)	高井 洋一	秋	水5
		ゼミナールⅢ(情報科学／春学期)	中島 健一	春	水3
		ゼミナールⅢ(情報科学／秋学期)	中島 健一	秋	水3
		ゼミナールⅢ(人類進化モデル／春学期)	中根 渉	春	火5
		ゼミナールⅢ(人類進化モデル／秋学期)	中根 渉	秋	火5
		ゼミナールⅢ(人間の安全保障／春学期)	内川 明佳	春	月2
		ゼミナールⅢ(人間の安全保障／秋学期)	内川 明佳	秋	月2
		ゼミナールⅢ(雇用社会の法／春学期)	鈴木 俊輔	春	月5
		ゼミナールⅢ(雇用社会の法／秋学期)	遠原 啓介	秋	金6
		ゼミナールⅢ(スペイン語圏の社会と文化／春学期)	寺原 隆直	春	水4
		ゼミナールⅢ(スペイン語圏の社会と文化／秋学期)	寺原 隆直	秋	水4
		ゼミナールⅢ(多言語社会の食話研究／春学期)	古川 敏明	春	水3
		ゼミナールⅢ(多言語社会の食話研究／秋学期)	古川 敏明	秋	水3
		ゼミナールⅢ(開発・環境社会学研究／春学期)	浜本 祐史	春	水3
		ゼミナールⅢ(開発・環境社会学研究／秋学期)	藤原 真也	秋	水2
		ゼミナールⅢ(平和学研究／春学期)	堀 芳枝	春	金3
		ゼミナールⅢ(平和学研究／秋学期)	堀 芳枝	秋	金3
		ゼミナールⅢ(現代社会における基本的人権と民主主義／春学期)	飯口 正二郎	春	火3
		ゼミナールⅢ(現代社会における基本的人権と民主主義／秋学期)	飯口 正二郎	秋	火3
		ゼミナールⅢ(Organizational Behavior and Human Resource Management／春学期)	金 素延	春	水5
		ゼミナールⅢ(Organizational Behavior and Human Resource Management／秋学期)	郷 有希	秋	水5
		ゼミナールⅢ(Violence, Conflict and Development／春学期)	小山 淑子	春	水2
		ゼミナールⅢ(Violence, Conflict and Development／秋学期)	小山 淑子	秋	水2
		ゼミナールⅢ(日本文化史／春学期)	黒田 智	春	火3
		ゼミナールⅢ(日本文化史／秋学期)	黒田 智	秋	火3
		ゼミナールⅢ(Global Business and Organizational Leadership／春学期)	好川 透	春	火4
		ゼミナールⅢ(Global Business and Organizational Leadership／秋学期)	好川 透	秋	火5
		ゼミナールⅢ(Gender, Sexuality and Society／春学期)	金野 さおり	春	水4
		ゼミナールⅢ(Gender, Sexuality and Society／秋学期)	金野 さおり	秋	水4
		ゼミナールⅢ(西洋服飾史／春学期)	前島 三枝	春	水3
		ゼミナールⅢ(西洋服飾史／秋学期)	前島 三枝	秋	水3
		ゼミナールⅢ(経営組織研究／春学期)	小原 玄次郎	春	火4
		ゼミナールⅢ(経営組織研究／秋学期)	小原 玄次郎	秋	火4
		ゼミナールⅢ(都市・地域デザイン研究／春学期)	益子 智之	春	火4
		ゼミナールⅢ(都市・地域デザイン研究／秋学期)	益子 智之	秋	火4
		ゼミナールⅢ(政治過程論／春学期)	安中 進	春	金5
		ゼミナールⅢ(政治過程論／秋学期)	安中 進	秋	金5
		ゼミナールⅢ(日本文学研究／春学期)	山崎 重	春	火4
		ゼミナールⅢ(日本文学研究／秋学期)	山崎 重	秋	火4

学科目配当表

必修英語					
配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期 曜日時限
2年～	1	英語1-2(春学期)／スピーチ	A	長谷川 和美	春 月3
			B	根橋 玲子	春 火3
			C	休講	
			D	休講	
		英語1-2(秋学期)／スピーチ	A	長谷川 和美	秋 月3
			B	根橋 玲子	秋 火3
			C	休講	
			D	休講	
1年～	1	ドイツ語1基礎	A	小山田 豊	春 金1
			B	小山田 豊	春 金2
			C	新田 章	春 金2
			D	新田 章	春 金3
			E	中野 愛理	春 月3
		ドイツ語2基礎	A	千葉 清史	春 水3
			B	千葉 清史	春 水2
			C	山中 健義	春 月2
			D	山中 健義	春 月3
			E	繁田 歩	春 金3
		ドイツ語1初級	A	小山田 豊	秋 金1
			B	小山田 豊	秋 金2
			C	新田 章	秋 金2
			D	新田 章	秋 金3
			E	中野 愛理	秋 月3
		ドイツ語2初級	A	千葉 清史	秋 水3
			B	千葉 清史	秋 水2
			C	山中 健義	秋 月2
			D	山中 健義	秋 月3
			E	繁田 歩	秋 金3
		フランス語1基礎	A	大前 元伸	春 月2
			B	堀谷 彰子	春 水1
			C	柴田 恵美	春 水2
			D	綾部 素幸	春 水1
			E	堀谷 彰子	春 水2
		フランス語2基礎	A	柴田 恵美	春 水1
			B	大前 元伸	春 月3
			C	柴田 恵美	春 金3
			D	マルティネル ルイソロ	春 月3
			E	赤羽 悠	春 金2
		フランス語1初級	A	大前 元伸	秋 月2
			B	堀谷 彰子	秋 水1
			C	柴田 恵美	秋 水2
			D	綾部 素幸	秋 水1
			E	堀谷 彰子	秋 水2
		フランス語2初級	A	柴田 恵美	秋 水1
			B	大前 元伸	秋 月3
			C	柴田 恵美	秋 金3
			D	マルティネル ルイソロ	秋 月3
			E	赤羽 悠	秋 金2
中国語1基礎	1	中国語1基礎	A	花井 みわ	春 水3
			B	陳 瑤	春 水1
			C	白 春岩	春 月1
			D	白 春岩	春 月2
			E	花井 みわ	春 水1
			F	白 春岩	春 月3
			G	王 紅艷	春 金1
			H	王 紅艷	春 金2
			I	花井 みわ	春 水2
			J	休講	
			K	休講	
		中国語2基礎	A	黄 媛	春 金1
			B	簡井 紀美	春 金2
			C	稲葉 明子	春 月1
			D	稲葉 明子	春 月2
			E	簡井 紀美	春 金1
			F	陳 瑤	春 金1
			G	黄 媛	春 金2
			H	〔未定〕	春 金1
			I	〔未定〕	春 金2
			J	休講	
			K	休講	
		中国語1初級	A	花井 みわ	秋 水3
			B	陳 瑤	秋 水1
			C	白 春岩	秋 月1
			D	白 春岩	

学科目配当表

Ⅲ. 学科目配当表

教養外国語

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	1	スペイン語1基礎	A	杉守 慶太	春	月1
			B	金澤 直也	春	月3
			C	前田 伸人	春	月2
			D	山本 昭代	春	月2
		スペイン語2基礎	E	倉田 量介	春	月2
			A	杉守 慶太	春	月2
			B	金澤 直也	春	月2
			C	前田 伸人	春	月2
	1	スペイン語1初級	D	山本 昭代	春	月1
			E	倉田 量介	春	月3
			A	杉守 慶太	秋	月1
			B	金澤 直也	秋	月3
		スペイン語2初級	C	前田 伸人	秋	月2
			D	山本 昭代	秋	月1
			E	倉田 量介	秋	月3
			A	杉守 慶太	秋	月2
2年～	1	中国語1基礎	B	金澤 直也	秋	月2
			C	前田 伸人	秋	月3
		中国語2基礎	D	山本 昭代	秋	月1
			E	倉田 量介	秋	月3
		中国語1初級	Y	陳 璚	春	水2
			Z	韓 水	春	金2
		中国語2初級	Y	陳 璚	春	金2
			Z	韓 水	春	金3
	1	スペイン語1基礎	Y	陳 璚	秋	金2
			Z	韓 水	秋	金3
		スペイン語2基礎	Y	陳 璚	秋	金2
			Z	韓 水	秋	金3
		スペイン語1初級	Y	陳 璚	秋	金2
			Z	韓 水	秋	金3
		スペイン語2初級	Y	陳 璚	秋	金2
			Z	韓 水	秋	金3

自由科目

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
3年～	2	職業指導 1	—	小島 貴子	春	金3
		職業指導 2	—	小島 貴子	秋	金3

専門・学際科目 TAISI

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日 時限
1年～	2	Aging and Public Policies in Contemporary Japanese Society	—	晏 子	秋	金4
		Aging and the Life Course	—	晏 子	春	金4
		Anthropology of Japan	—	山本 まゆみ	秋	金4
		Building Local Peace: Field Work Practice	—	香川 めぐみ	冬ク	火2 水2
		Business Administration	—	小阪 玄次郎	秋	木2
		Conflict Transformation	—	香川 めぐみ	春	月2
		Contemporary Japanese Foreign Policy	—	本多 美樹	秋	木3
		Contemporary Japanese Society	—	寺尾 龍野	春	水2
		Contemporary Social Affairs 1	—	ヤン マニエル ミ ナミ	春	火3
		Contemporary Social Affairs 2	—	ヤン マニエル ミ ナミ	秋	火3
		Critical Development Studies	—	小山 淑子	春ク	月2 月3
		Cultural Politics of Japan	—	山本 まゆみ	春	金4
		Culture, Nation, and Modernity	—	小長谷 英代	秋	火3
		Development Economics	—	コーワタナサクン ウツバラット	秋	水3
		Development Studies	—	小山 淑子	冬ク	月2 月3
		Disaster Studies	—	重松 優	春	月4
		East and Southeast Asian Study in Practice	—	コーワタナサクン ウツバラット	春	水2
		Environment and Development	—	コーワタナサクン ウツバラット	秋	水2
		Environmental Law in Japan	—	黒川 哲志	秋	月3
		Evaluating Peacebuilding	—	香川 めぐみ	春	月3
		Evolutionary Anthropology	—	中橋 渉	秋	火3
		Foreign Affairs	—	若林 啓史	春	金2
		Game Theory	—	笠島 洋一	春	木1
		Gender and Development	—	堀 芳枝	春	火2
		Global Food Security : Demand and Supply Challenges	—	弦間 正彦	秋	フルOD
		Globalization	—	チェスノコバ タチャ ナ	春	火3
		Health and Human Rights	—	榎屋 徳子	秋	水5
		Intercultural Communication	—	花光 里香	秋	水4
		International Development Policy	—	チェスノコバ タチャ ナ	秋	木3
		International Finance	—	北村 能寛	冬ク	火2 フルOD
		International Human Resource Management	—	成谷 梓	春	火4
		Introduction to Economics	—	北村 能寛	秋ク	火2 フルOD
		Introduction to Manga and Anime Culture	—	重松 優	春	月3
		Introduction to Mathematical Analysis 1 (Linear Algebra)	—	クヴァンフ デミトリ	秋ク	月2 金2
		Introduction to Mathematical Analysis 2 (Calculus)	—	野邊 厚	冬ク	月2 金4
		Introduction to Rural Development	—	落合 基継	春	水4
		Introduction to Social Business Cooperation	—	下田 恭美	春	火4
		Introduction to Social Research	A	安中 道	秋	フルOD
		Japan and Peacebuilding : Asian Policies	—	山田 満	春	水3
		Japan and World War II. Historical Controversies	—	ホートン ウィリアム ブラッドリー	春	土3
		Japan in the World 1: Japanese Interactions with Europe and America	—	冷 君暁	春	月4
		Japan in the World 2: Japanese Interactions with Asia and the Non-West	—	冷 君暁	秋	月4

専門・学際科目 TAISI

配当 年次	単位	科目名	クラス	教員氏名	学期	曜日時限
1年～	2	Japanese Economic History (Introductory) 01	01	鎮田 雅人	春ク	火1
		Japanese Studies	—	冷 君暁	春	火2
		Labour Market in the Global Economy	—	コーワタナサクン ウツバラット	春	水3
		Liberal, Post-Liberal and Everyday Peacebuilding	—	香川 めぐみ	春	水2
		Markets and Economies: East Asia, Southeast Asia, and Oceania	—	コーワタナサクン ウツバラット	春	火3
		Modern Japanese Social and Cultural History	—	鈴木 貴宇	秋	金3
		Monozukuri Culture in Japanese Society	—	重松 優	秋	月3
		On Identity: A Socio-political Analysis	—	山本 まゆみ	秋	水4
		Postwar Japan-US Relations	—	中林 美恵子	秋	月5
		Problem / Conflict Analysis and Resolution	—	香川 めぐみ	秋	月3
		Regression Analysis for Social Sciences 1: Basics of Regression Analysis, Analysis of Cross-Sectional Data	—	荒井 洋一	春ク	水1
		Regression Analysis for Social Sciences 2: Analysis of Time Series and Panel Data	—	荒井 洋一	夏ク	フルOD
		Social Business	—	下田 恭美	秋	火4
		Social Business Cooperation Projects	—	下田 恭美	春	水4
		Social Business Practicum	—	下田 恭美	秋	水4
		Social Business Projects	—	下田 恭美	秋	水5
		Social Innovation in Global Asia	—	小山 淑子	春ク	火2
		Social Sciences for Sustainable Development	B	本間 まり子	春	木2
		Social Sciences for Sustainable Development	A	本間 まり子	秋	木2
		Sociolinguistics and Multilingualism	—	古川 敏明	春	火4
	2	Synthesis of Conflict Resolution and Social Innovation	—	小山 淑子	冬ク	火2
		The Impact of the National Peace Process on Community Peacebuilding	—	香川 めぐみ	秋	月2
		The Inside of Peacebuilding	—	香川 めぐみ	秋ク	火2
		The Psychology of Peacebuilding	—	香川 めぐみ	春	火2
		Theories of Social Business	—	下田 恭美	秋	水3
		Theories of Social Business Cooperation	—	下田 恭美	春	水3
		Theory of Community Development	—	ドリアンダ リーラ プロビ	春	木2
		Topics in Social and Economic Development 1	—	コーワタナサクン ウツバラット	秋	火3
		Topics in Sustainable Development	—	コーワタナサクン ウツバラット	秋	木2
		Trans-Pacific Perspectives on Race, Ethnicity, and Migration	—	篠田 徹	春	金1
		Trans-Pacific Perspectives on Work, Culture, and Society	—	篠田 徹	春	土1
		Understanding the Japanese Economy: Microeconomic Perspectives	—	弦間 正彦	春	フルOD
		Urban History of Tokyo	—	佐藤 洋一	春	水5
		Urban Living	—	ドリアンダ リーラ プロビ	春	木3
		Urban Studies	—	ドリアンダ リーラ プロビ	春	木5
		War and Japan	—	奥田 元	春	水3
		Women in Modern Japan: Contemporary Japanese Women	—	ホートン ウィリアム ブラッドリー	春	土4
		Women in Modern Japan: Outside Encounters and Early Changes	—	ホートン ウィリアム ブラッドリー	秋	土3
	2	Climate Change and Sustainable Development	—	カン ジン	秋	火1
		Community Design: History, Method and Practice	—	益子 智之	春ク	水2
		Cross-Cultural Organizational Behavior	—	鄭 有希	秋ク	水2
		Economic Growth	—	及川 浩希	春ク	フルOD
		Education and Development	—	山崎 瑛莉	冬ク	火4
		Global Labor Governance 1	—	篠田 徹	春	水1
		Global Labor Governance 2	—	篠田 徹	春	水2
		International Business	—	長谷川 信次	夏ク	水3
		International Development	—	チェスノコバ タチャナ	秋	火3
		Macroeconomics I 02	02	片山 宗親	春	水2
		Macroeconomics I 01	01	ヴェステグ ロベルト フェレンツ	春	火3
		Organizational Innovation 1	—	好川 透	秋	水2
		Organizational Innovation 2	—	好川 透	春	水3
		The World of Cooperative Commonwealth 1	—	篠田 徹	春	木1
		The World of Cooperative Commonwealth 2	—	篠田 徹	春	木2
		The World of Labor Film 1	—	篠田 徹	春	火1
		The World of Labor Film 2	—	篠田 徹	春	火2
		Topics in Social and Economic Development 2	—	コーワタナサクン ウツバラット	春	木1
	2	Professionals Innovating Work 1: Exploring New Work and Life Styles in the Changing World	—	小山 淑子	秋ク	火2
		Professionals Innovating Work 2: Getting to Know the World of Work	—	小山 淑子	春ク	金2

お問い合わせ先

① 科目履修に関するご相談

1 4号館3階 社会科学部事務所

Tel: 03-3204-8952 Email: kamoku18@list.waseda.jp

お問い合わせは極力メールにてお願いします。

お電話や事務所に直接お越しいただいた場合でも、メールのお問い合わせを優先して回答いたします。

【開室時間】授業期間中) 月-金：10時～16時

授業期間外) 月-金：10時～16時

※土曜・日曜・祝日は閉室です。

※最新の開室時間は社会科学部Webサイトをご確認ください。

② Web 科目登録に関するご質問

IT サービス ヘルプデスク (24時間受付)

【問い合わせ方法】

MyWaseda (my.waseda.jp) 「成績照会・科目登録専用」

→「お問い合わせフォーム」

※質問は24時間受け付けていますが、回答が翌日以降になる場合があります。

※各登録期間終了間際の問合せには回答できない場合があります。

時間に余裕をもって科目登録を行ってください。

③ MyWaseda の ID/PASS に関するご質問

7号館1階 早稲田ポータルオフィス

URL: <https://www.waseda.jp/wpo/>

